

食育に関する意識調査（アンケート）

調査結果報告書



平成27年3月

横浜市

平成26年度 食育に関する意識調査

目 次

I 調査概要.....	1
II. 回答者の属性.....	3
III. 調査結果.....	7
1. ふだんの生活について	7
2. 食事の状況について	10
3. 食育について	26
4. 食の安全や食に関する情報について	51
調査票.....	エラー! ブックマークが定義されていません。

I 調査概要

1 調査目的

横浜市食育推進計画（計画期間：平成22年度から27年度まで）で設定した、数値目標の達成状況を把握・検証するとともに、第2期横浜市食育推進計画（平成28年度から32年度）や食育の取組に、市民の皆様の御意見を反映するため。

2 調査概要

調査地域	横浜市全域																
調査手法	郵送調査																
調査対象	横浜市民 5,000 人（13 歳未満は保護者等が代理記入）																
調査標本	6 階層において、18 区・男女別で同数ずつ <table border="1"><thead><tr><th></th><th>配布数</th></tr></thead><tbody><tr><td>乳幼児期(0～6 歳)</td><td>800</td></tr><tr><td>学童期(7～12 歳)</td><td>800</td></tr><tr><td>思春期(13～19 歳)</td><td>900</td></tr><tr><td>成人期(20～39 歳)</td><td>900</td></tr><tr><td>壮年期(40～64 歳)</td><td>800</td></tr><tr><td>高齢期(65 歳以上)</td><td>800</td></tr><tr><td>全体</td><td>5,000</td></tr></tbody></table>		配布数	乳幼児期(0～6 歳)	800	学童期(7～12 歳)	800	思春期(13～19 歳)	900	成人期(20～39 歳)	900	壮年期(40～64 歳)	800	高齢期(65 歳以上)	800	全体	5,000
	配布数																
乳幼児期(0～6 歳)	800																
学童期(7～12 歳)	800																
思春期(13～19 歳)	900																
成人期(20～39 歳)	900																
壮年期(40～64 歳)	800																
高齢期(65 歳以上)	800																
全体	5,000																
調査期間	平成 26 年 11 月 4 日（火）から 11 月 17 日（月） 平成 26 年 11 月 30 日（日）分まで反映																
調査内容	1 ふだんの生活について（睡眠時間、健康状態 等） 2 食事の状況について（食事の摂取状況、食生活で気をつけたいこと 等） 3 食育について（食育の関心度、食育の関心事項、地産地消の認知度 等） 4 食の安全や食に関する情報について（食の安全の認知度、食中毒を防ぐために家庭で気をつけていること 等）																

3 回収結果

回収数 2,026票（回収率 40.5%）

※平成24年度調査 回収数 2,025票（回収率 40.5%）

区別及び年齢別の回収結果は下表のとおり。

階層別回収状況

	度数	割合
乳幼児期(0～6歳)	179	8.8%
学童期(7～12歳)	196	9.7%
思春期(13～19歳)	264	13.0%
成人期(20～39歳)	357	17.6%
壮年期(40～64歳)	420	20.7%
高齢期(65歳以上)	417	20.6%
無回答	193	9.5%
合計	2,026	100.0%

年代別回収状況

	度数	割合
0～9歳	260	12.8%
10～19歳	379	18.7%
20～29歳	119	5.9%
30～39歳	238	11.7%
40～49歳	240	11.8%
50～59歳	117	5.8%
60～69歳	177	8.7%
70～79歳	201	9.9%
80歳以上	102	5.0%
無回答	193	9.5%
合計	2,026	100.0%

区別回収状況

	度数	割合
青葉区	103	5.1%
旭区	118	5.8%
泉区	114	5.6%
磯子区	114	5.6%
神奈川区	119	5.9%
金沢区	124	6.1%
港南区	106	5.2%
港北区	107	5.3%
栄区	120	5.9%
瀬谷区	103	5.1%
都筑区	101	5.0%
鶴見区	102	5.0%
戸塚区	119	5.9%
中区	105	5.2%
西区	114	5.6%
保土ヶ谷区	113	5.6%
緑区	118	5.8%
南区	107	5.3%
無回答	19	0.9%
合計	2,026	100.0%

4 集計結果の見方

分析方法 統計分析は横浜市衛生研究所が行った。

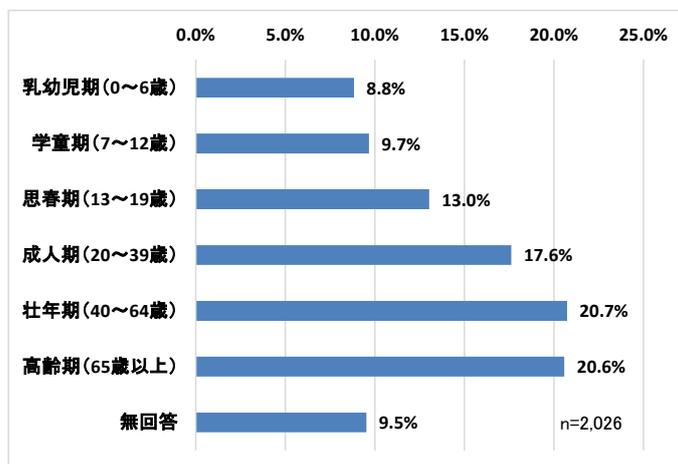
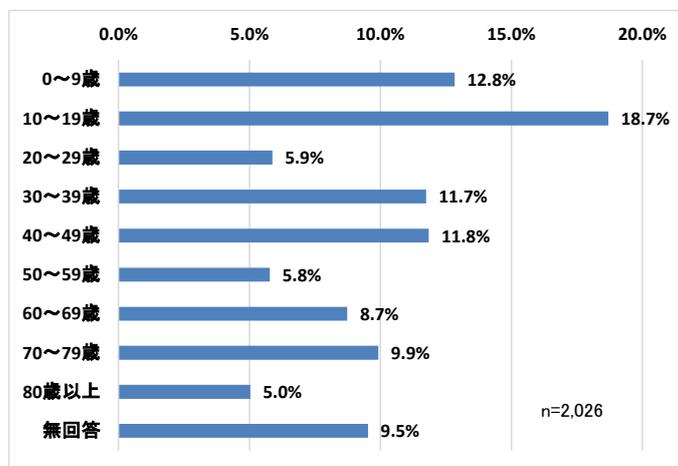
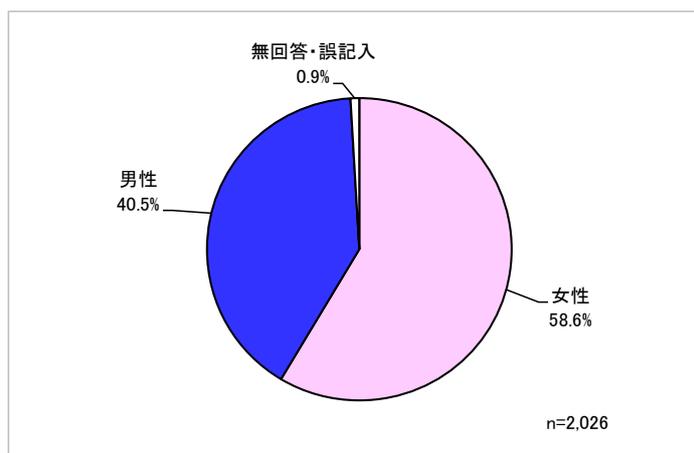
< 報告書を見る際の注意点 >

- ① 各図中の右側に示した「n=〇〇」は、その質問や集計に対しての「有効回答者数」を表す。
- ② 調査結果の比率はすべて百分率で表し、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。そのため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- ③ 設問文の中に複数回答が可能な設問は、回答の合計は100%を上回る。
- ④ 選択肢の中で、第1位の項目については、濃いピンクで塗りつぶしている。
属性別にみて、特徴的な項目（他の数値と比べて概ね10ポイント以上数値が高い項目）については、薄いピンクで塗りつぶしている。
- ⑤ 本文中の表現について、平成21年度（前々回）調査は、「平成21年度食育に関する意識調査」（横浜市実施）のことを、平成24年度（前回）調査は、「平成24年度食育に関する意識調査」（横浜市実施）のことをいう。
内閣府調査は、「平成25年度食育に関する意識調査」（内閣府実施）のことをいう。

II. 回答者の属性

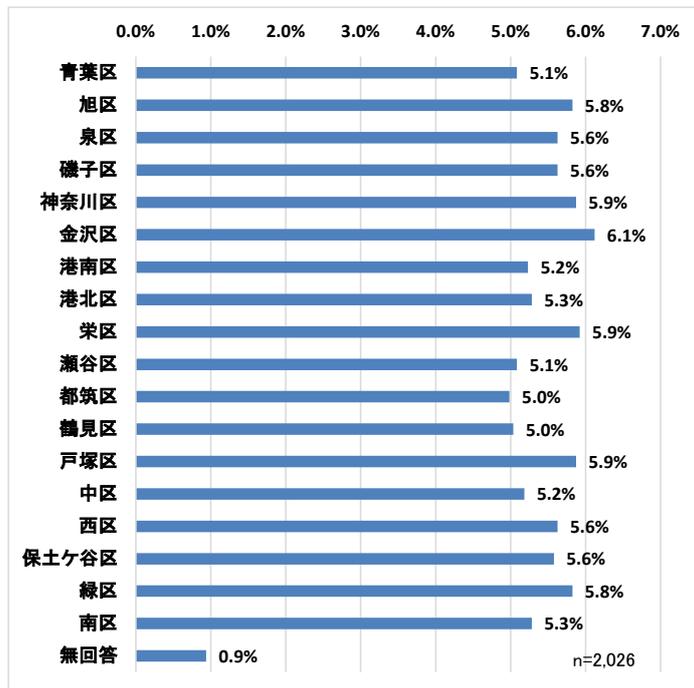
F 1 性別・年齢（年齢は平成 26 年 11 月 1 日現在の年齢）

- ・性別では、女性が 58.6%と 6 割近く、男性の 40.5%を 18.1 ポイント上回っている。
- ・年齢では、10～19 歳が 18.7%で最も多く、全体の 2 割弱である。次いで 0～9 歳（12.8%）、次に 40～49 歳（11.8%）、30～39 歳（11.7%）がほぼ並ぶ。
- ・年齢階層別に整理すると、最も多いのは「壮年期（40～64 歳）」の 20.7%、次いで「高齢期（65 歳以上）」の 20.6%で、ともに約 2 割で拮抗している。次に「成人期（20～39 歳）」（17.6%）、「思春期（13～19 歳）」（13.0%）、「学童期（7～12 歳）」（9.7%）、「乳幼児期（0～6 歳）」（8.8%）と続く。



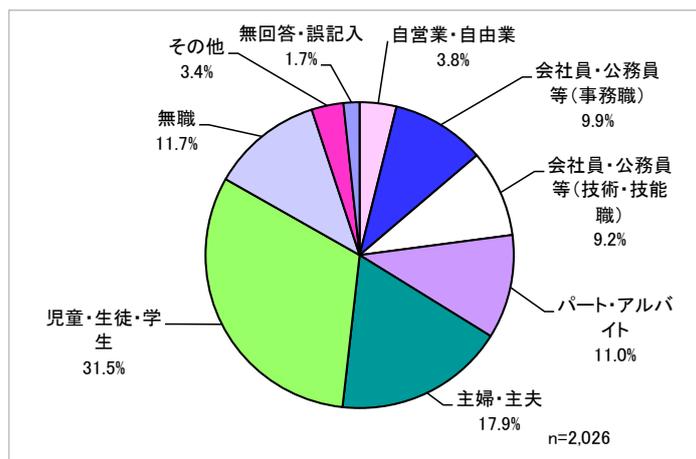
F 2 居住区

・最も多いのは金沢区の 6.1%、最も少ないのは都筑区と鶴見区の 5.0%であるが、5%台を中心に均等に分布している。



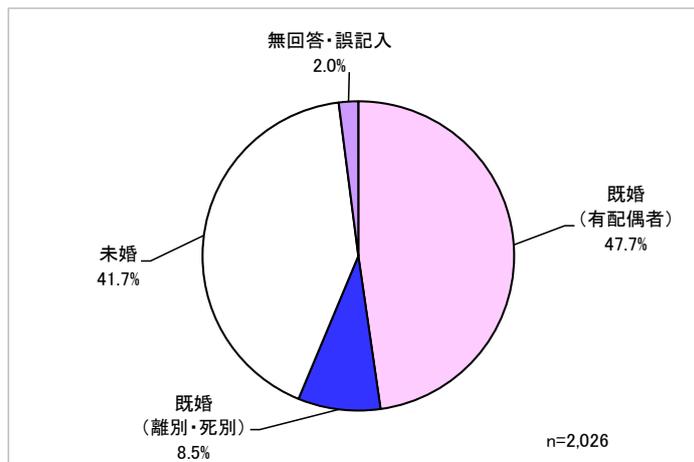
F 3 職業

・「児童・生徒・学生」が最も多く 31.5%で、全体の3割以上となっている。これは、調査のテーマが食育であり、13歳未満の子供に対しては親が聞き取りで回答できるため、子供を持つ親の回答も多くなっているためと考えられる。次いで「主婦・主夫」が 17.9%で2割弱である。以下「無職」(11.7%)、「パート・アルバイト」(11.0%)、「会社員・公務員等(事務職)」(9.9%)、「会社員・公務員等(技術・技能職)」(9.2%)、「自営業・自由業」(3.8%)、「その他」(3.4%)の順である。



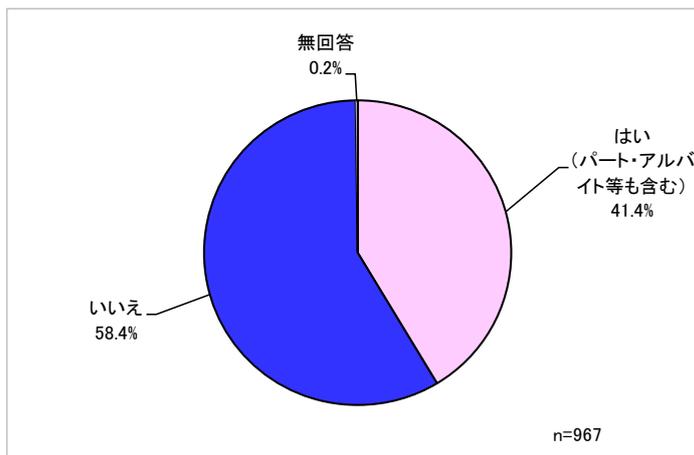
F 4 婚姻の有無

- ・「既婚（有配偶者）」が最も多く 47.7%で、全体の半数弱を占める。次いで「未婚」が 41.7%、「既婚（離別・死別）」は 8.5%である。



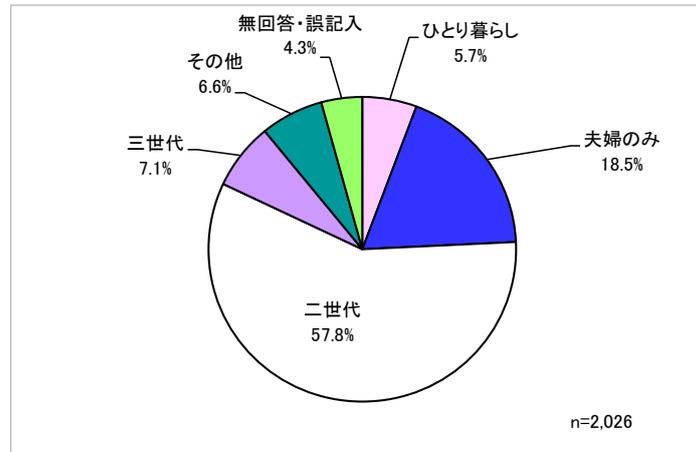
F 4 - 1 共働きの有無（既婚（有配偶者）のみ）

- ・「いいえ」が 58.4%で、「はい（パート・アルバイト等も含む）」の 41.4%を 17.0ポイント上回っている。



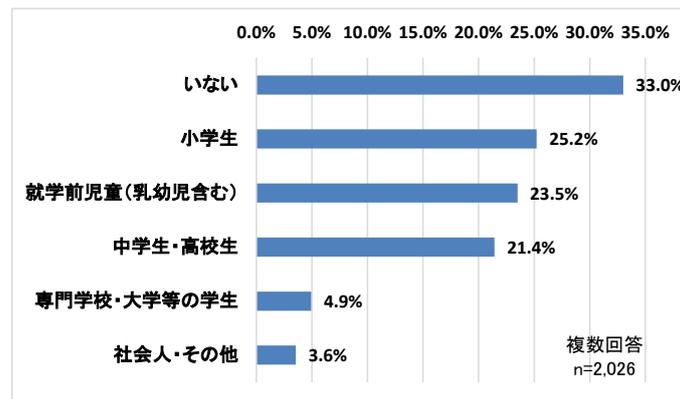
F 5 家族構成（世帯）

- ・「二世代」が 57.8% で 6 割弱を占め、突出して多い。次いで「夫婦のみ」が 18.5% である。以下「三世代」（7.1%）、「その他」（6.6%）、「ひとり暮らし」（5.7%）となっている。



F 6 同居の 20 歳未満の家族（回答者を含む）

- ・「いない」が 33.0% で最も多い。次いで「小学生」（25.2%）、「就学前児童（乳幼児含む）」（23.5%）、「中学生・高校生」（21.4%）、「専門学校・大学等の学生」（4.9%）、「社会人・その他」（3.6%）となっている。

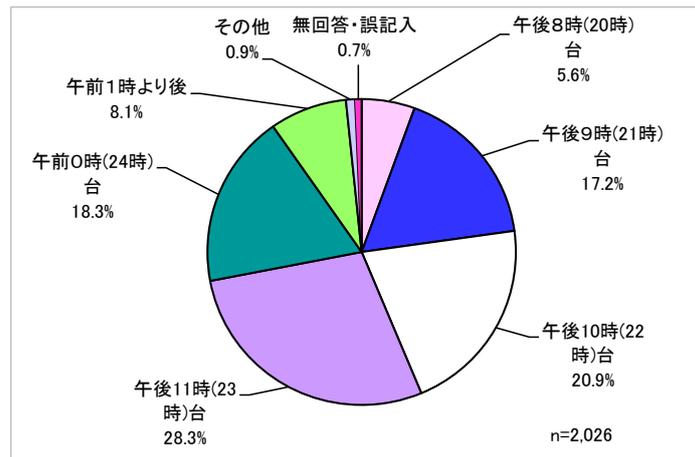


Ⅲ. 調査結果

1. ふだんの生活について

問1 あなたはふだん（平日）の夜は、何時頃に寝ることが多いですか。（○はひとつ）

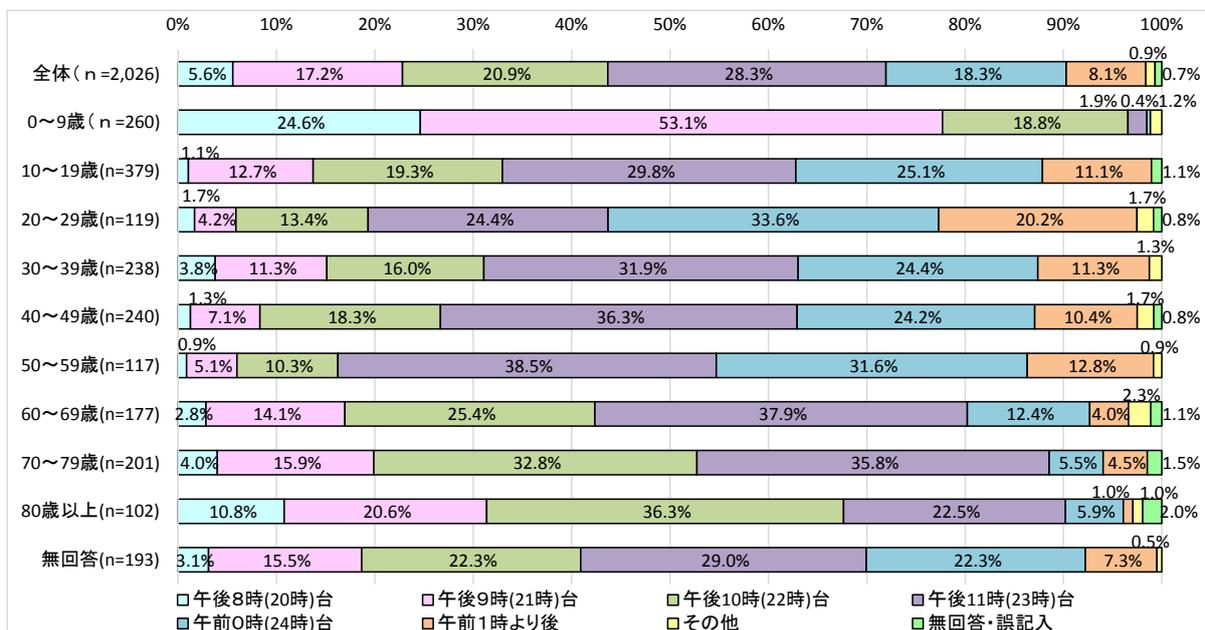
- ・「午後11時（23時）台」が28.3%で最も多く全体の3割弱、次いで「午後10時（22時）台」が20.9%で全体の約2割である。以下、「午前0時（24時）台」（18.3%）「午後9時（21時）台」（17.2%）と続く。



■ 年齢別 ふだんの就寝時間（問1×F1）

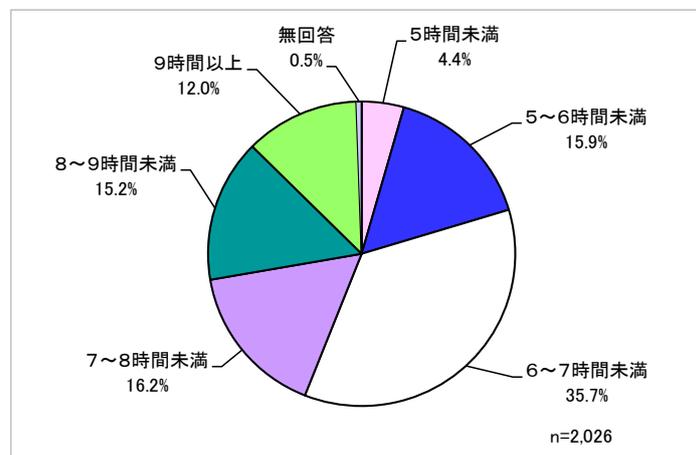
- ・「0～9歳」では「9時（21時）台」、「80歳以上」では「10時（22時）台」、「10～19歳」と、「30～39歳」から「70～79歳」までの世代では「11時（23時）台」、「20～29歳」では「午前0時（24時）台」が最も多くなっている。
- ・「0～9歳」では「午後8時（20時）台」、「20～29歳」では「午前1時より後」の数値が全体値に比べて高く、就寝時間が最も遅いのは20歳代である。

図 年齢別 ふだんの就寝時間



問2 あなたのふだんの睡眠時間は、およそ何時間くらいですか。(〇はひとつ)

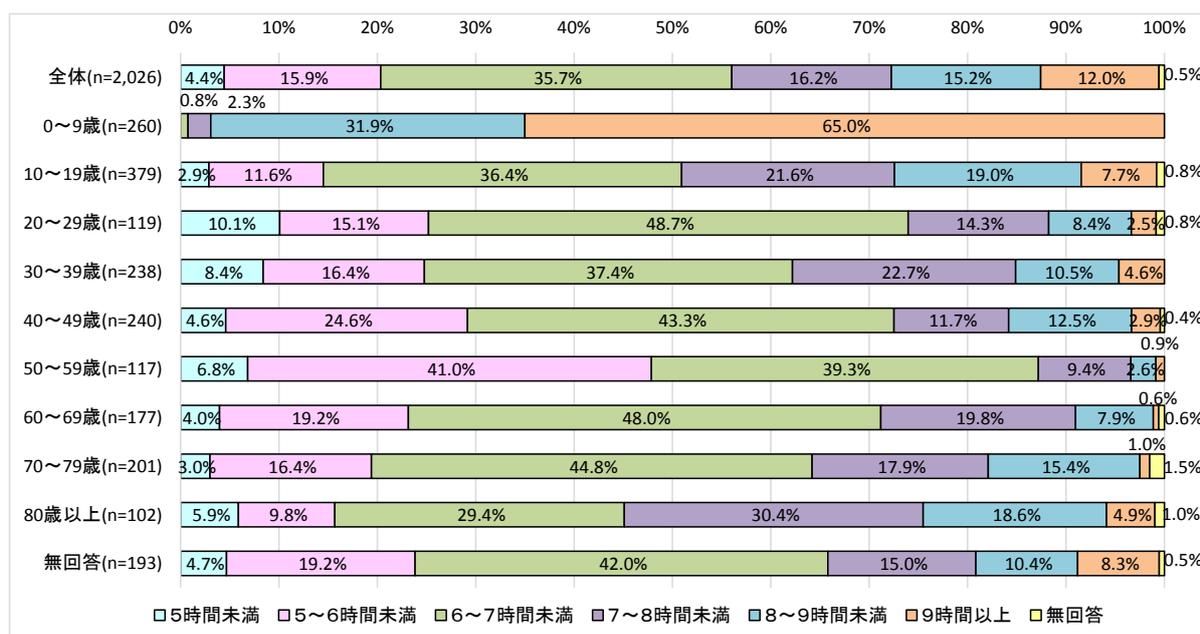
- ・「6～7時間未満」が35.7%で最も多く、全体の3分の1強である。次いで「7～8時間未満」が16.2%、以下「5～6時間未満」(15.9%)、「8～9時間未満」(15.2%)、「9時間以上」(12.0%)、「5時間未満」(4.4%)となっている。
- ・「6～7時間未満」「7～8時間未満」を合わせると51.9%で、全体の半数強が睡眠時間は6～8時間としている。



■ 年齢別 ふだんの睡眠時間 (問2×F1)

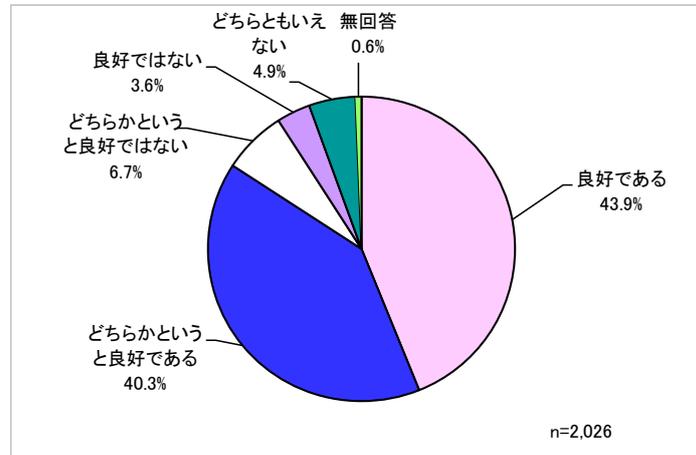
- ・「0～9歳」では「9時間以上」、「50～59歳」では「5～6時間未満」、「80歳以上」では「7～8時間未満」、「10～19歳」から「40～49歳」と「60～69歳」「70～79歳」では「6～7時間未満」が最も多くなっている。
- ・「0～9歳」では「8～9時間未満」の数値も全体値に比べて高く、「8～9時間未満」「9時間以上」を合わせると9割以上が8時間以上の睡眠時間となっている。

図 年齢別 ふだんの睡眠時間



問3 あなたの健康状態はいかがですか。最近の状況に最も近いものをお答えください。(○はひとつ)

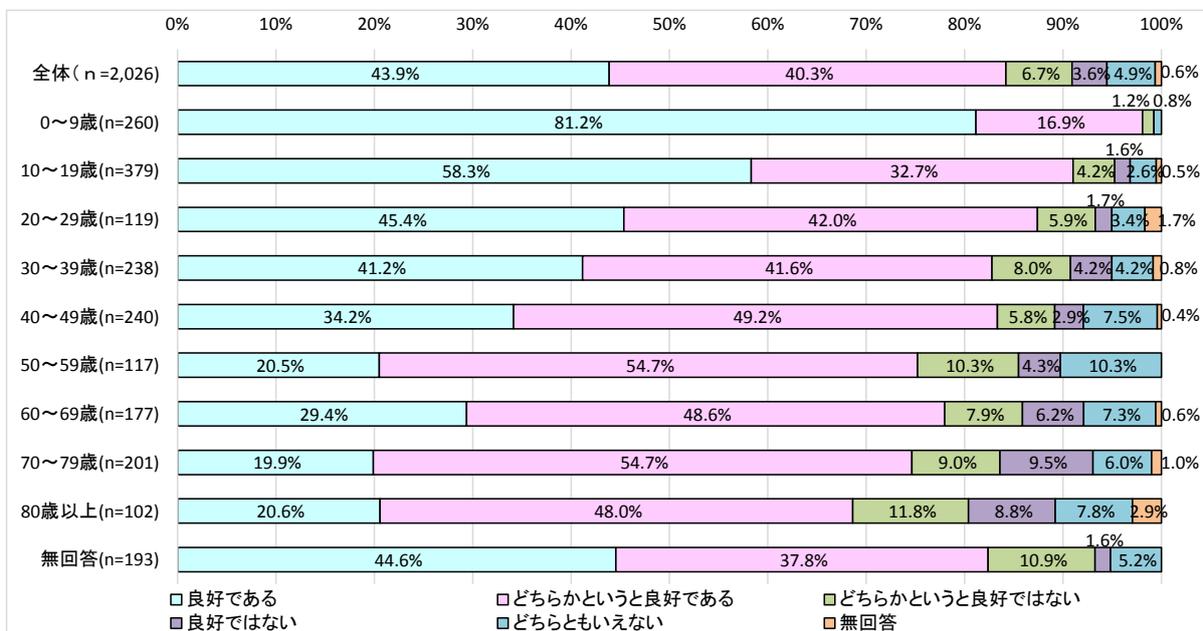
- ・「良好である」が最も多く 43.9%、「どちらかというと良好である」が 40.3%で、これらを合わせると 84.2%が健康状態は良好な方であるとしている。「どちらかというと良好ではない」(6.7%)、「良好ではない」(3.6%)は合わせて 10.3%、「どちらともいえない」は 4.9%である。



■ 年齢別 健康状態 (問3 × F1)

- ・「0～9歳」「10～19歳」「20～29歳」では「良好である」、「30～39歳」以上の世代では「どちらかというと良好である」が最も多くなっている。

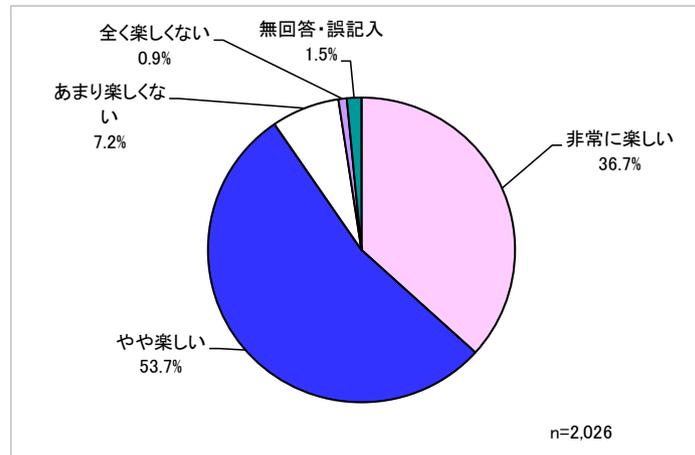
図 年齢別 健康状態



2. 食事の状況について

問4 あなたは、ふだんの食事の時間が楽しいですか。(〇はひとつ)

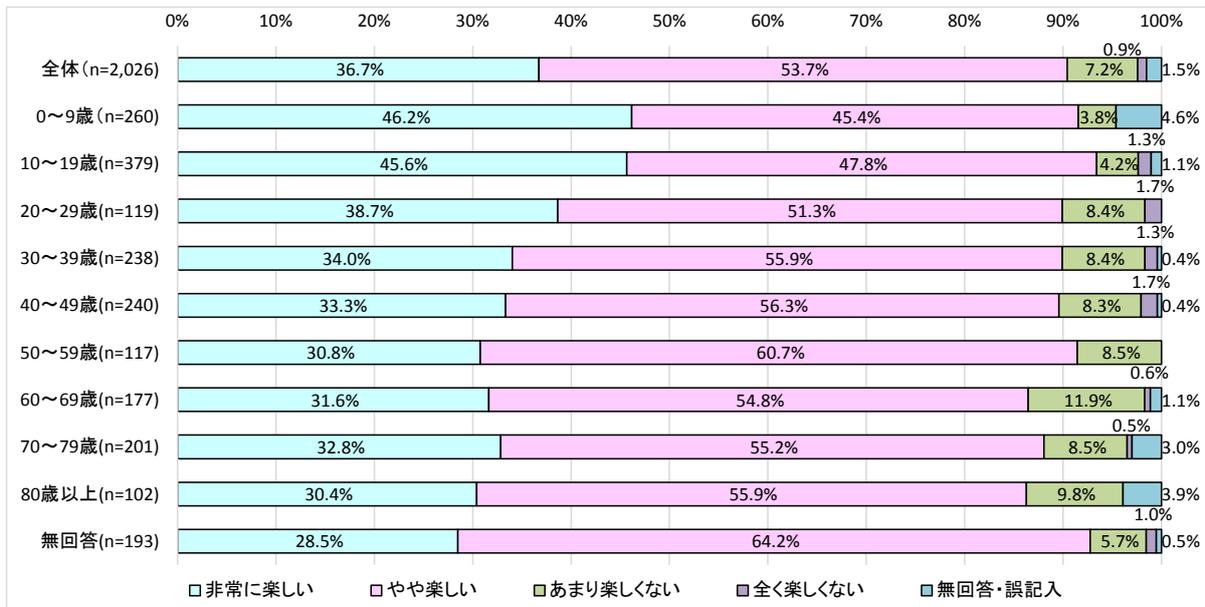
- ・「やや楽しい」が最も多く 53.7%で、半数以上を占める。次いで「非常に楽しい」が 36.7%で、これらを合わせると 90.4%と、約9割が食事は楽しいものと考えている。「あまり楽しくない」(7.2%)、「楽しくない」(0.9%)は合わせて8.0%で、1割に満たない。



■ 年齢別 食事時間の楽しさ (問4 × F1)

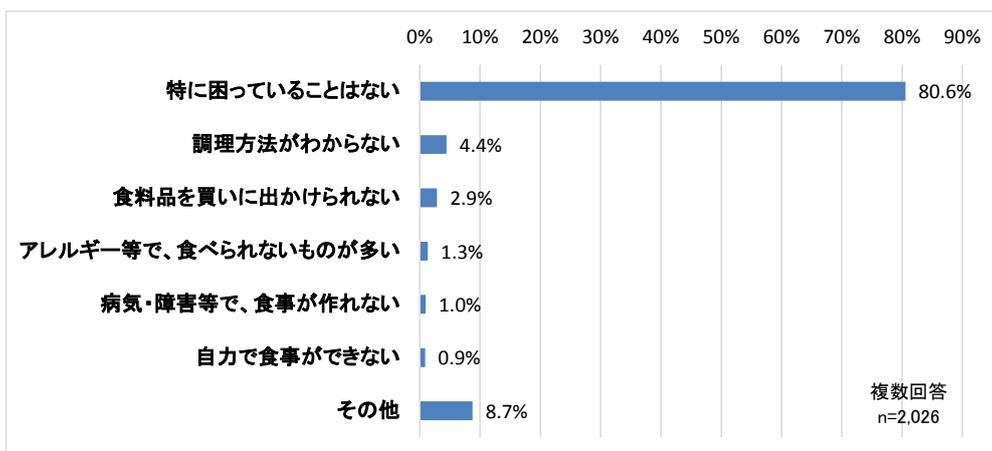
- ・「0～9歳」では「非常に楽しい」、「10～19歳」以上の世代では「やや楽しい」が最も多くなっている。
- ・「非常に楽しい」の数値は年齢が低いほど高い傾向となっている。

図 年齢別 食事時間の楽しさ



問5 あなたが、食事に関して困っていることは、どのようなことですか。(〇はいくつでも)

- ・「特に困っていることはない」が最も多く 80.6%と、圧倒的多数を占める。



■ 年齢別 食事に関して困っていること (問5×F1)

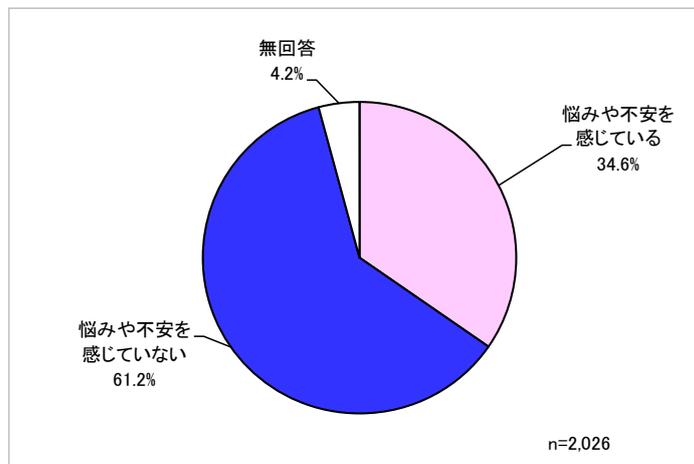
- ・いずれも「特に困っていることはない」が最も多くなっている。

図 年齢別 食事に関して困っていること

	合計	特に困っていることはない	食料品を買いに出かけられない	病気・障害等で、食事が作れない	調理方法がわからない	自力で食事ができない	アレルギー等で、食べられないものが多い	その他
全体	2,026	80.6%	2.9%	1.0%	4.4%	0.9%	1.3%	8.7%
0～9歳	260	70.0%	0.4%	0.4%	1.2%	2.7%	2.3%	11.5%
10～19歳	379	85.5%	0.5%	0.0%	5.5%	0.5%	2.1%	6.1%
20～29歳	119	76.5%	4.2%	0.0%	10.1%	0.0%	1.7%	7.6%
30～39歳	238	74.8%	4.2%	0.8%	7.1%	0.4%	1.7%	13.4%
40～49歳	240	80.0%	4.6%	0.4%	2.9%	0.0%	0.8%	12.1%
50～59歳	117	88.9%	1.7%	0.9%	3.4%	0.9%	0.9%	6.8%
60～69歳	177	88.1%	0.6%	1.1%	4.0%	0.0%	0.0%	6.2%
70～79歳	201	82.6%	4.0%	3.0%	5.0%	0.0%	0.5%	6.5%
80歳以上	102	80.4%	9.8%	3.9%	2.0%	2.9%	1.0%	4.9%
無回答	193	81.3%	4.1%	1.6%	3.6%	2.1%	1.0%	8.8%

問6 あなたは、日頃の食生活で悩みや不安を感じていますか。(〇はひとつ)

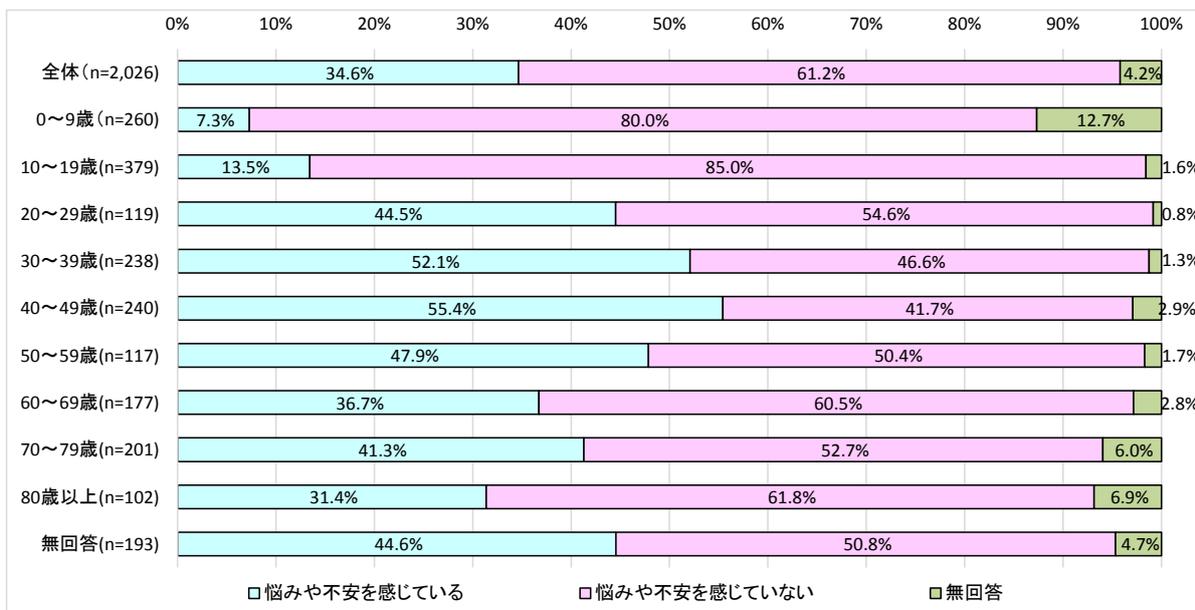
- ・「悩みや不安を感じていない」が61.2%で、「悩みや不安を感じている」の34.6%を26.6ポイント上回っている。



■ 年齢別 日頃の食生活での悩みや不安の有無 (問6 × F1)

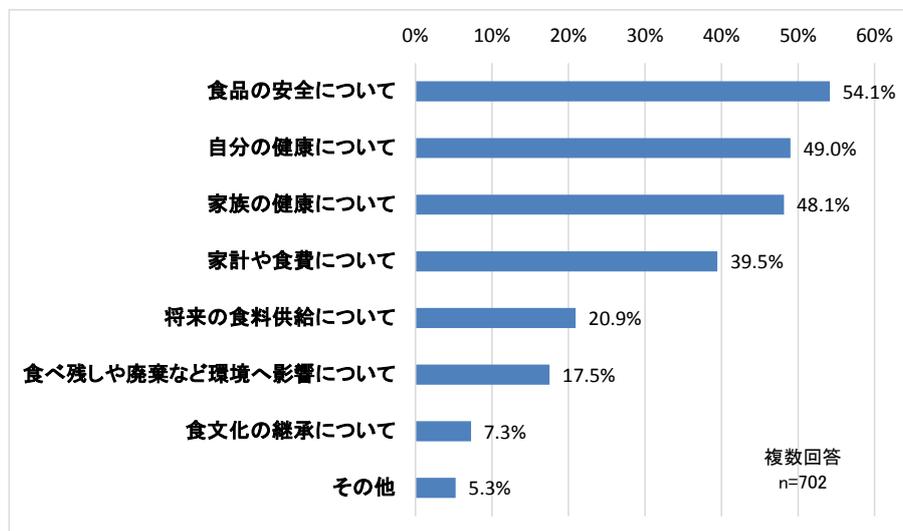
- ・「30～39歳」と「40～49歳」では「悩みや不安を感じている」が「悩みや不安を感じていない」を上回り、5割を超えている。それ以外の世代では「悩みや不安を感じていない」の方が多い。
- ・「50～59歳」でも「悩みや不安を感じている」の数値が全体値にくらべて10ポイント以上高くなっている。また「0～9歳」「10～19歳」では「悩みや不安を感じていない」の数値が8割を超える。

図 年齢別 日頃の食生活での悩みや不安の有無



問6-1 悩みや不安を感じているのはどのようなことについてですか。(〇はいくつでも)

- ・「食品の安全について」が54.1%で最も多く、半数強の人が挙げている。次いで「自分の健康について」が49.0%、「家族の健康について」が48.1%と、5割弱で続く。以下「家計や食費について」(39.5%)、「将来の食料供給について」(20.9%)、「食べ残しや廃棄など環境への影響について」(17.5%)、「食文化の継承について」(7.3%)、「その他」(5.3%)の順である。



■ 男女・年齢別 日頃の食生活で悩みや不安を感じていること (問6-1×F1)

- ・女性では、「0～9歳」「10～19歳」「70～79歳」「80歳以上」では「自分の健康について」、「20～29歳」「40～49歳」では「家族の健康について」、「30～39歳」「50～59歳」「60～69歳」では「食品の安全について」が最も多い。
- ・また、「30～39歳」では「家計や食費について」、「50～59歳」では「食べ残しや廃棄など環境への影響」、「60～69歳」では「自分の健康について」「家計や食費について」の数値が、それぞれ全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。

図 男女・年齢別 日頃の食生活で悩みや不安を感じていること <女性>

	全体	自分の健康	家族の健康	家計や食費について	食品の安全について	将来の食料供給について	食文化の継承について	食べ残しや廃棄など環境への影響	その他
全体	458	44.5%	55.5%	42.4%	59.6%	19.4%	7.2%	18.6%	3.9%
0～9歳	10	80.0%	40.0%	40.0%	60.0%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%
10～19歳	31	61.3%	16.1%	19.4%	19.4%	25.8%	0.0%	19.4%	6.5%
20～29歳	35	48.6%	65.7%	40.0%	57.1%	20.0%	8.6%	22.9%	0.0%
30～39歳	92	32.6%	65.2%	55.4%	71.7%	14.1%	8.7%	15.2%	2.2%
40～49歳	97	35.1%	72.2%	44.3%	44.3%	68.0%	17.5%	16.5%	7.2%
50～59歳	34	50.0%	44.1%	32.4%	58.8%	26.5%	11.8%	38.2%	2.9%
60～69歳	33	54.5%	51.5%	54.5%	60.6%	18.2%	3.0%	9.1%	3.0%
70～79歳	45	57.8%	46.7%	33.3%	44.4%	28.9%	6.7%	26.7%	2.2%
80歳以上	19	57.9%	36.8%	10.5%	36.8%	21.1%	15.8%	15.8%	5.3%
無回答	62	38.7%	51.6%	48.4%	67.7%	17.7%	4.8%	14.5%	4.8%

- ・男性では、「60～69歳」で「食品の安全について」が最も多くなっているのを除き、「自分の健康について」が最も多い。
- ・また、「20～29歳」では「将来の食料供給について」、「40～49歳」では「家計や食費について」、「60～69歳」では「家計や食費について」「食べ残しや廃棄など環境への影響」、「80歳以上」では「食品の安全について」の数値が、それぞれ全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。

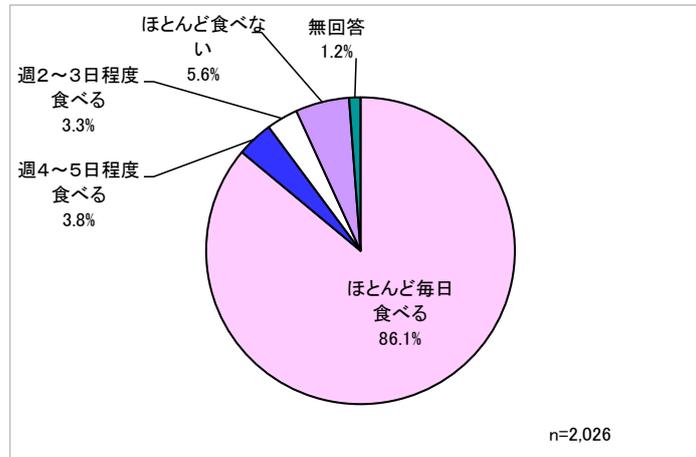
図 男女・年齢別 日頃の食生活で悩みや不安を感じていること <男性>

	全体	自分の健康	家族の健康	家計や食費について	食品の安全について	将来の食料供給について	食文化の継承について	食べ残しや廃棄など環境への影響	その他
全体	238	57.1%	34.9%	34.0%	44.5%	23.1%	7.1%	15.1%	7.6%
0～9歳	9	66.7%	33.3%	22.2%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
10～19歳	20	55.0%	25.0%	5.0%	25.0%	15.0%	5.0%	15.0%	20.0%
20～29歳	18	55.6%	33.3%	33.3%	27.8%	33.3%	11.1%	22.2%	5.6%
30～39歳	32	43.8%	31.3%	31.3%	34.4%	21.9%	3.1%	6.3%	3.1%
40～49歳	36	55.6%	41.7%	44.4%	47.2%	27.8%	5.6%	19.4%	5.6%
50～59歳	22	68.2%	40.9%	40.9%	50.0%	22.7%	0.0%	4.5%	13.6%
60～69歳	32	50.0%	34.4%	50.0%	68.8%	28.1%	15.6%	28.1%	6.3%
70～79歳	37	59.5%	37.8%	27.0%	51.4%	27.0%	13.5%	18.9%	2.7%
80歳以上	13	69.2%	38.5%	23.1%	61.5%	15.4%	0.0%	15.4%	0.0%
無回答	19	68.4%	26.3%	42.1%	31.6%	15.8%	5.3%	5.3%	5.3%

問7 あなたはふだん、朝食・昼食・夕食をどの程度食べていますか。(〇はそれぞれひとつずつ)

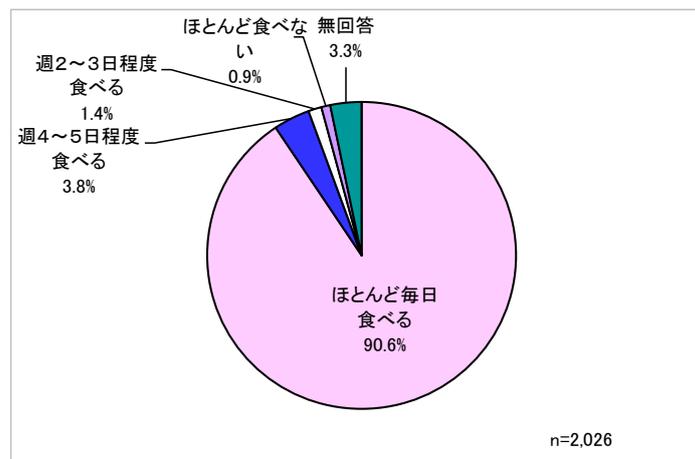
<朝食>

・朝食では「ほとんど毎日食べる」が86.1%で最も多い。次いで「ほとんど食べない」が5.6%、「週4～5日程度食べる」は3.8%、「週2～3日程度食べる」は3.3%で、これらを合わせると2,026人のうち258人が、週1回以上朝食を食べないとしている。



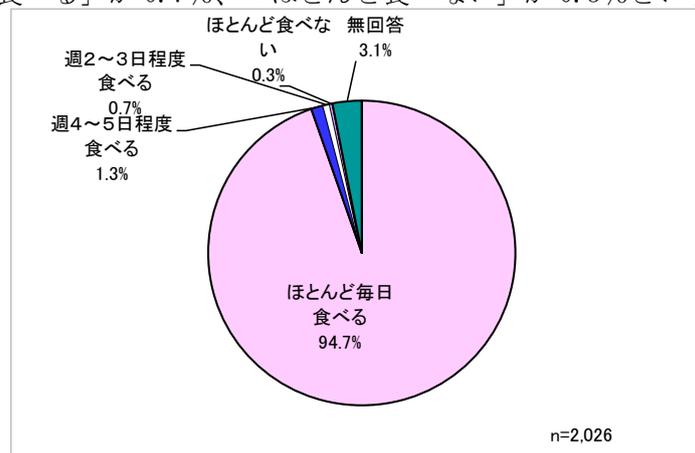
<昼食>

・昼食では「ほとんど毎日食べる」が90.6%で最も多い。次いで「週4～5日程度食べる」が3.8%、「週2～3日程度食べる」が1.4%、「ほとんど食べない」が0.9%となっている。



<夕食>

・夕食では「ほとんど毎日食べる」が94.7%で最も多い。次いで「週4～5日程度食べる」が1.3%、「週2～3日程度食べる」が0.7%、「ほとんど食べない」が0.3%といずれもわずかである。



■ 男女・年齢別 朝食頻度（問7×F1）

- ・女性は、各年代とも「ほとんど毎日食べる」が最も多く、「0～9歳」「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」では9割を超えている。一方「20～29歳」では「週4～5日程度食べる」が全体値より10ポイント以上高い。また、「週4～5日程度食べる」「週2～3日程度食べる」「ほとんど食べない」を合わせた欠食率は、「20～29歳」で33.3%、「30～39歳」で12.6%、「40～49歳」で12.1%となっている。
 - ・男性は、各年代とも「ほとんど毎日食べる」が最も多く、「0～9歳」「70～79歳」「80歳以上」では9割を超え、特に「80歳以上」では100%となっている。一方「20～29歳」から「50～59歳」までの世代では「ほとんど食べない」が全体値より10ポイント以上高い。また、欠食率は、「20～29歳」で27.3%、「30～39歳」で37.1%、「40～49歳」で34.8%となっている。
- ※「朝食の欠食率」は、「朝食を食べる日が、週5日以下」の市民の割合として算出している。

図 男女・年齢別 朝食頻度 <女性>

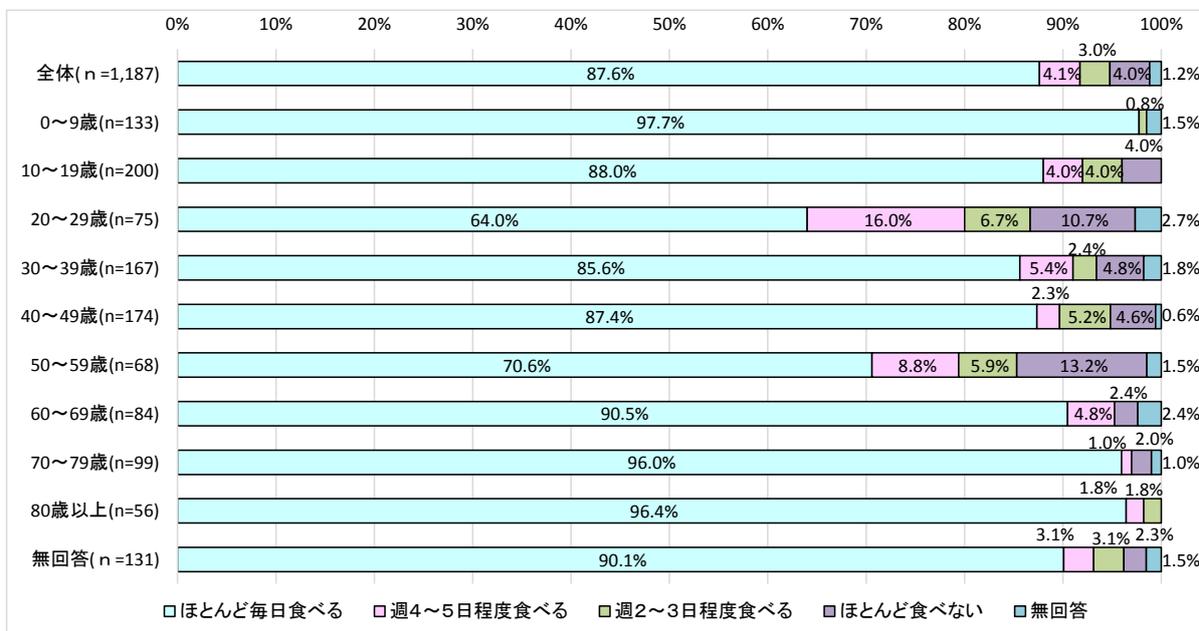
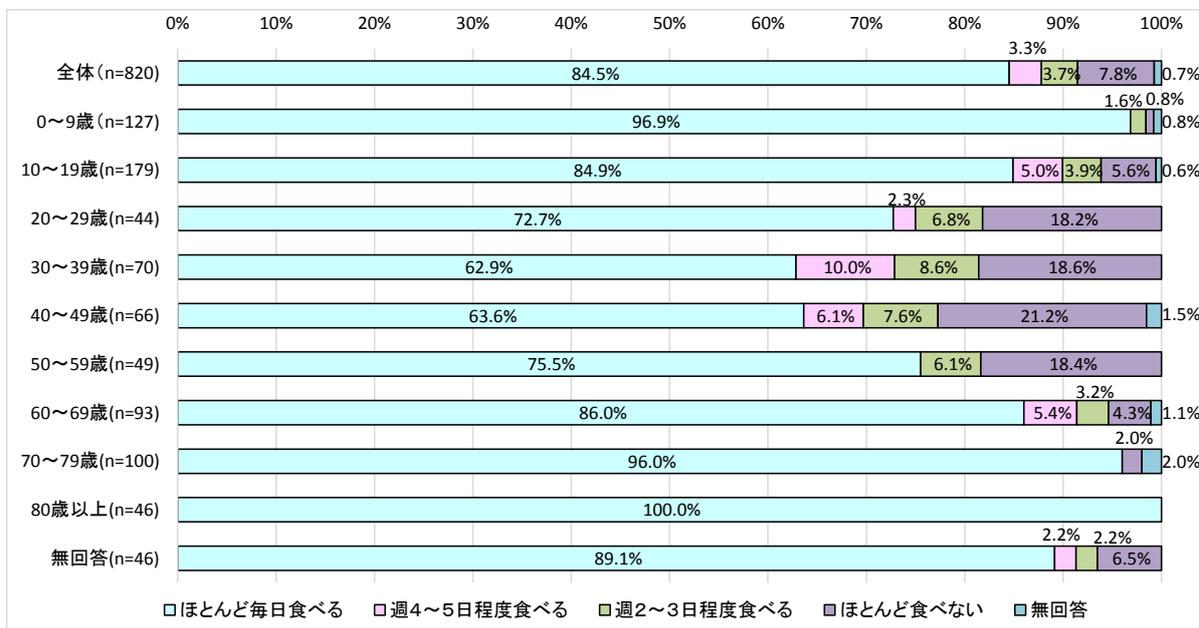


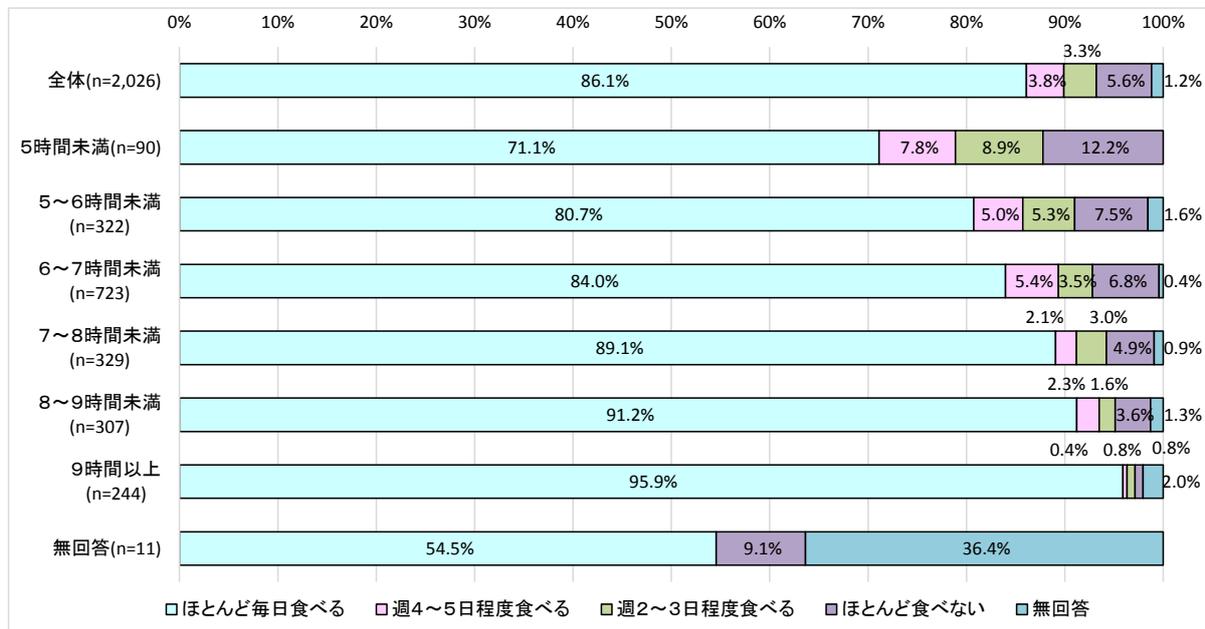
図 男女・年齢別 朝食頻度 <男性>



■ 睡眠時間別 朝食頻度（問7×問2）

- いずれも「ほとんど毎日食べる」が最も多いが、睡眠時間が8時間以上の場合には9割を超える一方、睡眠時間5時間未満では7割台にとどまっておらず、睡眠時間が長いほど朝食の摂取率も高くなっている。

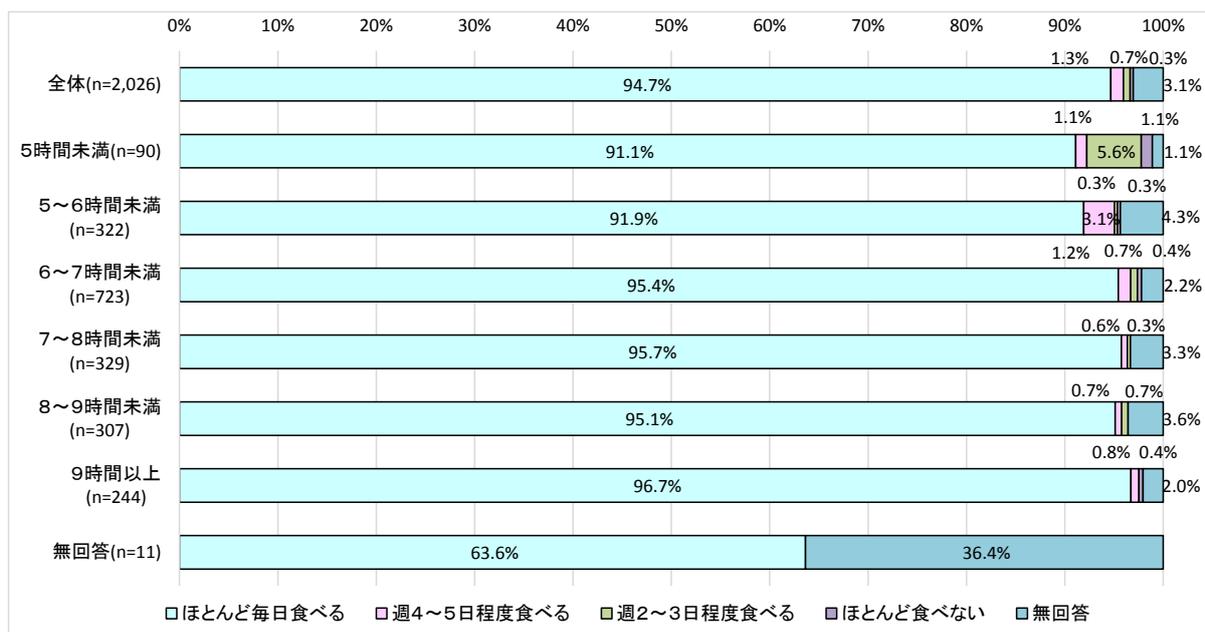
図 睡眠時間別 朝食頻度



■ 睡眠時間別 夕食頻度（問7×問2）

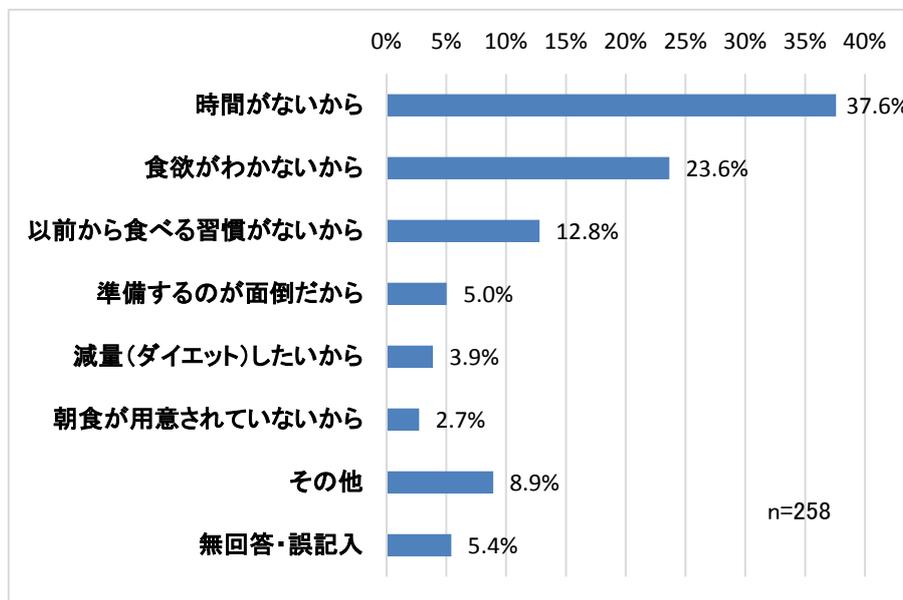
- いずれも「ほとんど毎日食べる」が最も多く9割を超えている。朝食の場合ほど顕著ではないが、睡眠時間が長いほど夕食の摂取率も高い傾向にある。

図 睡眠時間別 夕食頻度



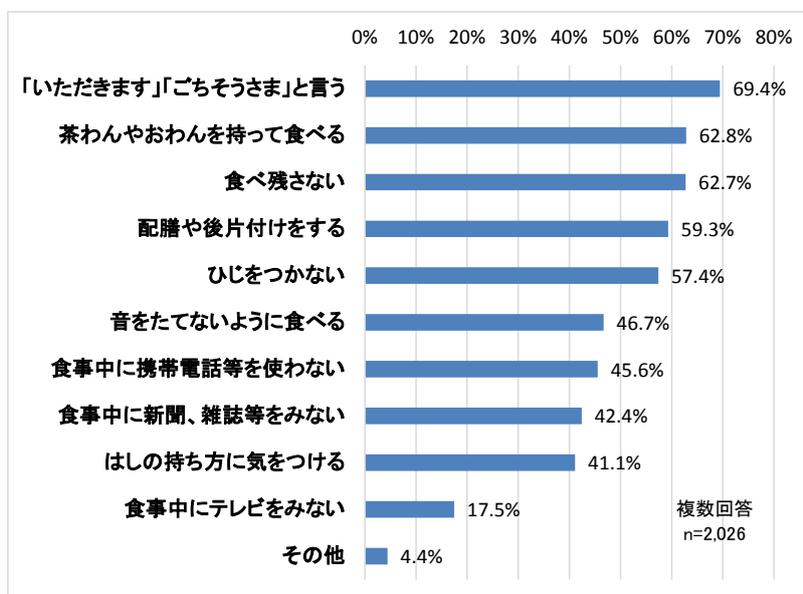
問7-1 朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。(〇はひとつ)

- ・「時間がないから」が37.6%と、全体の3分の1以上を占め、特に多くなっている。次いで「食欲がわからないから」が23.6%である。以下「以前から食べる習慣がないから」(12.8%)、「その他」(8.9%)、「準備するのが面倒だから」(5.0%)、「減量(ダイエット)したいから」(3.9%)、「朝食が用意されていないから」(2.7%)の順である。



問8 あなたはふだん食事の際に、習慣にしていることはありますか。(〇はいくつでも)

- ・「『いただきます』『ごちそうさま』と言う」が69.4%で最も多く、「茶わんやおわんを持って食べる」(62.8%)、「食べ残さない」(62.7%)も6割台でこれに続く。以下、「配膳や後片付けをする」(59.3%)、「ひじをつかない」(57.4%)、「音をたてないように食べる」(46.7%)、「食事中に携帯電話を使わない」(45.6%)、「食事中に新聞、雑誌などをみない」(42.4%)、「はしの持ち方に気をつける」(41.1%)についても4割を超え、多くの人が食事のマナーに気を配っていることがわかる。



■ 年齢別 食事の際に習慣にしていること (問8×F1)

- ・「0～9歳」から「30～39歳」では「『いただきます』『ごちそうさま』と言う」、「40～49歳」では「『いただきます』『ごちそうさま』と言う」「ひじをつかない」が同率、「50～59歳」では「食べ残さない」、それ以外の世代では「茶わんやおわんを持って食べる」が最も多くなっている。
- ・「0～9歳」では「食事中にテレビをみない」、「30～39歳」「40～49歳」では「音をたてないように食べる」、「80歳以上」では「食事中に新聞、雑誌などをみない」「食事中に携帯電話を使わない」が、それぞれ全体値に比べて10ポイント以上高い数値となっている。

	合計	「いただきます」「ごちそうさま」と言う	食べ残さない	茶わんやおわんを持って食べる	はしの持ち方に気をつける	ひじをつかない	音をたてないように食べる	食事中にテレビをみない	食事中に新聞、雑誌等をみない	食事中に携帯電話等を使わない	配膳や後片付けをする	その他
全体	2,026	69.4%	62.7%	62.8%	41.1%	57.4%	46.7%	17.5%	42.4%	45.6%	59.3%	4.4%
0～9歳	260	83.5%	47.3%	35.8%	38.1%	51.2%	23.8%	33.5%	32.7%	31.5%	39.6%	2.7%
10～19歳	379	76.5%	63.9%	58.3%	48.0%	53.8%	50.1%	14.2%	47.5%	52.5%	55.1%	4.2%
20～29歳	119	66.4%	62.2%	63.9%	37.8%	51.3%	50.4%	7.6%	31.9%	31.9%	52.9%	5.9%
30～39歳	238	75.2%	71.4%	68.1%	45.4%	58.4%	59.2%	17.6%	36.6%	39.1%	64.7%	6.7%
40～49歳	240	70.4%	67.9%	66.7%	50.0%	70.4%	57.9%	22.1%	45.8%	53.3%	64.2%	3.3%
50～59歳	117	61.5%	66.7%	65.8%	35.9%	59.0%	47.9%	6.0%	39.3%	49.6%	62.4%	3.4%
60～69歳	177	54.8%	60.5%	72.9%	31.6%	56.5%	39.5%	7.9%	42.9%	42.9%	65.5%	5.1%
70～79歳	201	61.7%	67.7%	80.1%	32.3%	55.2%	43.3%	13.9%	47.8%	48.3%	69.2%	4.0%
80歳以上	102	56.9%	69.6%	78.4%	35.3%	63.7%	52.0%	21.6%	58.8%	61.8%	65.7%	4.9%
無回答	193	63.2%	55.4%	59.1%	41.5%	58.0%	45.6%	19.7%	42.0%	46.1%	64.2%	5.2%

問9 あなたの外食の回数は、どの程度ですか。(〇はそれぞれひとつずつ)

<朝食>

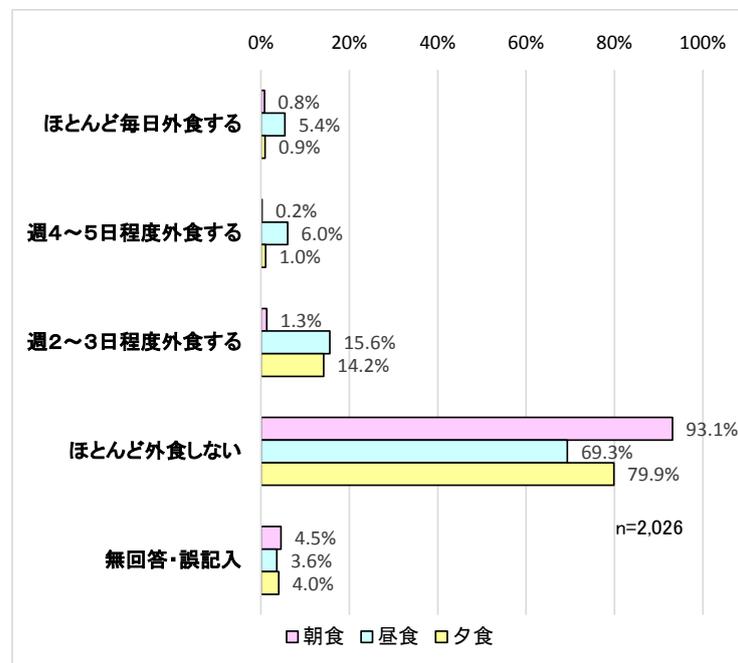
- ・「ほとんど外食しない」が93.1%で最も多く、圧倒的多数を占めている。「ほとんど毎日外食する」(0.8%)、「週4～5日程度外食する」(0.2%)、「週2～3日程度外食する」(1.3%)を合わせても2.3%のみである。

<昼食>

- ・「ほとんど外食しない」が69.3%で、全体の7割弱である。次いで「週2～3日程度外食する」(15.6%)、「週4～5日程度外食する」(6.0%)、「ほとんど毎日外食する」(5.4%)となっている。

<夕食>

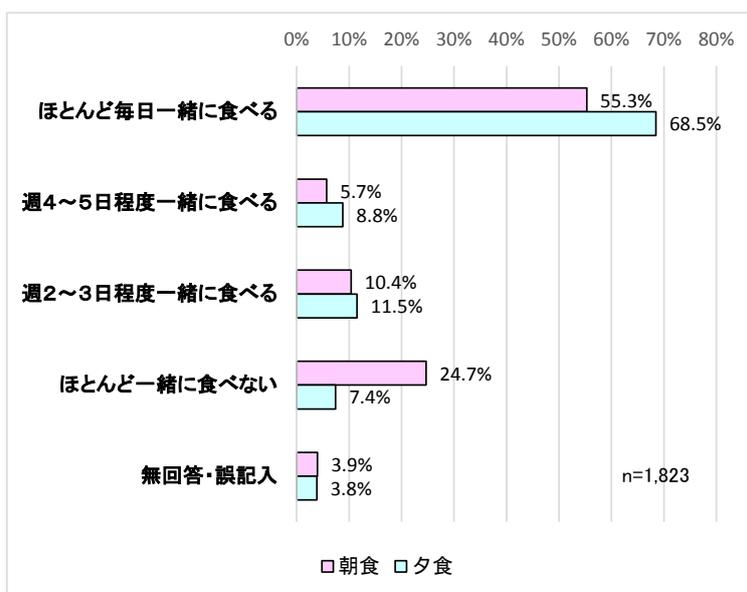
- ・「ほとんど外食しない」が79.9%で、全体の約8割である。次いで「週2～3日程度外食する」(14.2%)、「週4～5日程度外食する」(1.0%)、「ほとんど毎日外食する」(0.9%)となっている。



問10 あなたはふだん、朝食・夕食を、家族等同居されている方とどの程度一緒に食べていますか。

(○はそれぞれひとつずつ)

- ・朝食では「ほとんど毎日一緒に食べる」が55.3%で最も多く、過半数を占めている。次に多いのは「ほとんど一緒に食べない」の24.7%で全体の4分の1弱、以下「週2～3日程度一緒に食べる」(10.4%)、「週4～5日程度一緒に食べる」(5.7%)と続く。
- ・夕食では「ほとんど毎日一緒に食べる」が68.5%と最も多く、全体の7割弱となっている。次いで「週2～3日程度一緒に食べる」(11.5%)、「週4～5日程度一緒に食べる」(8.8%)、「ほとんど一緒に食べない」(7.4%)と続く。



■ 年齢別 朝食・夕食を家族と一緒に食べる頻度（問 10× F 1）

- ・朝食については、「20～29 歳」と「50～59 歳」では「ほとんど一緒に食べない」が最も多い。それ以外の世代では「ほとんど毎日一緒に食べる」が最も多く、「0～9 歳」では9割以上を占める。
- ・夕食については、いずれも「ほとんど毎日一緒に食べる」が最も多いが、数値を見ると、「0～9 歳」では9割以上を占めるものの、「20～29 歳」「50～59 歳」では4割台にとどまっている。また、「20～29 歳」では「週2～3日程度一緒に食べる」、「50～59 歳」では「ほとんど一緒に食べない」の数値が、全体値より10ポイント以上高くなっている。

図 年齢別 朝食・夕食を家族と一緒に食べる頻度 <朝食>

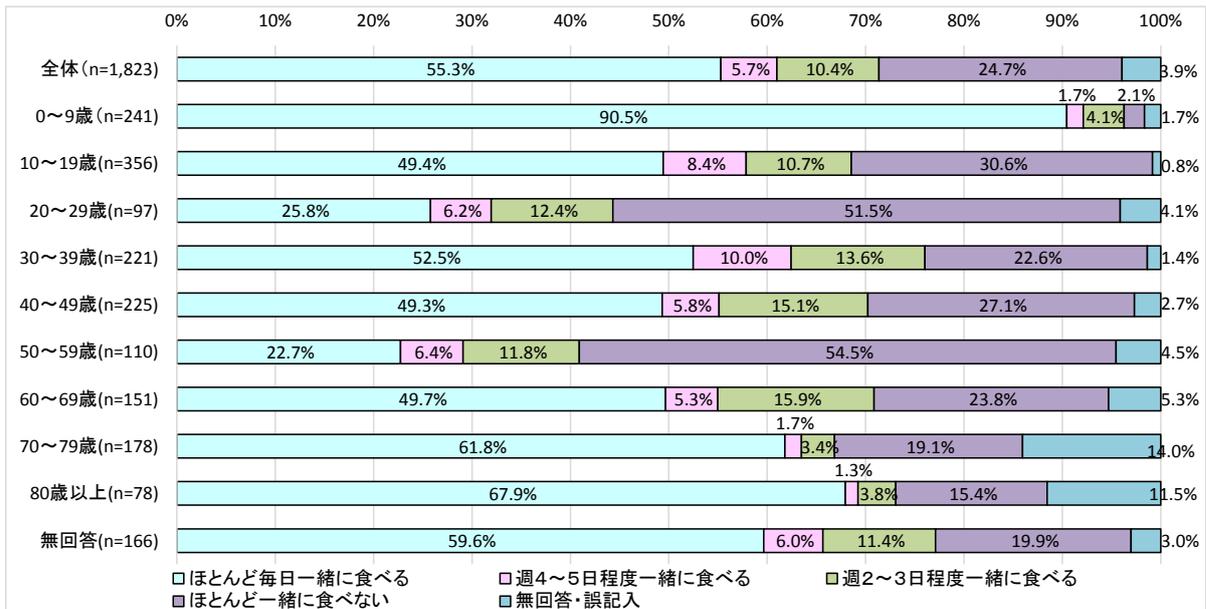
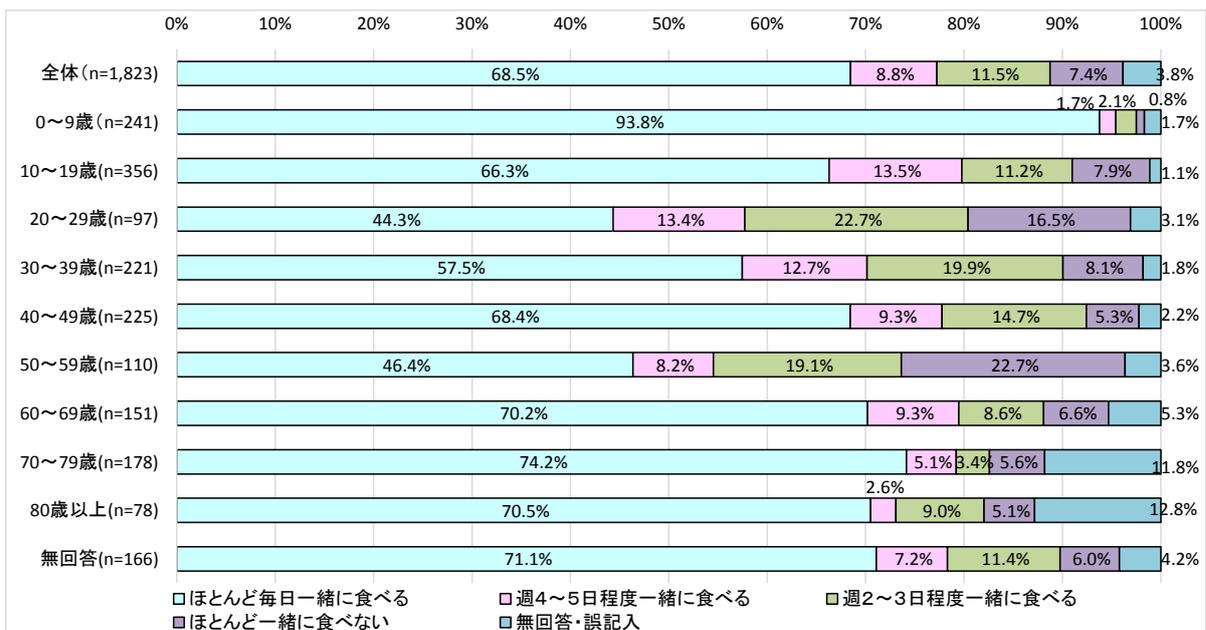
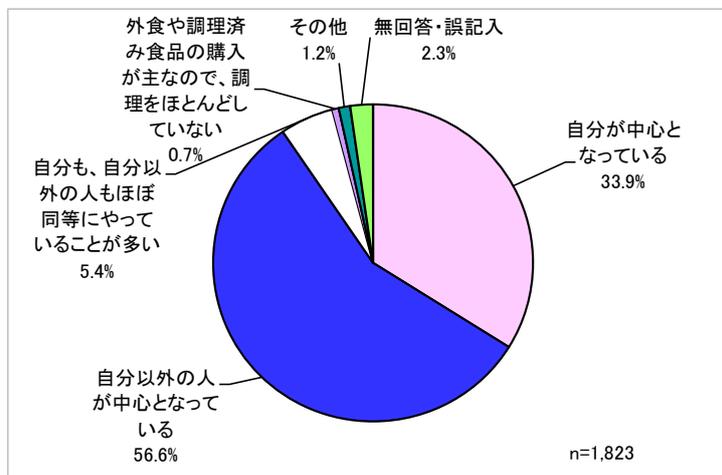


図 年齢別 朝食・夕食を家族と一緒に食べる頻度 <夕食>



問 1 1 あなたの家庭では、誰が調理の中心となっていますか。(〇はひとつ)

- ・「自分以外の人を中心としている」が 56.6%と半数強を占める。次いで「自分が中心となっている」(33.9%) が全体の 3分の1である。以下「自分も、自分以外の人もほぼ同等にやっていることが多い」(5.4%)、「その他」(1.2%)、「無回答・誤記入」(2.3%)、「外食や調理済み食品の購入が主なので、調理をほとんどしていない」(0.7%) と続く。



■ 男女・年齢別 調理の中心となっている人（問11×F1）

- ・女性は「自分が中心となっている」が最も多く、男性より48.6ポイント高い。男性は「自分以外の人が中心となっている」が最も多く9割近くを占め、女性より46.7ポイント高くなっており、男女で明確に傾向が分かれた。
- ・女性は、20～29歳までの若い世代では「自分以外の人が中心となっている」、30～39歳より上の世代では「自分が中心となっている」が最も多く、30代を境に傾向が分かれた。また、80歳以上では「自分も、自分以外の人もほぼ同等にやっていることが多い」の数値が全体値より10ポイント以上高くなっている。
- ・男性は、いずれの世代も「自分以外の人が中心となっている」が最も多く、0～9歳、10～19歳、30～39歳、40～49歳では9割を超える。また、高齢者層で「自分も、自分以外の人もほぼ同等にやっていることが多い」の数値が高く、70～79歳では全体値より10ポイント以上高くなっている。

図 男女・年齢別 調理の中心となっている人 <女性>

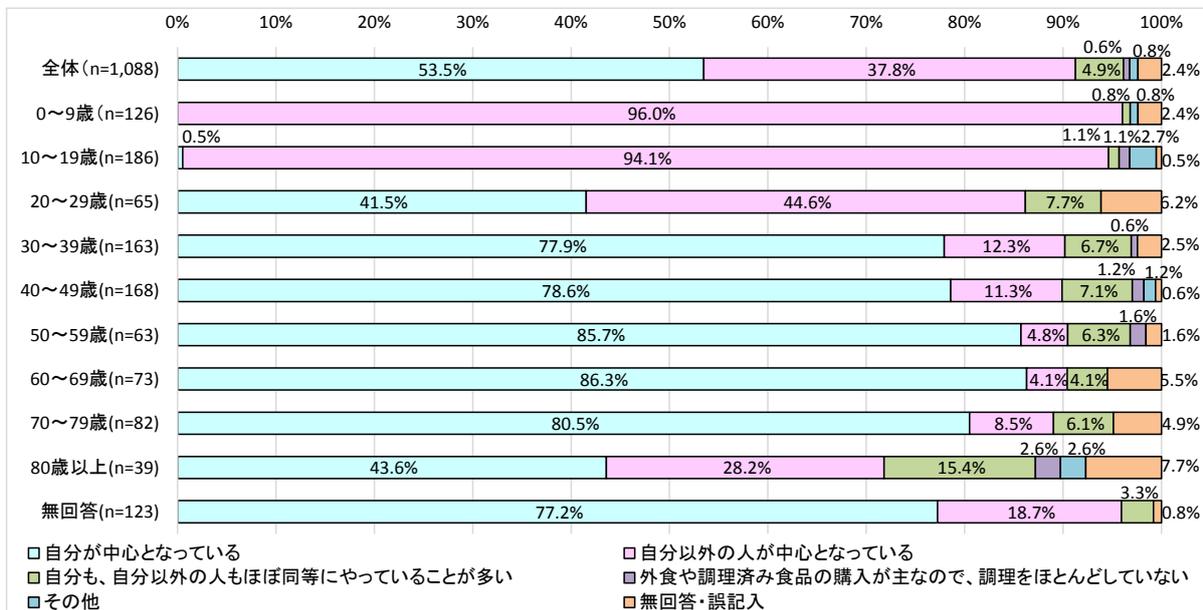
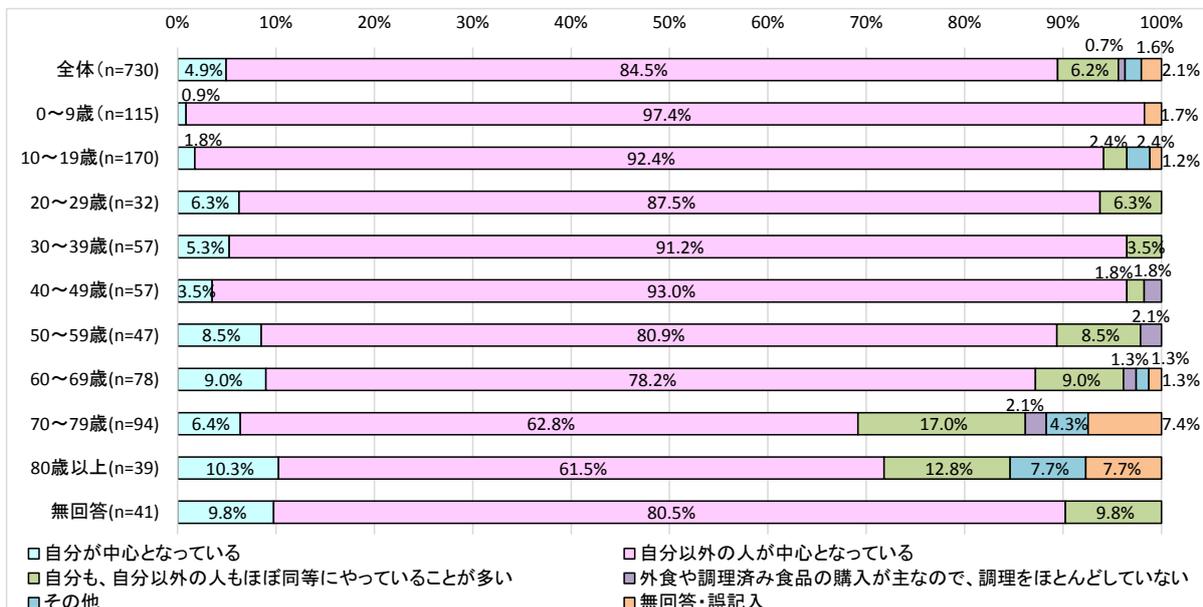


図 男女・年齢別 調理の中心となっている人 <男性>

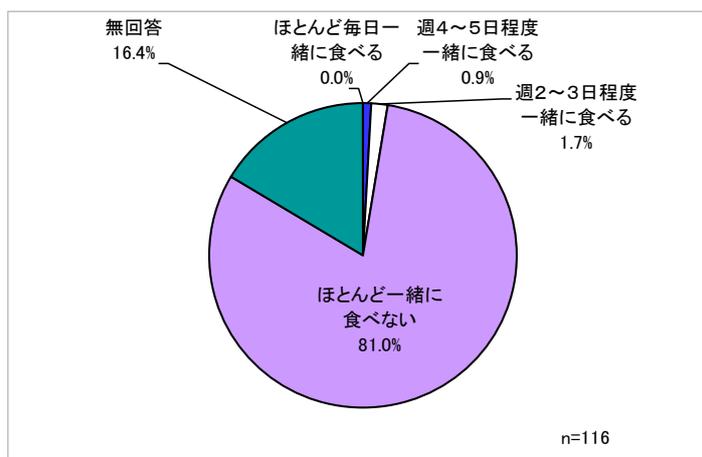


問12 あなたはふだん、朝食・夕食をどの程度、ご友人などと一緒に食べていますか。

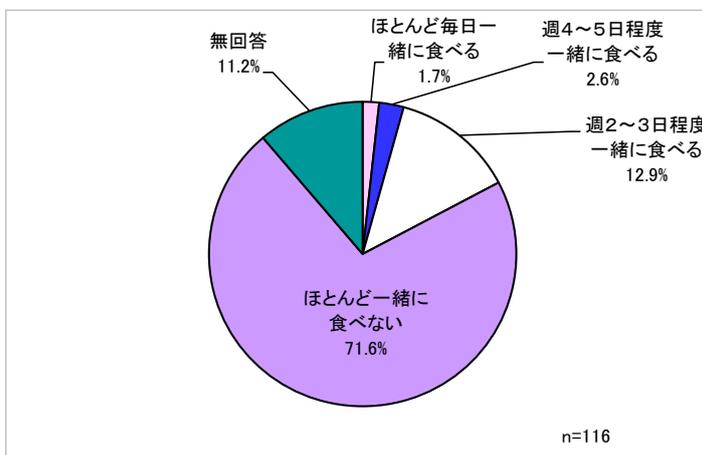
(ひとりぐらしの人のみ、○はそれぞれひとつずつ)

- ・朝食については「ほとんど一緒に食べない」が最も多く 81.0%で、全体の8割以上を占める。「週2～3日程度一緒に食べる」は 1.7%、「週4～5日程度一緒に食べる」は 0.9%といずれもごくわずかで、「ほとんど毎日一緒に食べる」との回答はなかった。
- ・夕食については「ほとんど一緒に食べない」が最も多く 71.6%で、全体の7割以上となっている。次いで「週2～3日程度一緒に食べる」は 12.9%、「週4～5日程度一緒に食べる」は 2.6%で、「ほとんど毎日一緒に食べる」は 1.7%となっている。

朝食



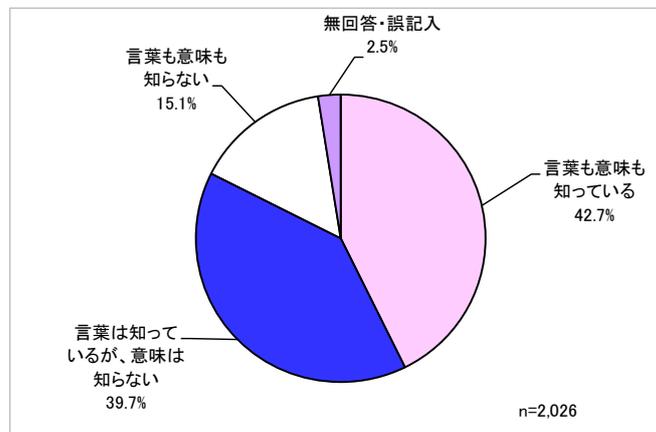
夕食



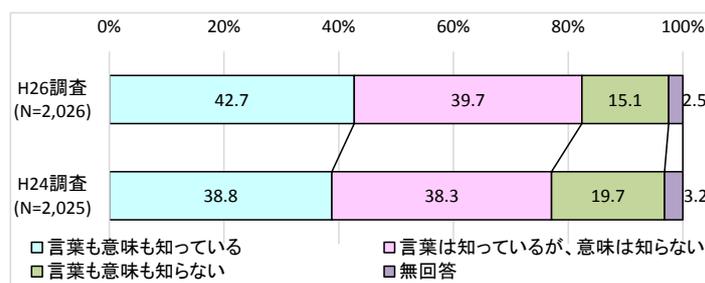
3. 食育について

問13 あなたは「食育」という言葉やその意味を知っていますか。(〇はひとつ)

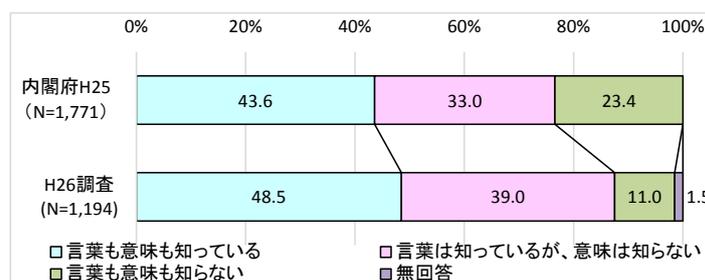
- ・「言葉も意味も知っている」が最も多く 42.7%、「言葉は知っているが、意味は知らない」が 39.7% で、これらを合わせると 82.4%と、「食育」という言葉自体の認知度は 8 割を超えている。「言葉も意味も知らなかった」は 15.1%と、2 割に満たない。
- ・前回 (平成 24 年度) 調査と比較すると、「言葉も意味も知っている」が 38.8%から 3.9 ポイント 増加、「言葉も意味も知らない」は 19.7%から 4.6 ポイント減少し、認知度は向上している、
- ・内閣府食育推進室が平成 26 年 5 月に発表した「食育に関する意識調査報告書」(以下、「平成 25 年度内閣府調査」とする)においては、「言葉も意味も知っている」(43.6%)、「言葉は知っていたが、意味は知らない」(33.0%)、「言葉も意味も知らない」(23.4%)となっており、「言葉も意味も知っている」では本調査の数値が 4.9 ポイント高く、「言葉も意味も知らない」の数値は 12.4 ポイント低くなっている。



前回 (平成 24 年度) 調査との比較



平成 25 年度内閣府調査結果との比較「食育の認知度」(20 歳以上)



※内閣府の調査の対象が 20 歳以上であるため、横浜市調査についても 20 歳以上で再集計しており、サンプル数は 1,194 となっている。

■ 男女・年齢別 食育の認知度（問 13× F 1）

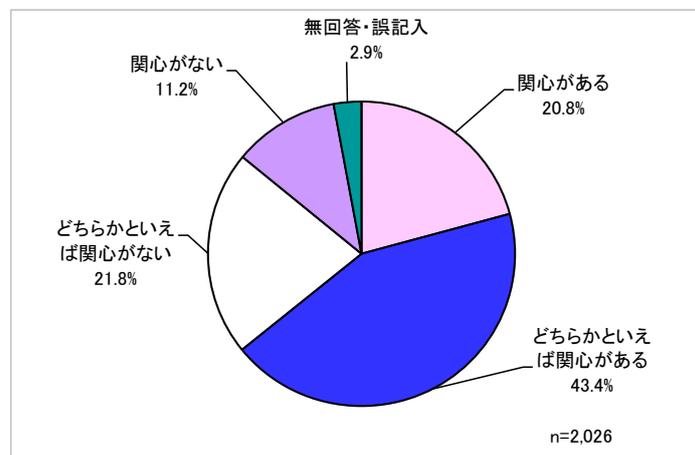
- ・女性は「言葉も意味も知っている」、男性は「言葉は知っているが、意味は知らない」が最も多く、女性は男性より「言葉も意味も知っている」の数値が 17.9 ポイント高くなっている。
- ・女性は、「20～29 歳」のみ「言葉は知っているが、意味は知らない」が最も多いが、それ以外は「言葉も意味も知っている」が最も多く「40～49 歳」「50～59 歳」では 6 割を超えている。また、「80 歳以上」では「言葉も意味も知らない」の数値が全体値を 10 ポイント以上上回っている。
- ・男性は、「50～59 歳」「70～79 歳」「80 歳以上」では「言葉も意味も知っている」が最も多いが、それ以外の世代では「言葉は知っているが、意味は知らない」が最も多くなっている。また、60 歳代以上の世代で「言葉も意味も知らない」の数値が全体値を 10 ポイント以上上回っている。

図 男女・年齢別 食育の認知度

		あなたは、「食育」という言葉やその意味を知っていますか。				
		言葉も意味も知っている	言葉は知っているが、意味は知らない	言葉も意味も知らない	無回答・誤記入	
全体		1,191	48.4%	39.1%	10.9%	1.5%
性×年齢	女性	723	55.5%	35.8%	6.8%	1.9%
	女性-20～29歳	75	44.0%	46.7%	9.3%	0.0%
	女性-30～39歳	167	58.7%	38.3%	1.8%	1.2%
	女性-40～49歳	174	68.4%	28.7%	2.3%	0.6%
	女性-50～59歳	68	64.7%	32.4%	2.9%	0.0%
	女性-60～69歳	84	45.2%	42.9%	10.7%	1.2%
	女性-70～79歳	99	46.5%	34.3%	11.1%	8.1%
	女性-80歳以上	56	41.1%	32.1%	23.2%	3.6%
	男性	468	37.6%	44.2%	17.3%	0.9%
	男性-20～29歳	44	27.3%	63.6%	9.1%	0.0%
	男性-30～39歳	70	32.9%	54.3%	12.9%	0.0%
	男性-40～49歳	66	40.9%	50.0%	9.1%	0.0%
	男性-50～59歳	49	46.9%	40.8%	12.2%	0.0%
	男性-60～69歳	93	36.6%	39.8%	21.5%	2.2%
男性-70～79歳	100	40.0%	36.0%	23.0%	1.0%	
男性-80歳以上	46	37.0%	32.6%	28.3%	2.2%	

問14 あなたは「食育」に関心がありますか。(〇はひとつ)

- ・「どちらかといえば関心がある」が43.4%で最も多く、次いで「どちらかといえば関心がない」が21.8%となっている。以下、「関心がある」(20.8%)、「関心がない」(11.2%)と続く。「どちらかといえば関心がある」「関心がある」を合わせると64.2%で、6割以上の方が食育について関心を持っているとしているが、「関心がない」「どちらかといえば関心がない」を合わせると33.0%で、全体のおよそ3分の1が食育に関心がないとしている。



■ 男女・年齢別 食育の関心度 (問14×F1)

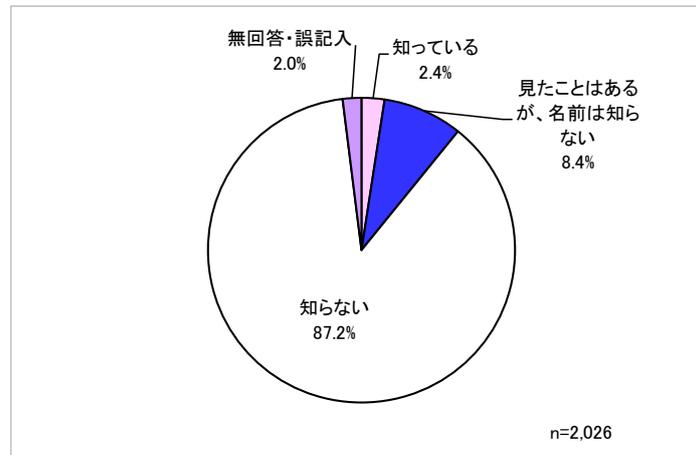
- ・女性は男性より「関心がある」の数値が10.7ポイント高くなっている。
- ・女性は、いずれも「どちらかといえば関心がある」が最も多く「80歳以上」では「関心がある」も同率となっている。また、「30～39歳」では「関心がある」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。
- ・男性は、いずれも「どちらかといえば関心がある」が最も多くなっている。また、「20～29歳」「40～49歳」「50～59歳」では「どちらかといえば関心がない」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。

図 男女・年齢別 食育の関心度

			あなたは、「食育」に関心がありますか。				
			関心がある	どちらか といえば 関心があ る	どちらか といえば 関心がな い	関心がな い	無回答
全体		1,191	25.1%	47.7%	20.7%	5.5%	1.1%
性×年齢	女性	723	29.3%	50.2%	16.3%	2.9%	1.2%
	女性-20～29歳	75	18.7%	52.0%	22.7%	6.7%	0.0%
	女性-30～39歳	167	37.7%	51.5%	7.8%	1.8%	1.2%
	女性-40～49歳	174	28.2%	56.3%	13.2%	1.7%	0.6%
	女性-50～59歳	68	22.1%	60.3%	17.6%		0.0%
	女性-60～69歳	84	26.2%	41.7%	29.8%	2.4%	0.0%
	女性-70～79歳	99	31.3%	46.5%	14.1%	2.0%	6.1%
	女性-80歳以上	56	32.1%	32.1%	25.0%	10.7%	0.0%
	男性	468	18.6%	43.8%	27.4%	9.4%	0.9%
	男性-20～29歳	44	9.1%	45.5%	40.9%	4.5%	0.0%
	男性-30～39歳	70	18.6%	48.6%	18.6%	12.9%	1.4%
	男性-40～49歳	66	21.2%	39.4%	31.8%	7.6%	0.0%
	男性-50～59歳	49	12.2%	44.9%	34.7%	8.2%	0.0%
	男性-60～69歳	93	15.1%	44.1%	28.0%	11.8%	1.1%
男性-70～79歳	100	24.0%	44.0%	24.0%	8.0%	0.0%	
男性-80歳以上	46	26.1%	39.1%	19.6%	10.9%	4.3%	

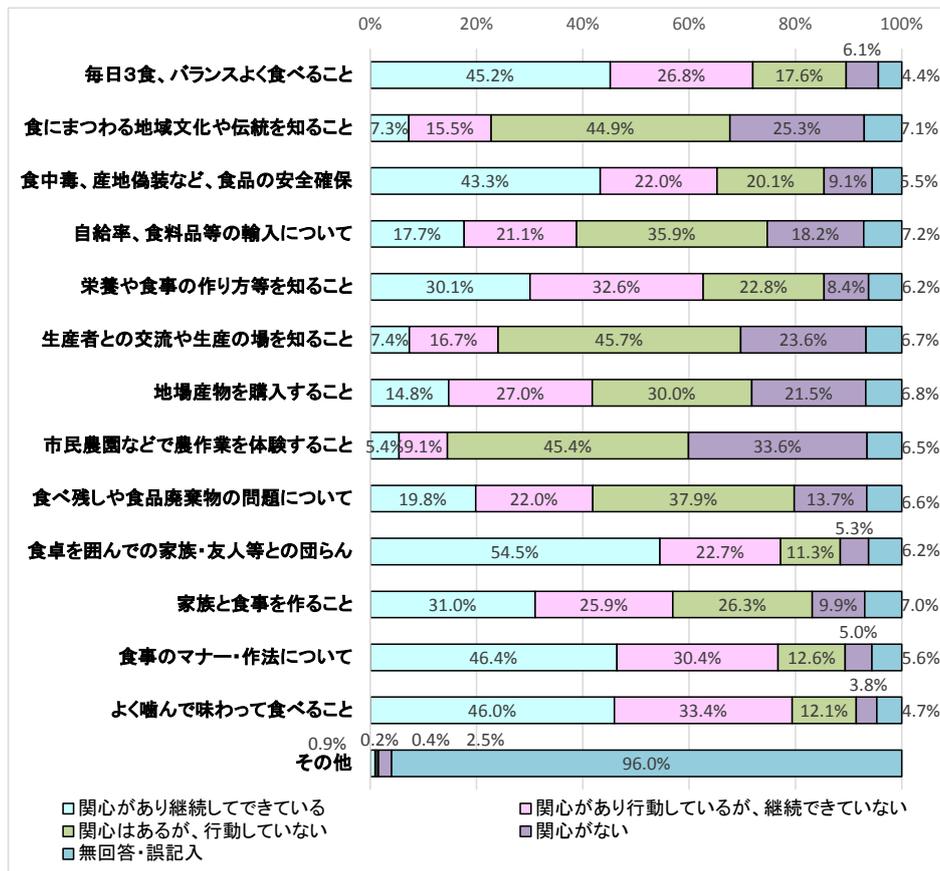
問15 あなたは、次の、横浜市の食育推進ロゴマークを知っていますか。(〇はひとつ)

- ・「知らない」が87.2%で全体の9割近くを占め、認知度は低い。「見たことはあるが、名前は知らない」は8.4%、「知っている」は2.4%で、これらを合わせると10.8%と、マークを目にしたことがある人も1割程度となっている。



問 1 6 あなたは次の「食育」に関する項目にどの程度関心がありますか。(〇はそれぞれひとつずつ)

- ・「関心があり継続してできている」が最も多かったのは、「食卓を囲んでの家族・友人等との団らん」(54.5%)、「食事のマナー・作法について」(46.4%)、「よく噛んで味わって食べること」(46.0%)、「毎日3食、バランスよく食べること」(45.2%)、「食中毒、産地偽装など、食品の安全確保」(43.3%)、「家族と食事を作ること」(31.0%)の6項目である。
- ・「関心があり行動しているが、継続できていない」が最も多かったのは、「栄養や食事の作り方等を知ること」(32.6%)の1項目である。
- ・「関心はあるが、行動していない」が最も多かったのは「生産者との交流や生産の場を知ること」(45.7%)、「市民農園などで農作業を体験すること」(45.4%)、「食にまつわる地域文化や伝統を知ること」(44.9%)、「食べ残しや食品廃棄物の問題について」(37.9%)、「自給率、食料品等の輸入について」(35.9%)、「地場産物を購入すること」(30.0%)の6項目である。
- ・「関心がない」が3割を超えていたのは「市民農園などで農作業を体験すること」(33.6%)、2割を超えていたのは「食にまつわる地域文化や伝統を知ること」(25.3%)、「生産者との交流や生産の場を知ること」(23.6%)、「地場産物を購入すること」(21.5%)である。

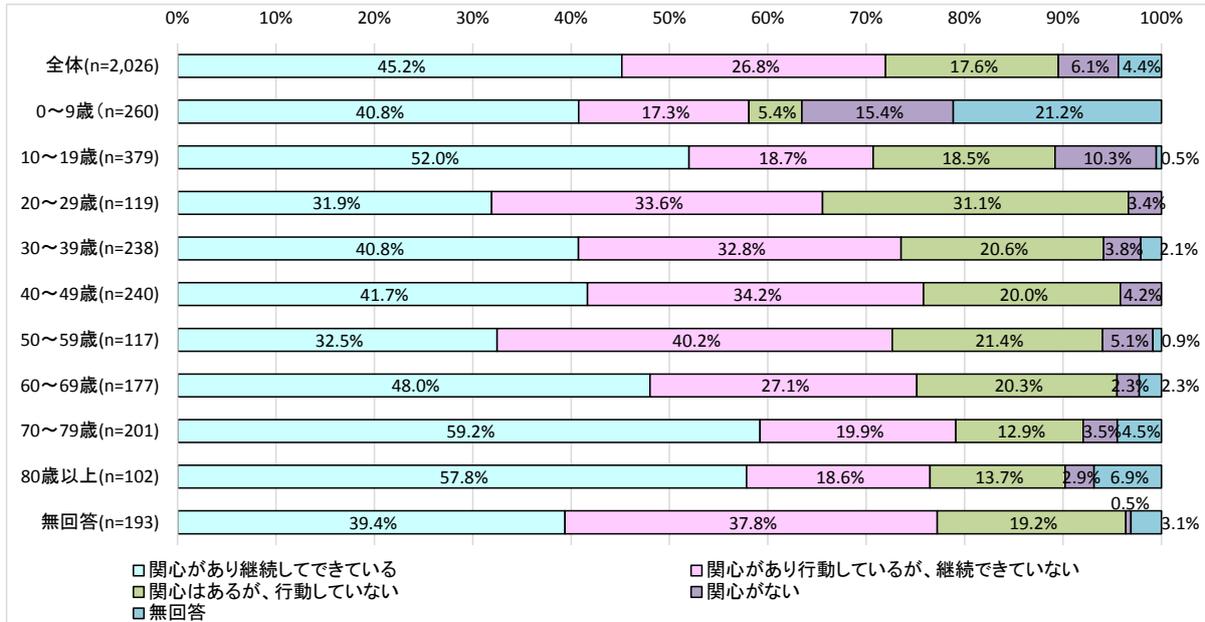


■ 年齢別 「食育」に関する項目への関心度（問16×F1）

毎日3食、バランスよく食べること

- ・「20～29歳」と「50～59歳」で「関心があり行動しているが、継続できていない」、それ以外は「関心があり継続してできている」が最も多くなっている。また、「20～29歳」では「関心はあるが、行動していない」の数値も全体値に比べて10ポイント以上高い。

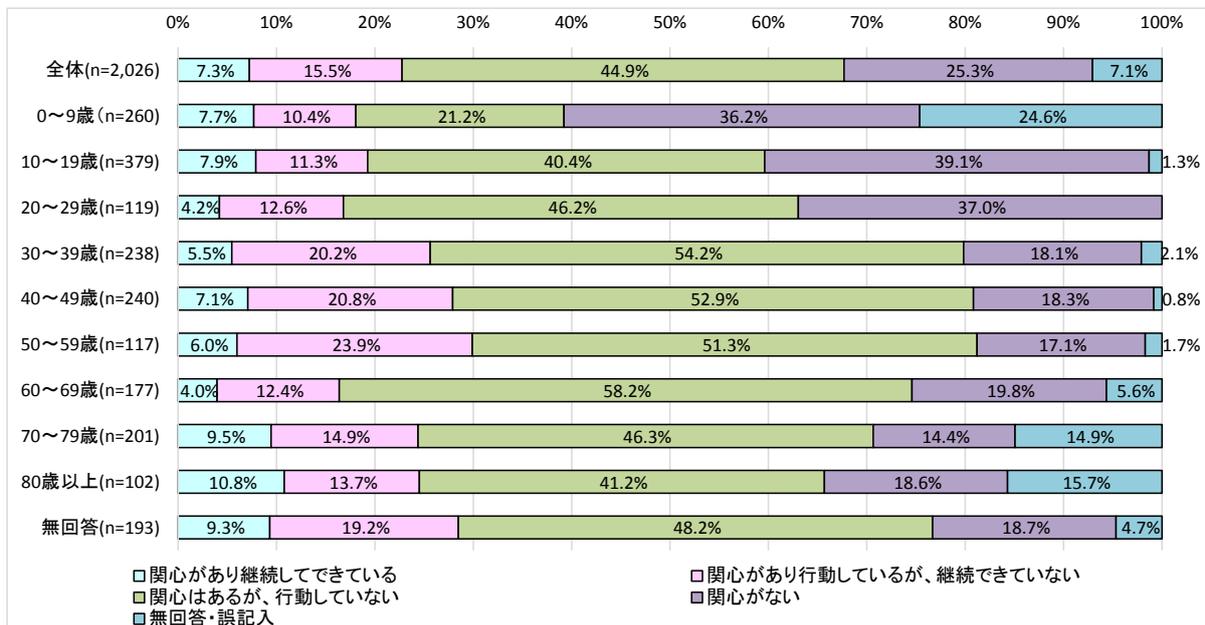
図 年齢別 「毎日3食、バランスよく食べること」への関心度



食にまつわる地域文化や伝統を知ること

- ・「0～9歳」では「関心がない」、「10～19歳」より上の世代では「関心はあるが、行動していない」が最も多い。また、「10～19歳」「20～29歳」では「関心がない」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高く、若い世代で関心が低くなっている。

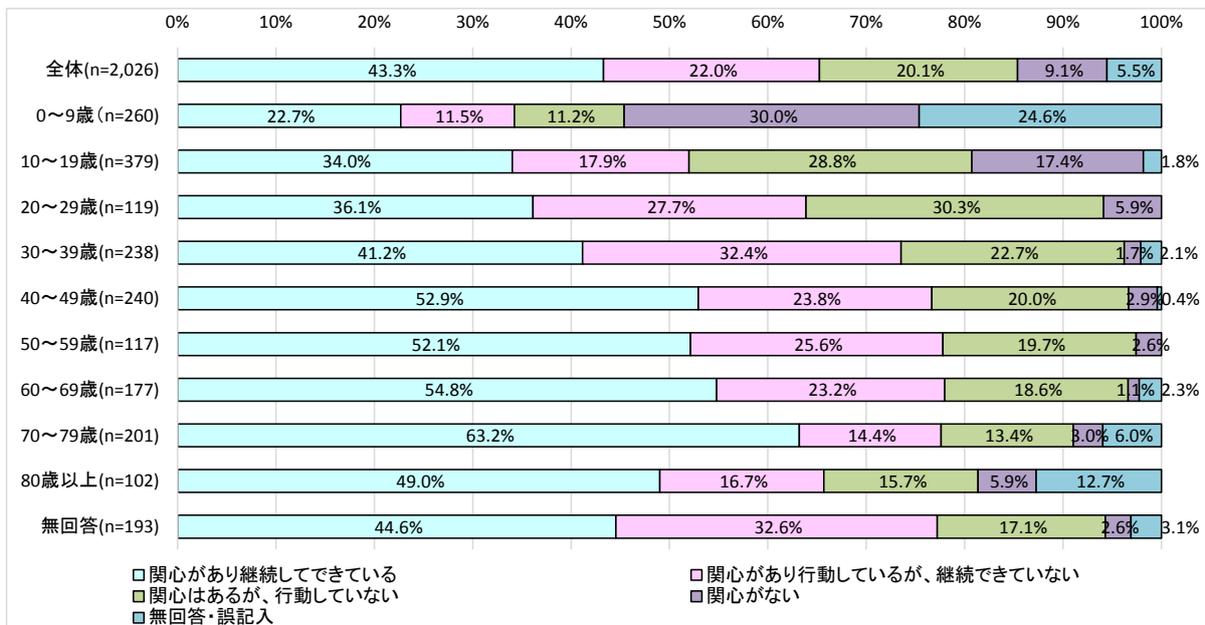
図 年齢別 「食にまつわる地域文化や伝統を知ること」への関心度



食中毒、産地偽装など、食品の安全確保

- ・「0～9 歳」では「関心がない」、「10～19 歳」より上の世代では「関心があり継続してできている」が最も多い。また、「20～29 歳」では「関心はあるが、行動していない」、「30～39 歳」では「関心があり行動しているが、継続できていない」の数値が全体値に比べて 10 ポイント以上高くなっている。

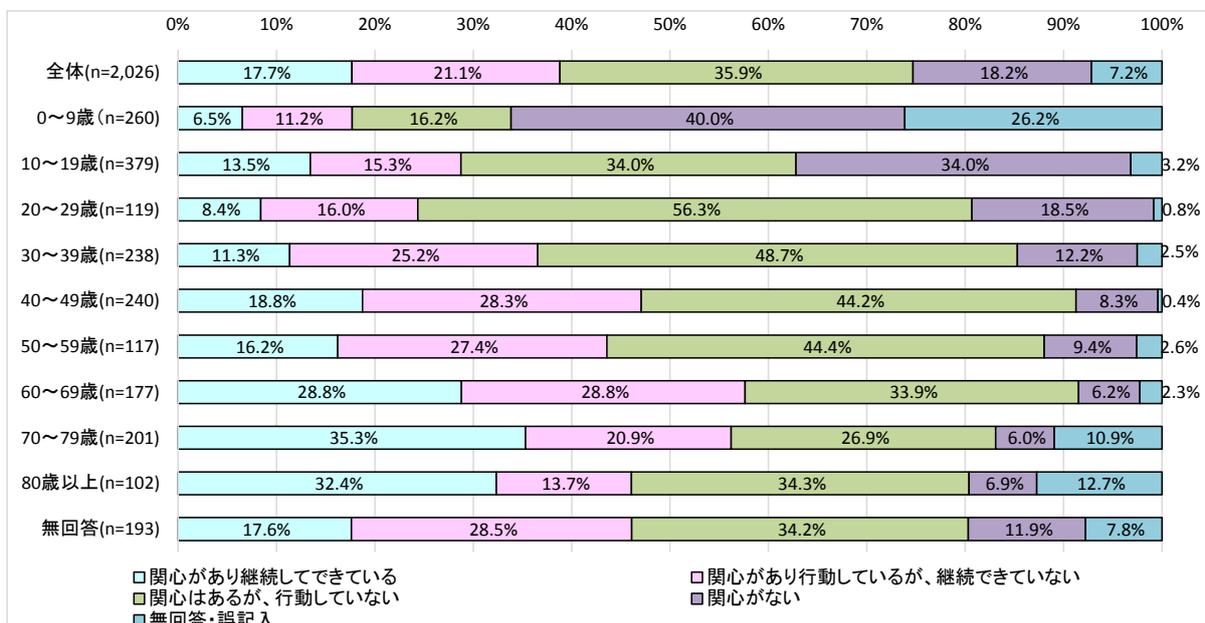
図 年齢別 「食中毒、産地偽装など、食品の安全確保」への関心度



自給率、食料品等の輸入について

- ・「0～9 歳」では「関心がない」、「10～19 歳」では「関心はあるが、行動していない」「関心がない」が同率、「70～79 歳」では「関心があり継続してできている」、それ以外の世代では「関心はあるが、行動していない」が最も多い。また、「60～69 歳」「80 歳以上」では「関心があり継続してできている」の数値が全体値に比べて 10 ポイント以上高く、70 歳代を中心に高齢者層で関心が高くなっている。

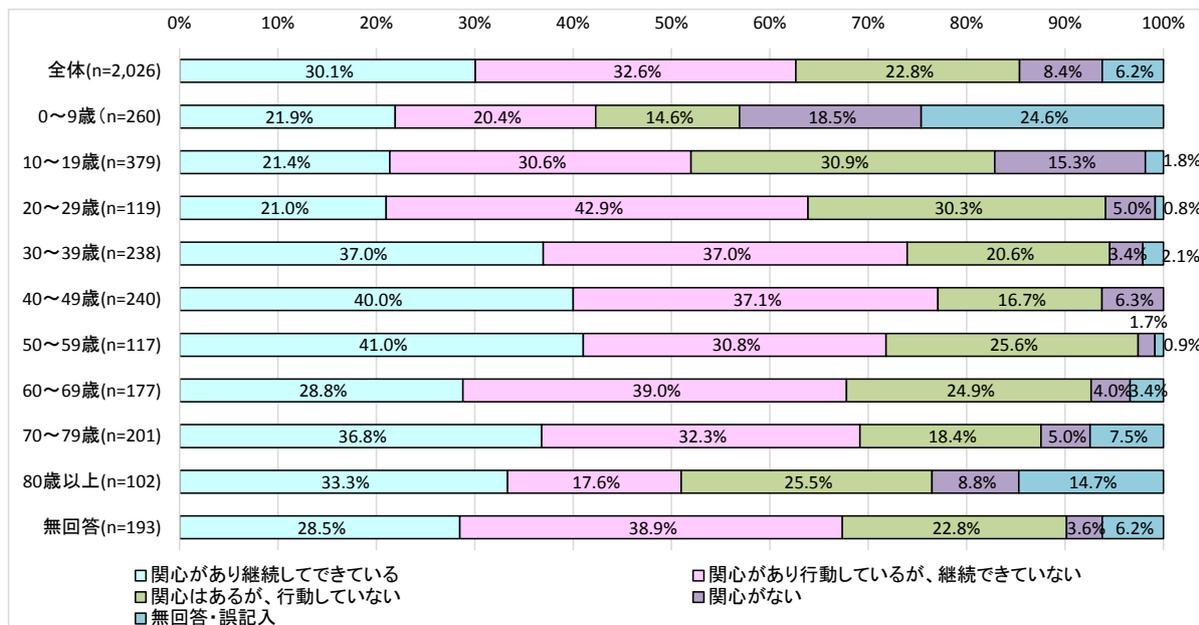
図 年齢別 「自給率、食料品等の輸入について」への関心度



栄養や食事の作り方等を知ること

- ・「10～19歳」では「関心はあるが、行動していない」、「20～29歳」「60～69歳」では「関心があり行動しているが、継続できていない」、「30～39歳」では「関心があり継続してできている」「関心があり行動しているが、継続できていない」が同率、それ以外の世代では「関心があり継続してできている」が最も多い。また、「0～9歳」では「関心がない」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。

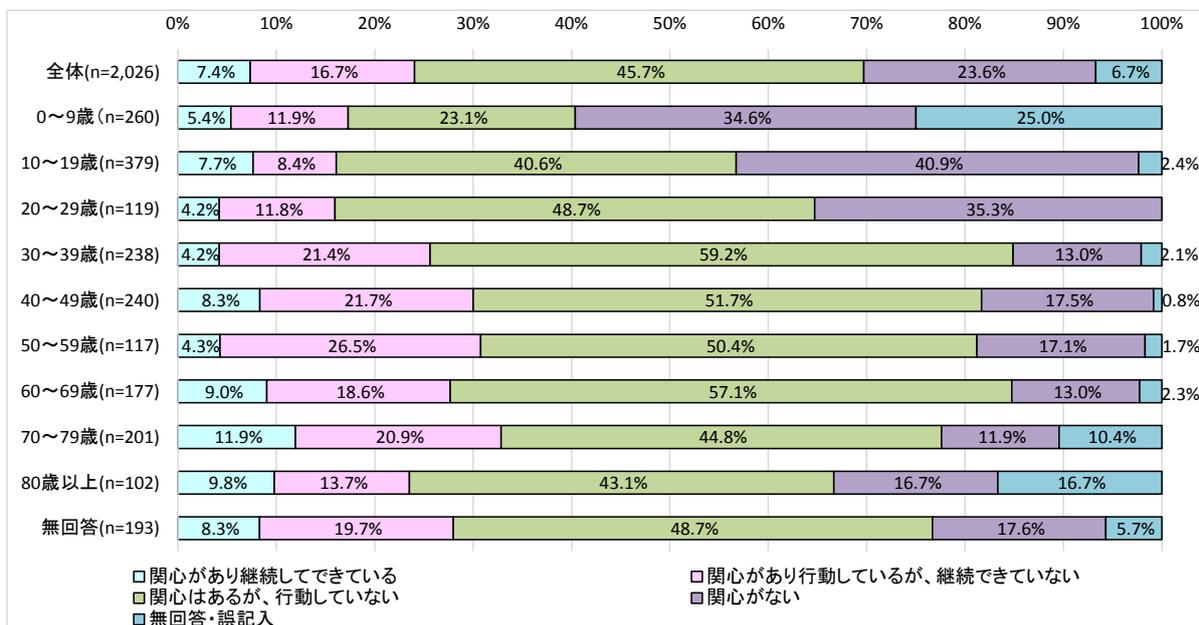
図 年齢別 「栄養や食事の作り方等を知ること」への関心度



生産者との交流や生産の場を知ること

- ・「0～9歳」「10～19歳」では「関心がない」、「20～29歳」より上の世代では「関心はあるが、行動していない」が最も多い。また、「20～29歳」でも「関心がない」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高く、若い世代での関心が低くなっている。

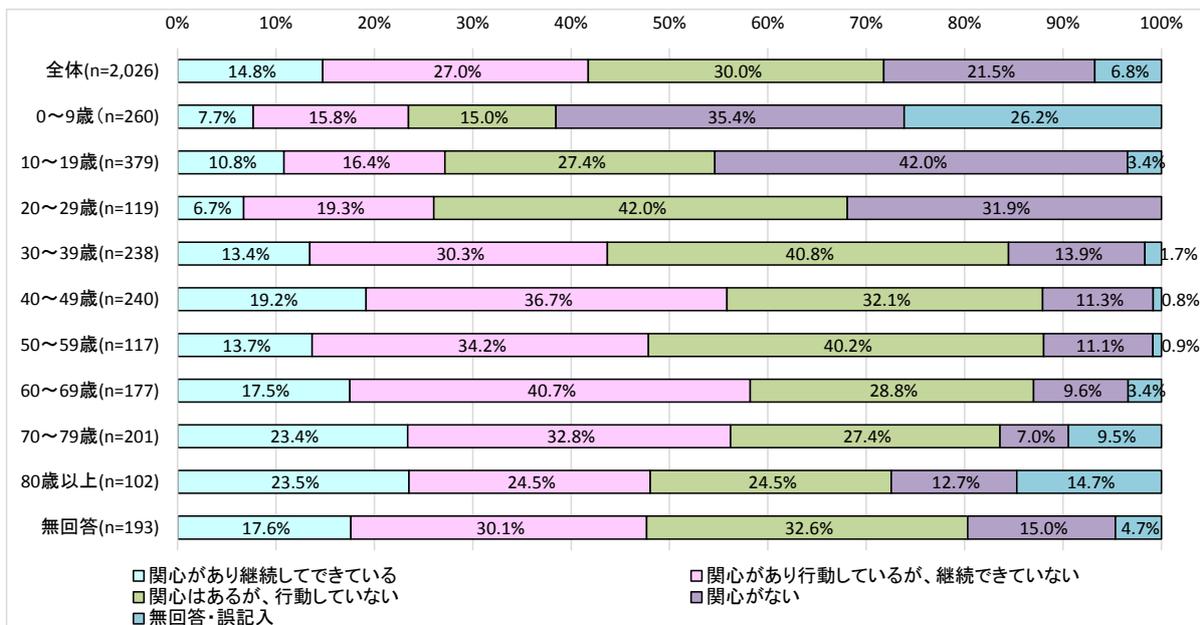
図 年齢別 「生産者との交流や生産の場を知ること」への関心度



地場産物を購入すること

- ・「0～9歳」「10～19歳」では「関心がない」、「20～29歳」「30～39歳」「50～59歳」では「関心はあるが、行動していない」、それ以外の世代では「関心があり行動しているが、継続できていない」が最も多く、「80歳以上」では「関心があり行動しているが、継続できていない」「関心はあるが、行動していない」が同率である。また、「20～29歳」でも「関心がない」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高く、若い世代ほど関心が低い傾向にある。

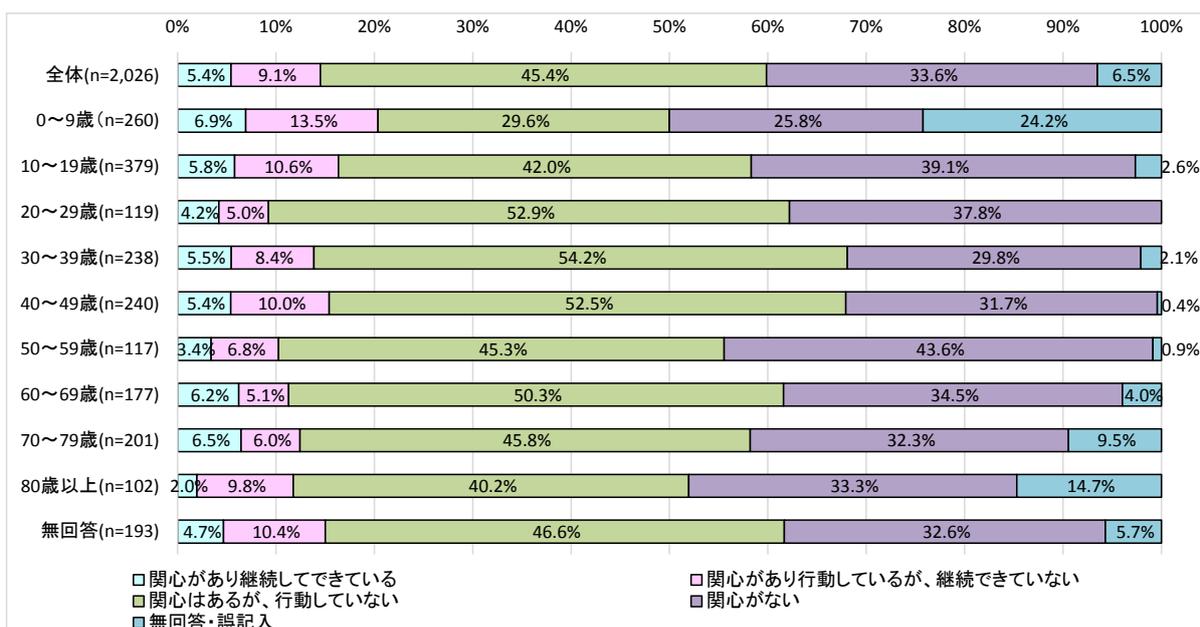
図 年齢別 「地場産物を購入すること」への関心度



市民農園などで農作業を体験すること

- ・いずれの世代でも「関心はあるが、行動していない」が最も多くなっている。

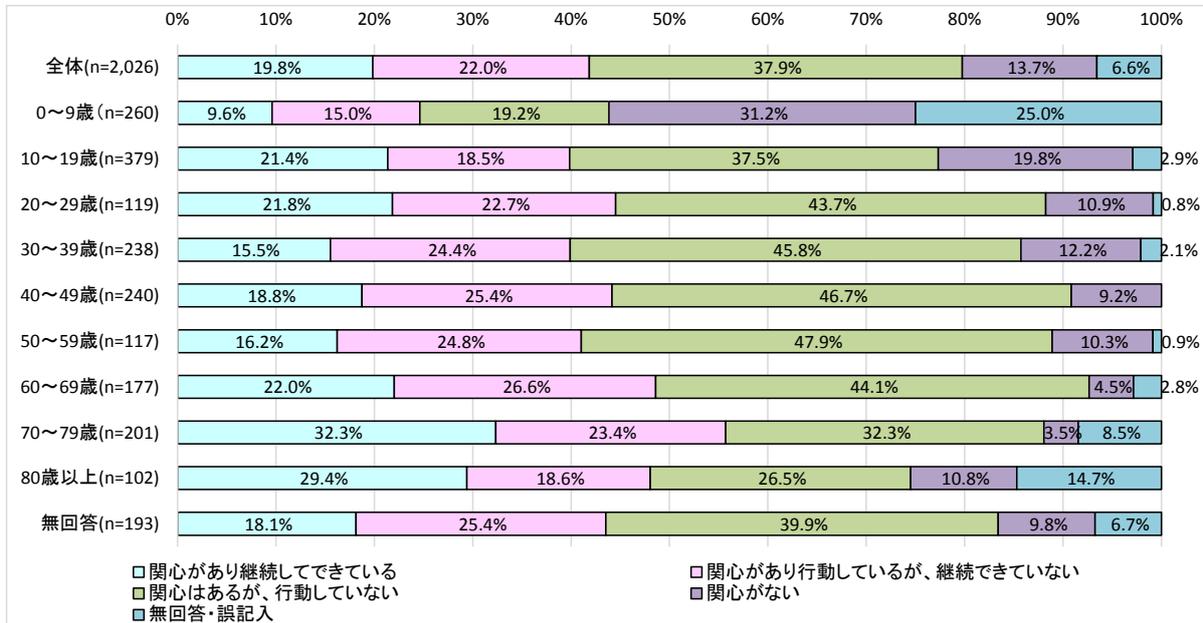
図 年齢別 「市民農園などで農作業を体験すること」への関心度



食べ残しや食品廃棄物の問題について

- ・「0～9歳」では「関心がない」、「10～19歳」から「60～69歳」までの世代では「関心はあるが、行動していない」、「80歳以上」では「関心があり継続してできている」が最も多く、「70～79歳」では「関心があり継続してできている」「関心はあるが、行動していない」が同率である。

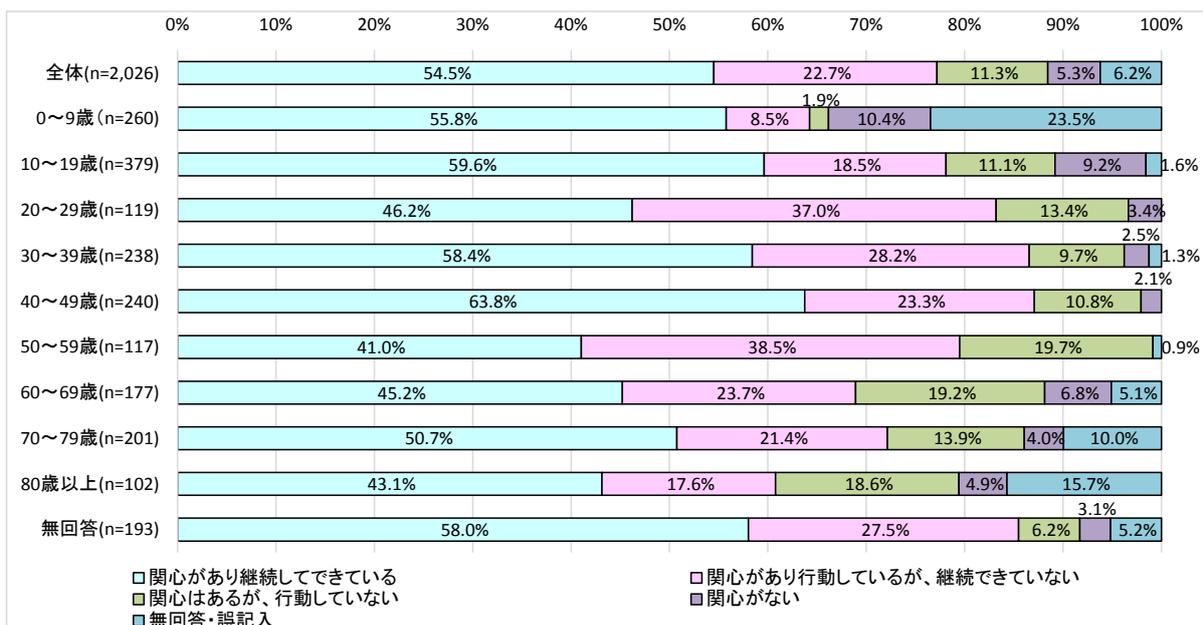
図 年齢別 「食べ残しや食品廃棄物の問題について」への関心度



食卓を囲んでの家族・友人等との団らん

- ・いずれの世代でも「関心があり継続してできている」が最も多くなっている。「20～29歳」「50～59歳」では「関心があり行動しているが、継続できていない」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。

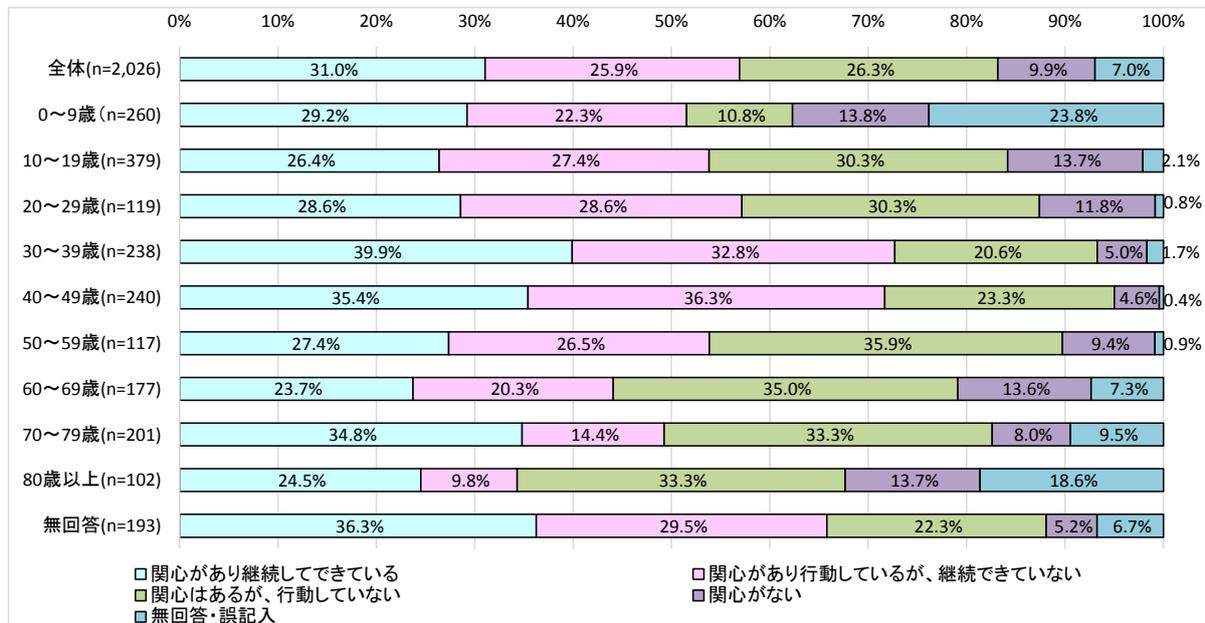
図 年齢別 「食卓を囲んでの家族・友人等との団らん」への関心度



家族と食事を作ること

- ・「0～9歳」「30～39歳」「70～79歳」では「関心があり継続してできている」、「40～49歳」では「関心があり行動しているが、継続できていない」、それ以外の世代では「関心はあるが、行動していない」が最も多くなっている。

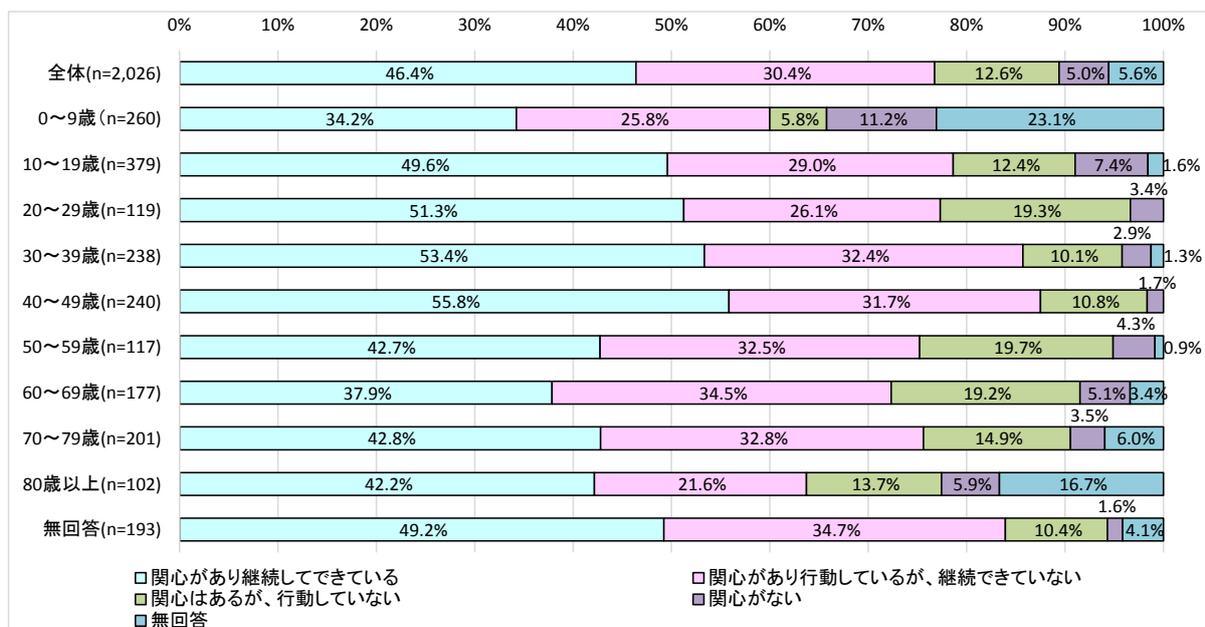
図 年齢別 「家族と食事を作ること」への関心度



食事のマナー・作法について

- ・いずれの世代でも「関心があり継続してできている」が最も多くなっている。

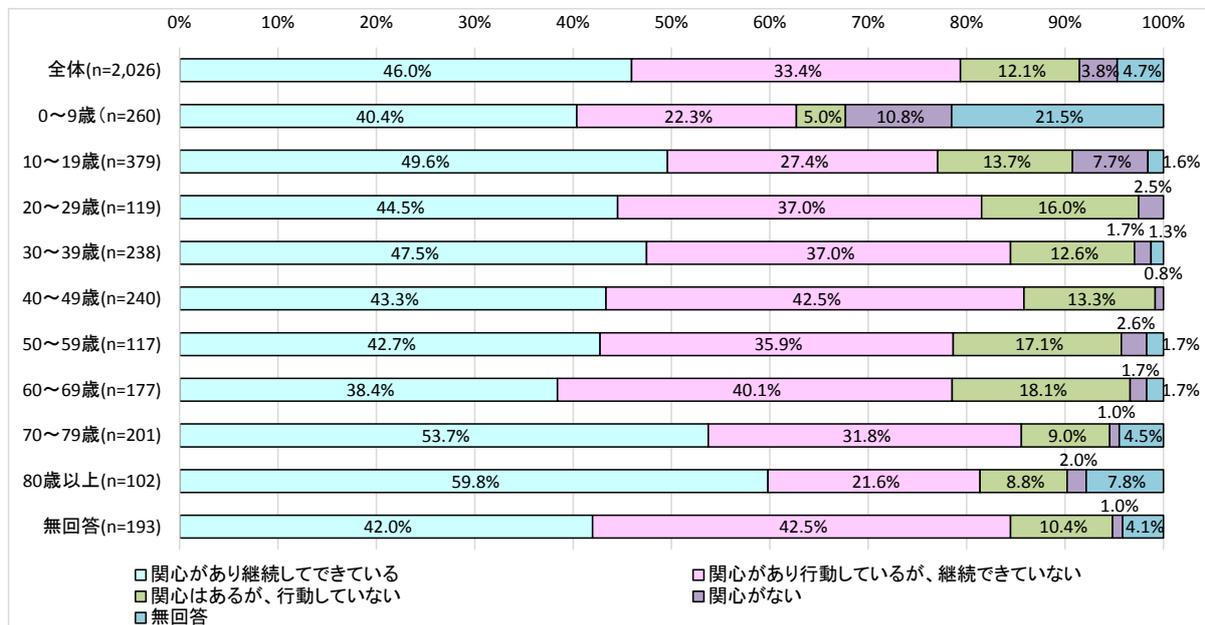
図 年齢別 「食事のマナー・作法について」への関心度



よく噛んで味わって食べること

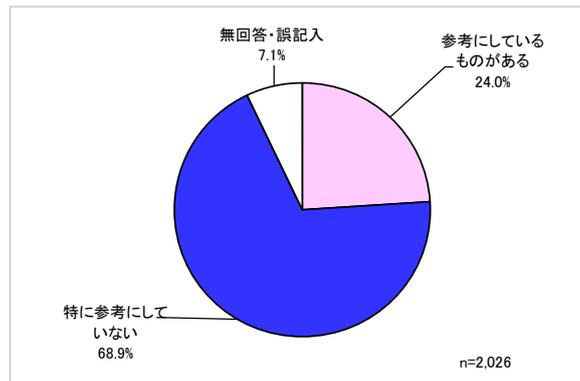
- ・「60～69歳」では「関心があり行動しているが、継続できていない」、それ以外の世代では「関心があり継続してできている」が最も多くなっている。

図 年齢別 「よく噛んで味わって食べること」への関心度

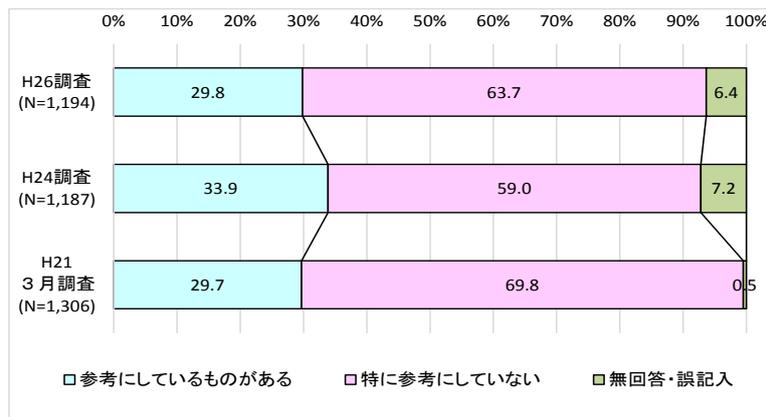


問17 あなたは、健康的な食生活を実践するため参考にしている指針等がありますか。(〇はひとつ)

- ・「特に参考にしていない」が68.9%で、「参考にしているものがある」の24.0%を44.9ポイント大きく上回っている。
- ・平成21年3月調査、平成24年度（前回）調査の20歳以上の数値と比較すると、「参考にしているものがある」の数値は前回調査の段階ではいったん増加しているが、今回調査では29.8%と平成21年調査と同程度の水準に戻っている。また、平成21年度調査については「食事バランスガイド」の参考状況の数値となっている。



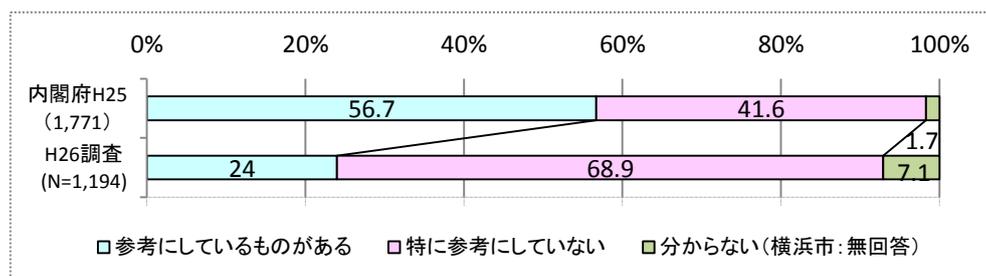
前々回（平成21年3月調査）、前回（平成24年度調査）との比較



注1) 平成21年度調査については「食事バランスガイド」を参考にしている人の割合

注2) 20歳以上で再集計

**平成25年度内閣府調査結果との比較
健全な食生活を実践するための指針の有無（20歳以上）**

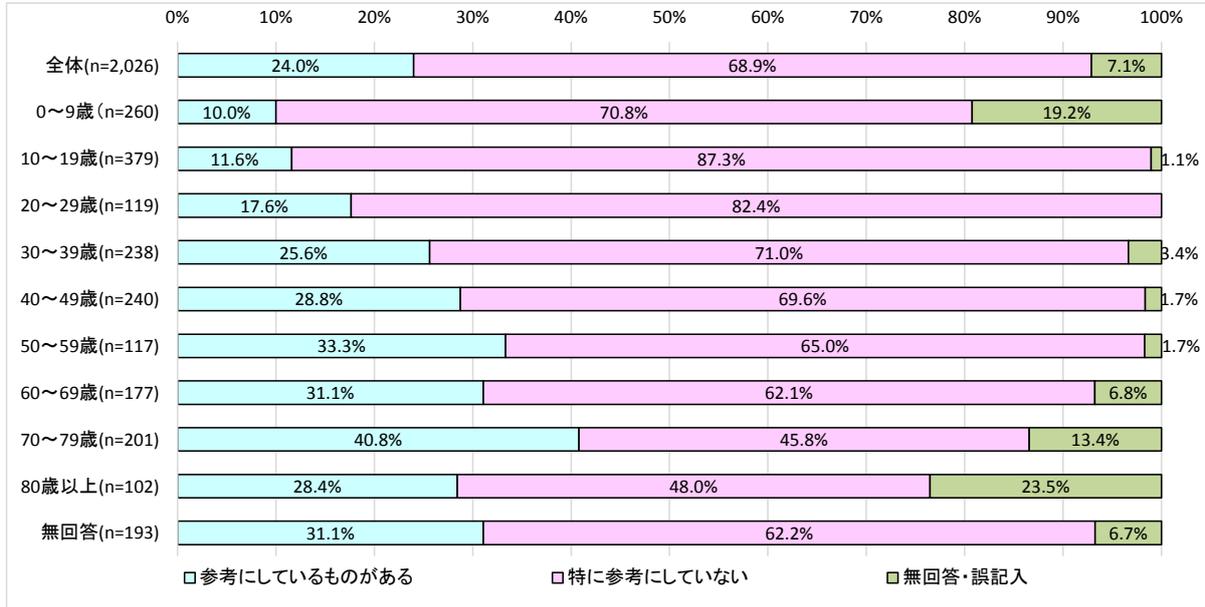


※内閣府の調査の対象が20歳以上であるため、横浜市調査についても20歳以上で再集計しており、サンプル数は1,194となっている。

■ 年齢別 参考にしている指針等の有無（問 17× F 1）

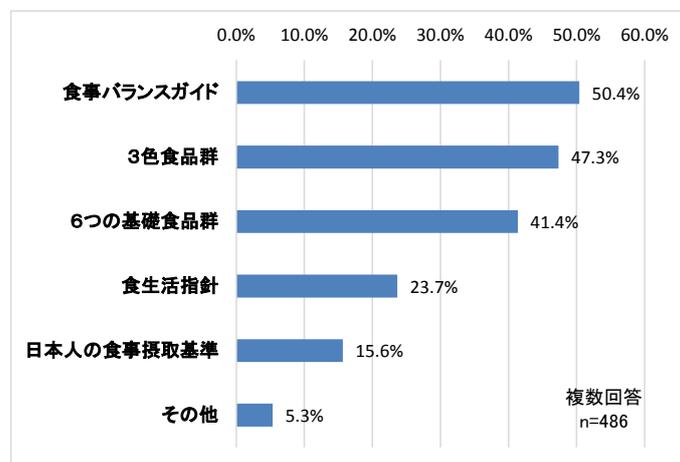
- ・いずれの年代も「特に参考にしていない」のほうが多いが、若い層ほど数値が高い傾向にあり、「70～79歳」では「参考にしているものがある」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高い。

図 年齢別 参考にしている指針等の有無



問17-1 あなたは、どのような指針等を参考にしていますか。（〇は3つまで）

- ・「食事バランスガイド」が最も多く 50.4%で、ほぼ半数の人が挙げている。次いで「3色食品群」が 47.3%、「6つの基礎食品群」が 41.4%で、これらについても4割以上の方が挙げている。以下「食生活指針」（23.7%）、「日本人の食事摂取基準」（15.6%）、「その他」（5.3%）の順である。



■ 年齢別 参考にしている指針（問17-1×F1）

- ・「10～19歳」では「6つの基礎食品群」「3色食品群」が同率、「40～49歳」「50～59歳」では「3色食品群」、それ以外の世代では「食事バランスガイド」が最も多くなっている。
- ・「60～69歳」「70～79歳」では「食生活指針」、「80歳以上」では「日本人の食事摂取基準」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。

	合計	食事バ ランスガ イド	食生活指 針	日本人の 食事摂取 基準	6つの基 礎食品群	3色食品 群	その他
全体	486	50.4%	23.7%	15.6%	41.4%	47.3%	5.3%
0～9歳	26	61.5%	7.7%	0.0%	34.6%	53.8%	3.8%
10～19歳	44	36.4%	13.6%	18.2%	56.8%	56.8%	2.3%
20～29歳	21	42.9%	14.3%	19.0%	14.3%	52.4%	4.8%
30～39歳	61	50.8%	21.3%	23.0%	44.3%	32.8%	4.9%
40～49歳	69	36.2%	20.3%	7.2%	43.5%	56.5%	7.2%
50～59歳	39	43.6%	10.3%	12.8%	43.6%	51.3%	5.1%
60～69歳	55	61.8%	34.5%	18.2%	38.2%	45.5%	3.6%
70～79歳	82	58.5%	40.2%	20.7%	41.5%	41.5%	7.3%
80歳以上	29	79.3%	17.2%	27.6%	31.0%	55.2%	3.4%
無回答	60	43.3%	26.7%	8.3%	43.3%	43.3%	6.7%

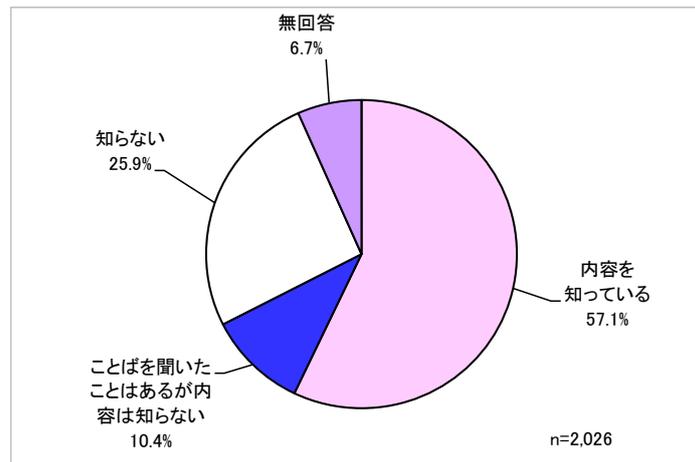
問18 あなたが、横浜らしい「食べ物」や「料理」と思うものは何ですか。1つだけ、ご自由にお書きください。

・1420人から1553件の意見があった。

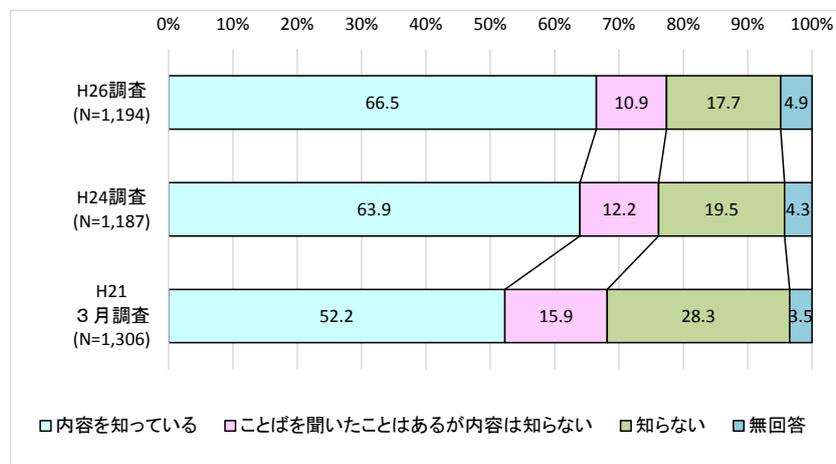
順位	食品・料理	件数	含まれる表現
1位	焼売	763	焼売、崎陽軒、崎陽軒シウマイ、シュウマイ弁当、中華料理(シューマイ)
2位	中華料理(焼売、サンマーマン、肉まんは除く)	251	中華料理、あんかけラーメン、餃子、炒飯、酢の物、月餅、ごまだんご、小籠包、中華街、中華街の料理、中華的な物、チリコンカーン、春巻き、本格中華料理、
3位	サンマーマン	117	サンマーマン、横浜サンマーマン
4位	はま菜ちゃん野菜、果物全般(浜なしは除く)	84	はま菜ちゃん、はま菜、はま菜チャンプル、うど、瀬谷うど、キャベツ、ゴーヤ、小松菜、一夜漬(野菜)、さつまいも、ダイコン、三浦ダイコン、三浦ダイコン煮物、三浦の野菜果物、野菜、野菜炒め、地産野菜、チャンプル、東本郷のトマト、トマト、菜っ葉、農協・地元野菜、白菜、畑で採れた野菜、浜柿、横浜産柿、鎌倉野菜、ブドウ、ハウレンソウ、果物も夏にはなし、秋には柿など
5位	ラーメン	72	ラーメン、家系ラーメン、家系ラーメン(吉村家)、横浜家系ラーメン、担担麺、タンメン、
6位	浜なし	62	浜なし、梨
7位	洋食・洋菓子	51	洋食、ハングリータイガー(ハンバーグ)、ハンバーグなど、オムライス、コロケ、ナポリタン、ケチャップ、スパゲティーナポリタン、ホテルニューグランドのナポリタン、ドリア、有明のハーバー、ハーバー、横浜ラスク、鳩サブレ、パン、ビール、カステラ、レーズンサンド、霧笛楼のチョコレート、
8位	肉まん	40	肉まん、中華まん、中華饅頭、中華街の肉まん
8位	海産物	28	海産物、あなご、アナゴ丼、しゃこ、しゃこの煮たもの、シラス、シラス丼、クジラ肉、マグロ、魚、魚料理、魚類、お寿司
10位	アイスクリーム	27	アイスクリーム、アイス、馬車道アイス、横浜馬車アイス
11位	カレー	23	カレー、カレーライス、海軍カレー
12位	すき焼き・牛鍋	15	すき焼き、牛鍋、地元のものを使った鍋、鍋料理
13位	はまポーク	12	はまポーク、豚肉、浜ブタ、はまポーク丼、鎌倉ハム
	その他	8	他、横浜で生産した食べ物、各方面から取り入れられた食材を使った料理、里いもを使ったけんちん汁や春菊など葉物で作る白和えごまおひたし、天ぷら、肉じゃが、和食、とりのからあげ
	合計	1,553	

問19 あなたは「地産地消」とは何か知っていましたか。(〇はひとつ)

- ・「内容を知っている」が 57.1%と過半数を占めている。「知らない」は 25.9%で全体の約4分の1である。「ことばを聞いたことはあるが内容は知らない」は10.4%で、「内容を知っている」と合わせると 67.5%と、言葉自体の認知度は7割近くに達している。
- ・平成 21 年 3 月調査、平成 24 年度（前回）調査の 20 歳以上の数値と比較すると、「内容を知っている」の数値は平成 21 年は 52.2%だったのに対し、平成 24 年度は 63.9%で 11.7 ポイント増加し、今年度はさらに 2.6 ポイント増加して 66.5%と、「地産地消」の認知度は着実に向上している。



前々回（平成 21 年 3 月調査）、前回（平成 24 年度調査）との比較



注) 20 歳以上で再集計

■ 男女・年齢別 「地産地消」の認知度 (問19×F1×F2)

- ・女性では、「0～9歳」のみ「知らない」、それ以外は「内容を知っている」が最も多く、40歳代と60歳代では7割を超えている。
- ・男性では、「0～9歳」のみ「知らない」、それ以外は「内容を知っている」が最も多く、30歳代から60歳代までの世代で7割を超え、特に中年層での認知度が高くなっている。

図 男女・年齢別 「地産地消」の認知度 <女性>

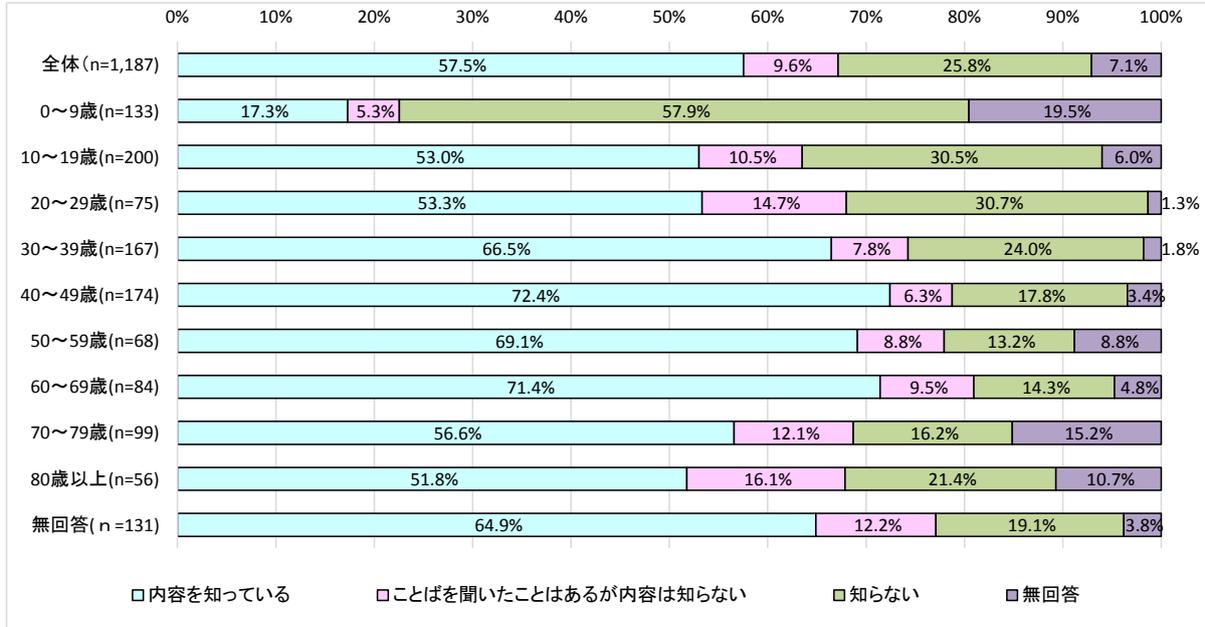
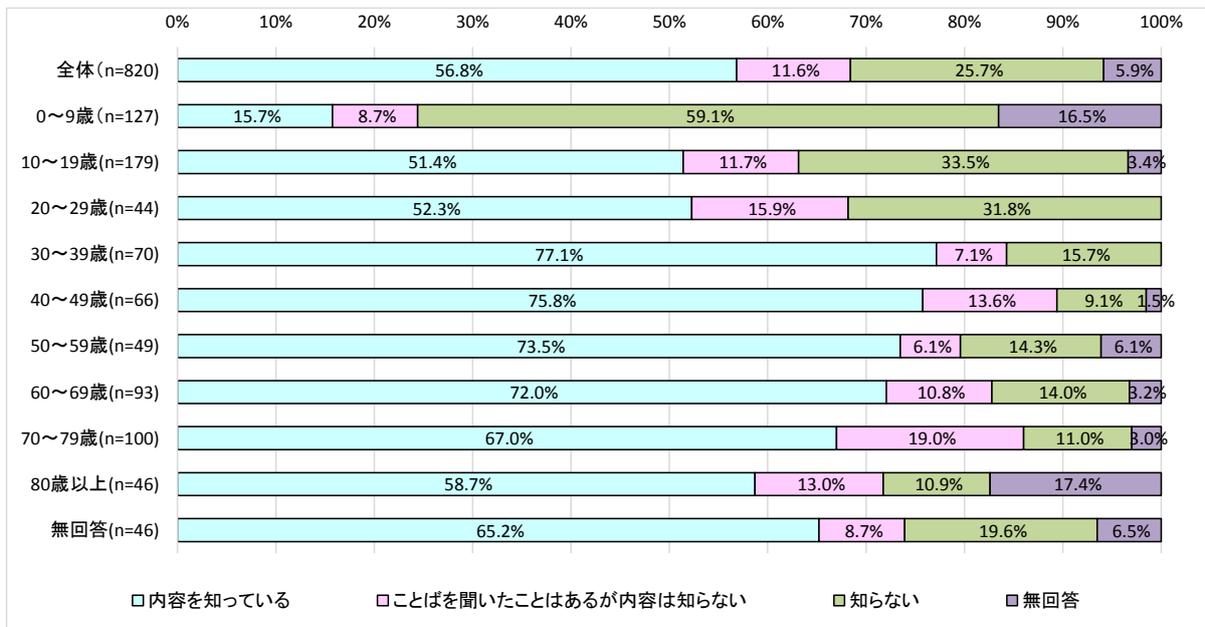
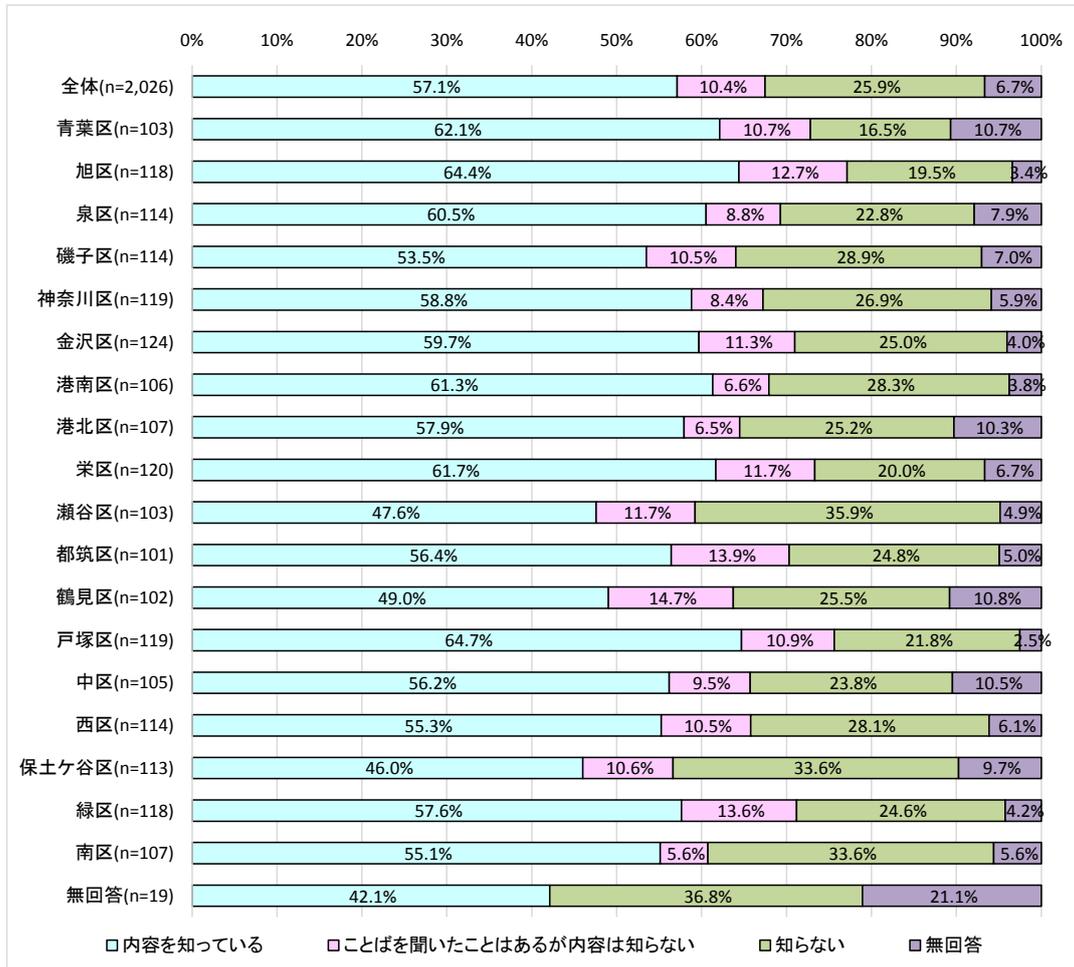


図 男女・年齢別 「地産地消」の認知度 <男性>



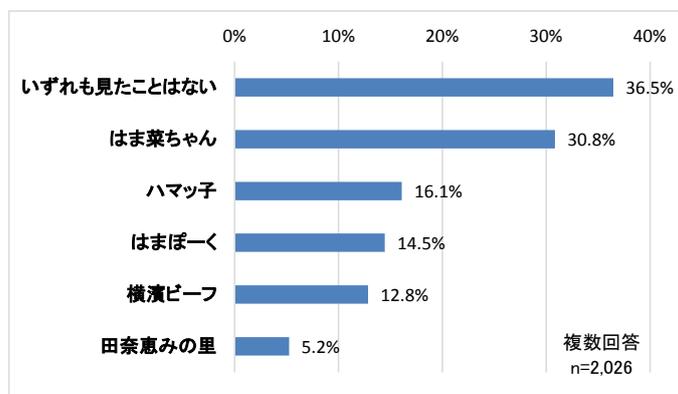
■ 居住区別 「地産地消」の認知度（問19×F2）

・いずれの区でも「内容を知っている」が最も多く、青葉区、旭区、泉区、港南区、栄区、戸塚区の6区では6割を超えている。また、瀬谷区では「知らない」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。



問20 あなたは、「地産地消」につながる以下のマークを見たことがありますか。(〇はいくつでも)

- ・「いずれも見たことはない」が 36.5%で最も多くなっている。「はま菜ちゃん」が 30.8%で最も認知度が高く約3割が見たことがあるとしているが、「ハマッ子」は 16.1%、「はまぼーく」は 14.5%、「横濱ビーフ」は 12.8%、「田奈恵みの里」は 5.2%となっており、「はま菜ちゃん」以外の認知度は高いとは言えない。



■ 年齢別 「地産地消」につながるマークを見たことがあるか (問20×F1)

- ・「10～19歳」「40～49歳」は「はま菜ちゃん」が最も多く、特に「10～19歳」で約7割の高い数値となっている。それ以外は「いずれも見たことはない」が最も多くなっている。また、「50～59歳」で「はまぼーく」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。

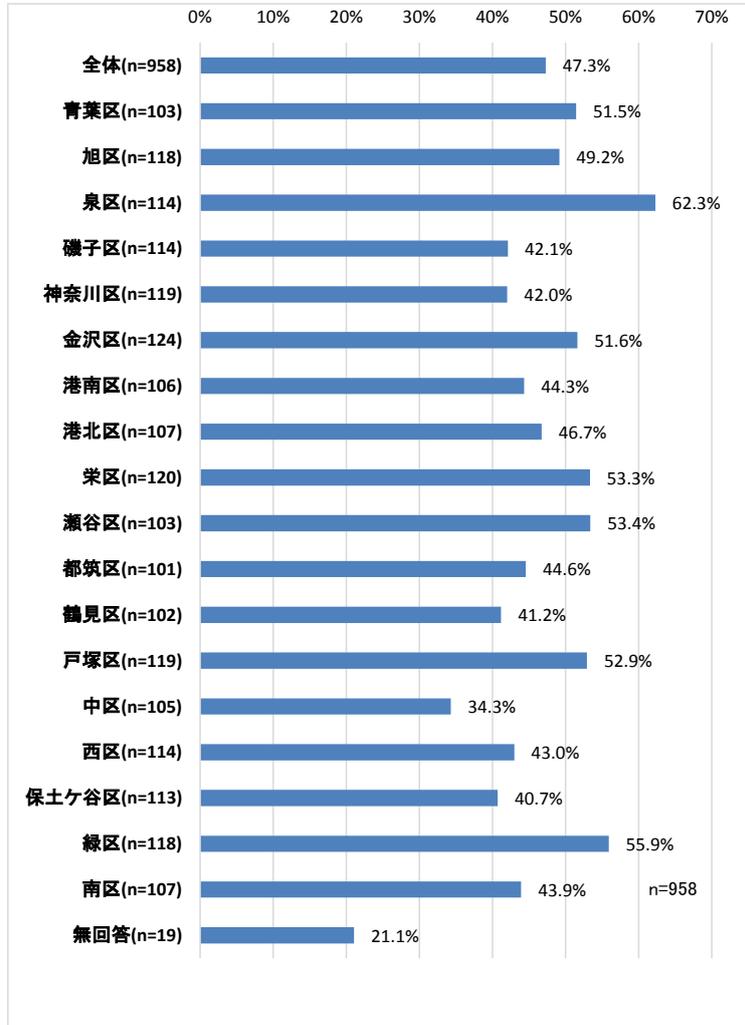
図 年齢別 「地産地消」につながるマークの認知度

	合計	はま菜ちゃん	田奈恵みの里	横濱ビーフ	ハマッ子	はまぼーく	いずれも見たことはない
全体	2,026	30.8%	5.2%	12.8%	16.1%	14.5%	36.5%
0～9歳	260	23.1%	5.8%	7.7%	16.5%	9.6%	36.2%
10～19歳	379	69.9%	9.0%	13.5%	20.3%	13.7%	16.9%
20～29歳	119	28.6%	6.7%	13.4%	11.8%	10.9%	45.4%
30～39歳	238	18.9%	5.0%	13.9%	13.9%	17.6%	44.1%
40～49歳	240	35.8%	4.2%	15.0%	17.5%	21.3%	35.0%
50～59歳	117	26.5%	6.8%	17.1%	25.6%	27.4%	38.5%
60～69歳	177	10.2%	4.0%	12.4%	14.7%	10.7%	49.7%
70～79歳	201	14.9%	2.0%	11.4%	12.4%	9.0%	45.8%
80歳以上	102	9.8%	0.0%	13.7%	12.7%	7.8%	37.3%
無回答	193	23.8%	4.1%	13.0%	11.9%	17.1%	38.9%

■ 居住区別 「地産地消」につながるマークを見たことがあるか（問 20×F 2）

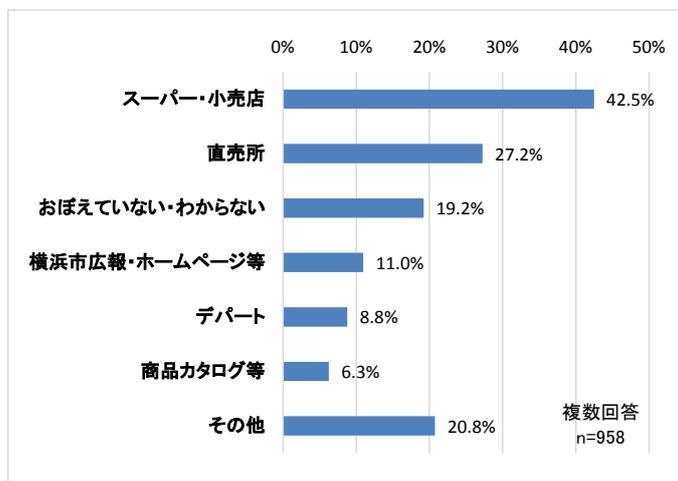
- ・「地産地消」につながるマークを見たことがあるとの回答割合が最も多かったのは「泉区」の62.3%で、以下「緑区」（55.9%）、「瀬谷区」（53.4%）、「栄区」（53.3%）、「戸塚区」（52.9%）、「金沢区」（51.6%）、「青葉区」（51.5%）、「旭区」（49.2%）、「港北区」（46.7%）、「都筑区」（44.6%）が上位10位となっている。最も数値が低かったのは「中区」の34.3%である。

図 居住区別 「地産地消」につながるマークを見たことがあるか



問21 あなたは、どのような場所で、それらのマークを見ましたか。(〇はいくつでも)

- ・「スーパー・小売店」が42.5%で最も多く、半数近くの人が挙げている。次いで「直売所」が27.2%で続く。以下「その他」(20.8%)、「おぼえていない・わからない」(19.2%)、「横浜市広報・ホームページ等」(11.0%)、「デパート」(8.8%)、「商品カタログ等」(6.3%)の順となっている。



■ 年齢別 「地産地消」につながるマークを見た場所 (問21×F1)

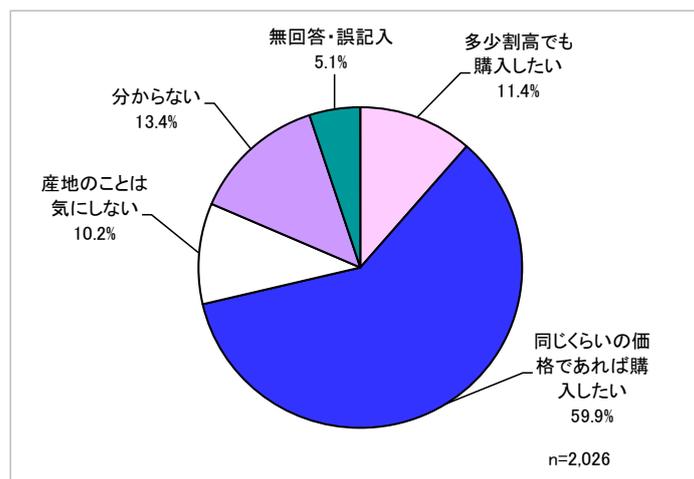
- ・「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」の高齢者世代では「直売所」、それ以外では「スーパー・小売店」が最も多くなっている。
- ・「10～19歳」では「その他」、「50～59歳」では「直売所」、「70～79歳」では「横浜市広報・ホームページ等」、「80歳以上」では「デパート」「横浜市広報・ホームページ等」が全体値に比べて10ポイント以上高い数値となっている。

図 年齢別 「地産地消」につながるマークを見た場所

	合計	直売所	スーパー・小売店	デパート	商品カタログ等	横浜市広報・ホームページ等	おぼえていない・わからない	その他
全体	958	27.2%	42.5%	8.8%	6.3%	11.0%	19.2%	20.8%
0～9歳	101	27.7%	42.6%	5.0%	5.0%	5.9%	14.9%	30.7%
10～19歳	281	13.5%	38.1%	4.3%	6.8%	8.5%	19.6%	37.4%
20～29歳	54	20.4%	59.3%	13.0%	7.4%	3.7%	27.8%	11.1%
30～39歳	103	18.4%	41.7%	6.8%	4.9%	11.7%	27.2%	14.6%
40～49歳	128	32.0%	49.2%	12.5%	7.0%	8.6%	16.4%	18.0%
50～59歳	59	42.4%	55.9%	6.8%	10.2%	16.9%	18.6%	8.5%
60～69歳	59	45.8%	32.2%	15.3%	5.1%	15.3%	16.9%	6.8%
70～79歳	62	46.8%	37.1%	12.9%	6.5%	22.6%	16.1%	1.6%
80歳以上	29	34.5%	27.6%	20.7%	6.9%	27.6%	20.7%	6.9%
無回答	82	40.2%	43.9%	12.2%	3.7%	11.0%	15.9%	8.5%

問22 あなたは、横浜市や神奈川県産の農畜産物・水産物を、購入したいと思いますか。(〇はひとつ)

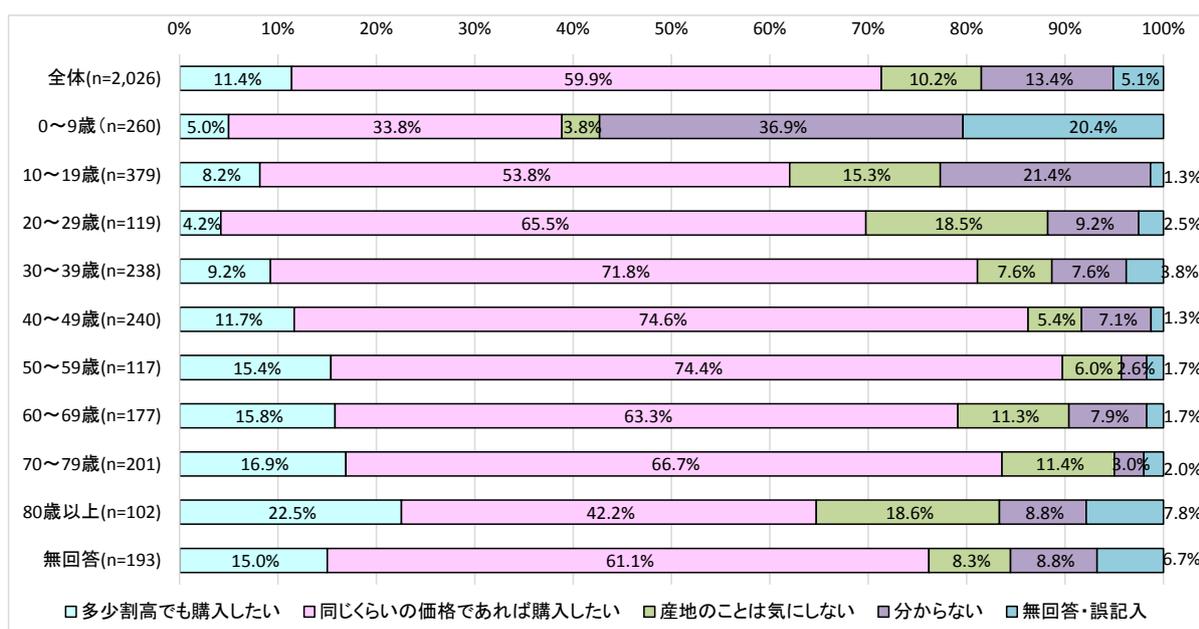
- ・「同じくらいの価格であれば購入したい」が59.9%で最も多く、約6割を占めている。以下「わからない」(13.4%)、「多少割高でも購入したい」(11.4%)、「産地のことは気にしない」(10.2%)の順である。また「同じくらいの価格であれば購入したい」「多少割高でも購入したい」を合わせると71.3%と、7割を超える人が積極的に横浜市や神奈川県産の農畜産物・水産物を購入したいと考えている。



■ 年齢別 横浜市・神奈川県産の農畜産物・水産物の購入意欲 (問22×F1)

- ・「0～9歳」で「わからない」が最も多いのを除き、「同じくらいの価格であれば購入したい」が最も多くなっている。また、「80歳以上」では「多少割高でも購入したい」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高い数値となっている。

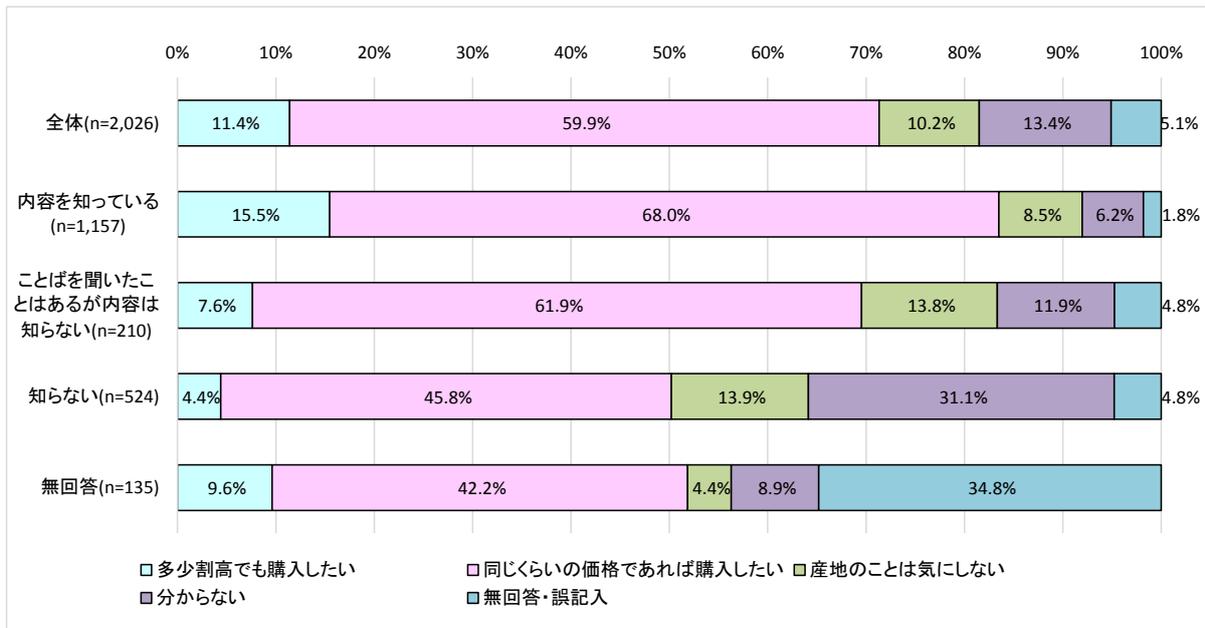
図 年齢別 横浜市・神奈川県産の農畜産物・水産物の購入意欲



■ 「地産地消」の認知度別 横浜市・神奈川県農畜産物・水産物の購入意欲（問22×問19）

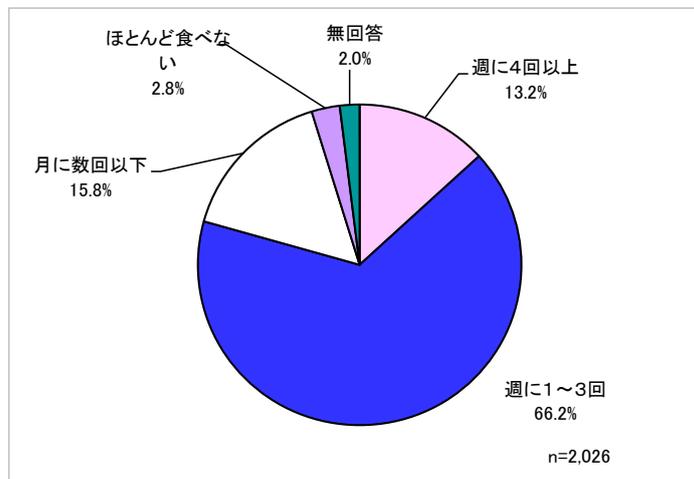
- ・いずれも「同じくらいの価格であれば購入したい」が最も多くなっており、認知度が高いほど数値も高くなっている。
- ・「地産地消」についての認知度が高いほど、「多少割高でも購入したい」の数値が高くなっている。
- ・「知らない」では「わからない」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高く、3割を超えている。

図 「地産地消」の認知度別 横浜市・神奈川県農畜産物・水産物の購入意欲



問23 あなたは魚を、週または月に、何回程度食べますか。(〇はひとつ)

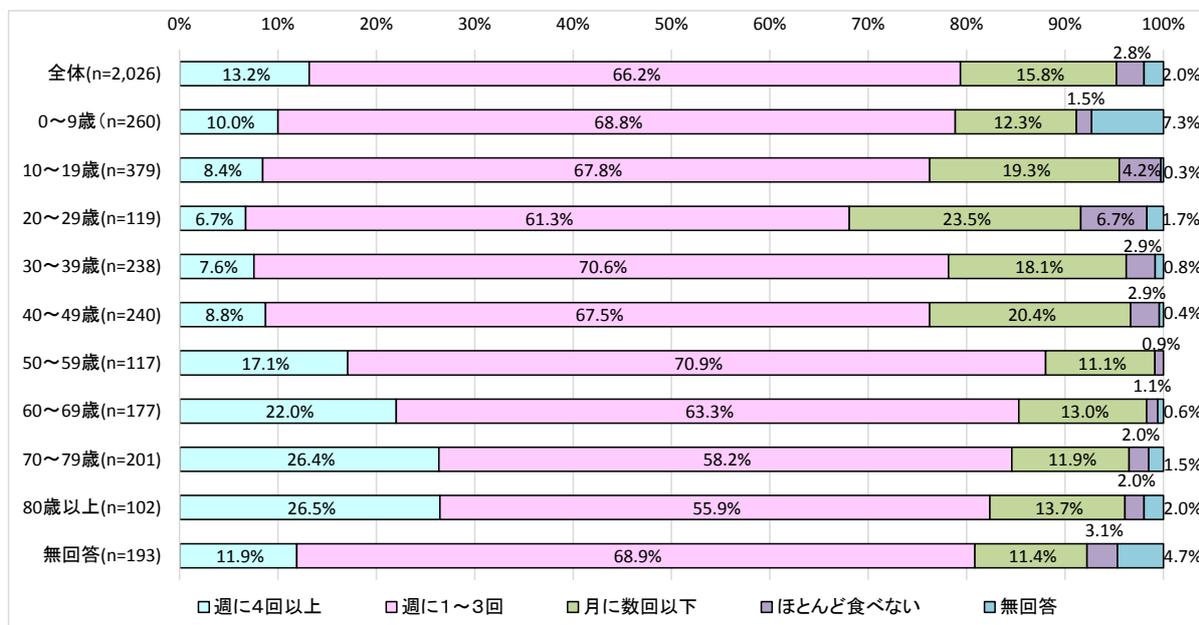
- ・「週に1～3回」が66.2%で最も多い。次いで「月に数回以下」が15.8%である。「週に4回以上」は13.2%で、これと「週に1～3回」を合わせると、8割近くの人が週1回以上魚を食べるとしている。一方「ほとんど食べない」も2.8%存在している。



■ 年齢別 魚を食べる頻度 (問23×F1)

- ・いずれの年代も「週に1～3回」が最も多くなっている。また、「70～79歳」「80歳以上」では「週に4回以上」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高く、高齢者層ほど魚を食べる頻度が高い傾向にある。

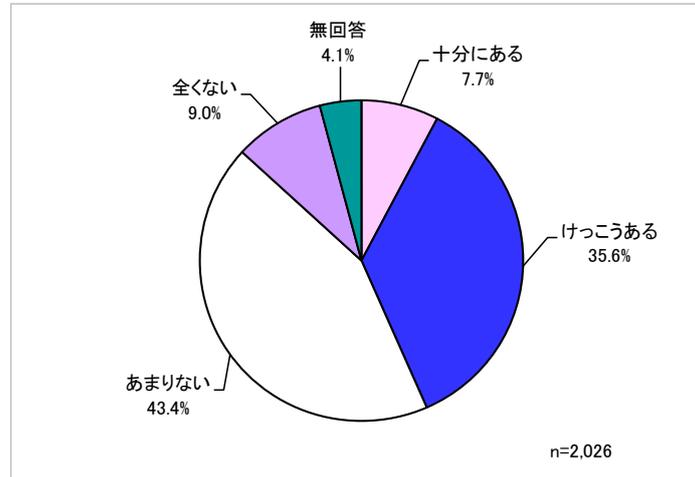
図 年齢別 魚を食べる頻度



4. 食の安全や食に関する情報について

問24 あなたは、どの程度、食品の安全性に関する知識（食品の表示の見方や食中毒菌について等）があると思いますか。（〇はひとつ）

- ・「あまりない」が43.4%で最も多く、「けっこうある」が35.6%でこれに続く。以下「全くない」（9.0%）、「十分にある」（7.7%）と続く。「十分にある」「けっこうある」を合わせると43.4%で、「あまりない」「全くない」を合わせた52.4%より低くなっている。



男女・年齢別 食品の安全性に関する知識（問24×F1）

- ・女性では、「0～9歳」は「全くない」、「10～19歳」から「30～39歳」までの世代では「あまりない」、それ以外の世代はいずれも「けっこうある」が最も多くなっている。また、「80歳以上」では「十分にある」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。
- ・男性では、「0～9歳」は「全くない」、「10～19歳」から「60～69歳」までの世代では「あまりない」、「70～79歳」「80歳以上」では「けっこうある」が最も多くなっている。また、「70～79歳」では「十分にある」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。

図 男女・年齢別 食品の安全性に関する知識 <女性>

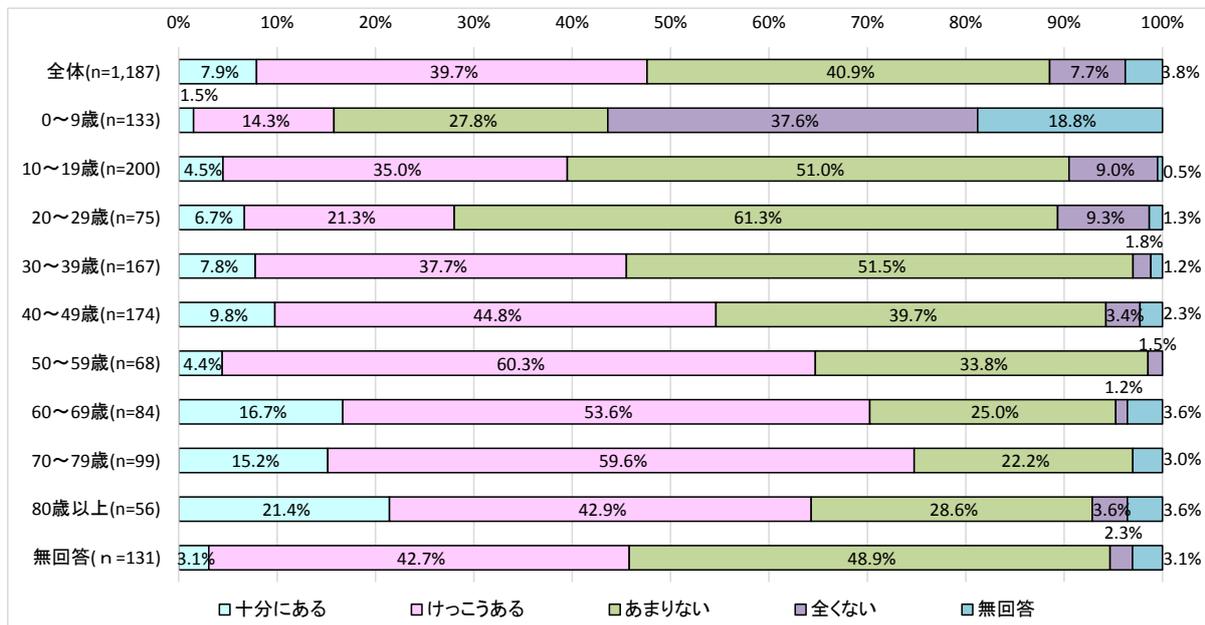
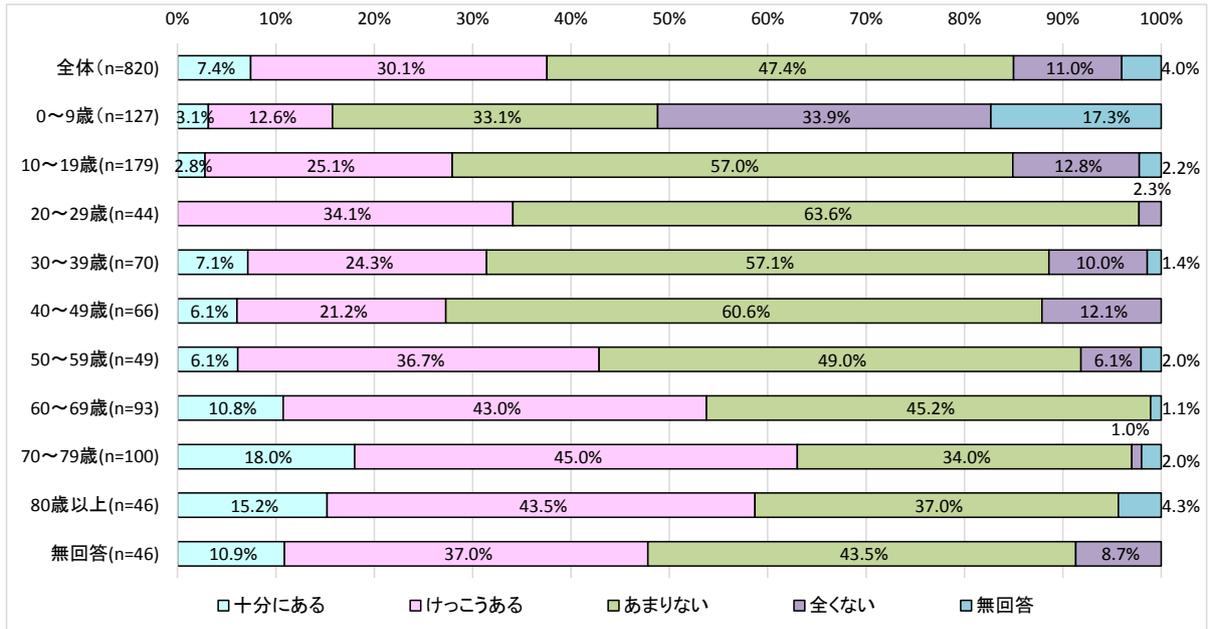
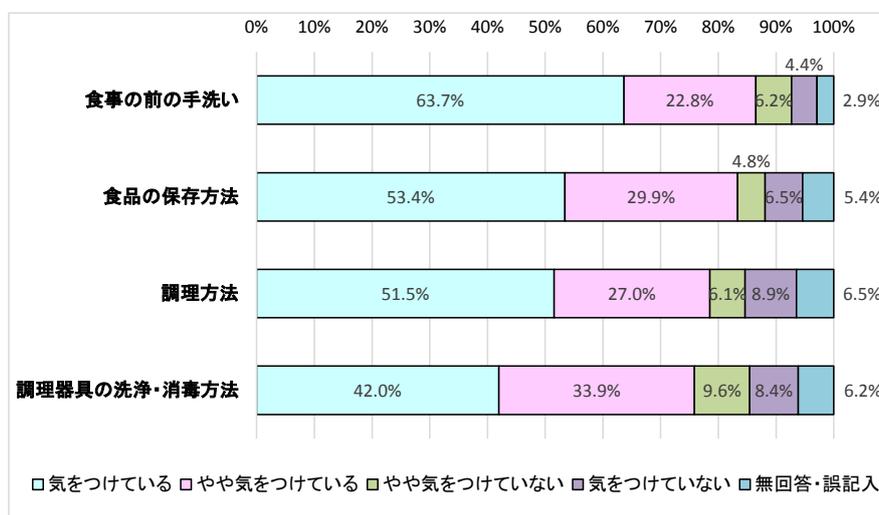


図 男女・年齢別 食品の安全性に関する知識 <男性>



問25 あなたは、食中毒を防ぐために、家庭で次のことに気をつけていますか。

- ・いずれも「気をつけている」が最も多く、特に「食事の手洗い」(63.7%)は6割、「食品の保存方法」(53.4%)では半数を超えている。
- ・「気をつけている」「やや気をつけている」を合わせると、「食事の手洗い」(86.5%)、「食品の保存方法」(83.3%)では8割を超え、「調理方法」(78.5%)、「調理器具の洗浄・消毒方法」(75.9%)でも全体の4分の3以上と、いずれも高い数値となっている。

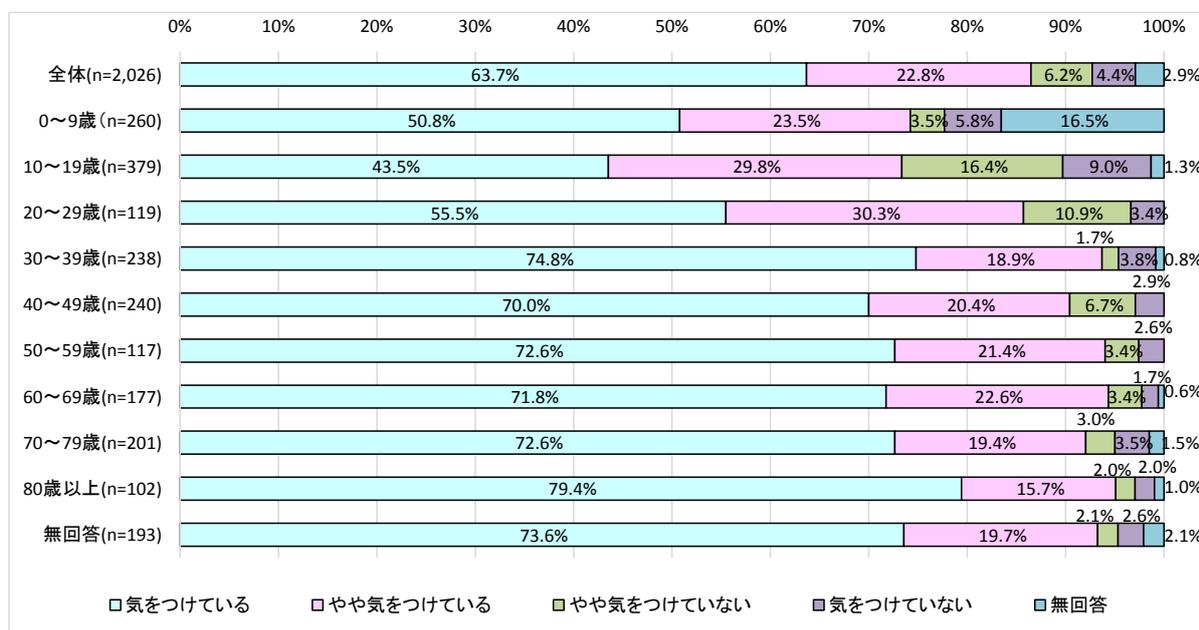


■ 年齢別 食中毒を防ぐために気をつけていること (問25×F1)

1) 食事の手洗い

- ・いずれの世代でも「気をつけている」が最も多くなっているが、「0～9歳」「10～19歳」では数値が低い。また「10～19歳」では「やや気をつけていない」の数値が全体値より10ポイント以上高くなっている。「気をつけている」「やや気をつけている」を合わせると、「30～39歳」より上の世代では9割を超える。

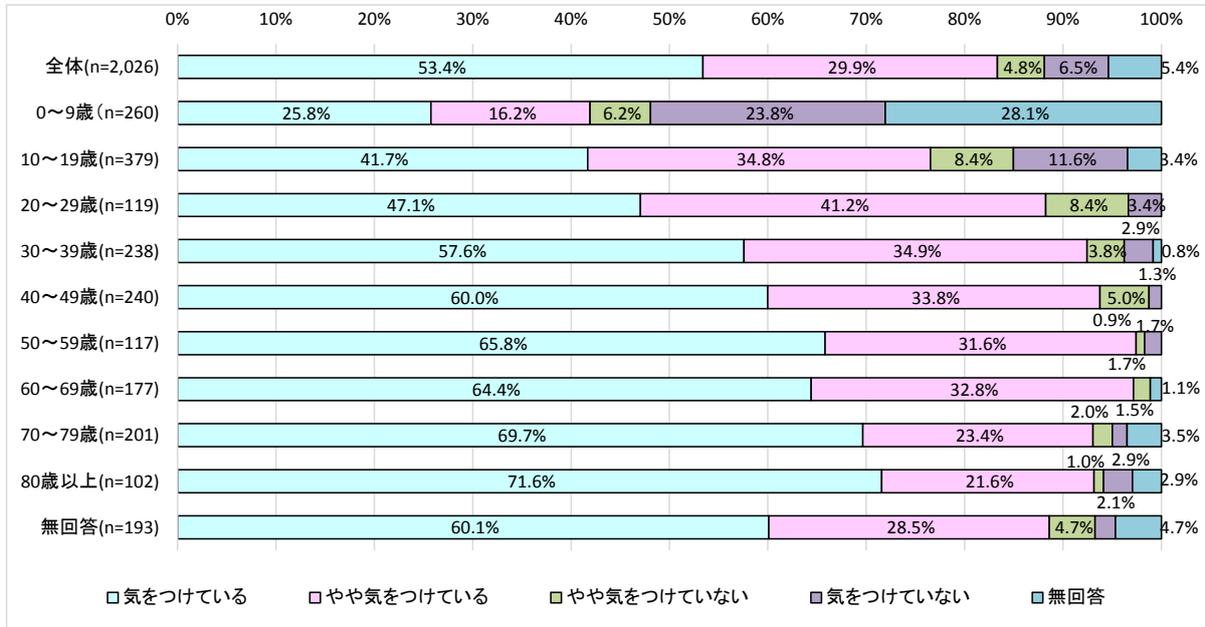
図 年齢別 食事の手洗い



2) 食品の保存方法

- ・いずれの世代も「気をつけている」が最も多くなっている。また「0～9歳」では「気をつけていない」、「20～29歳」では「やや気をつけている」の数値が全体値より10ポイント以上高くなっている。「気をつけている」「やや気をつけている」を合わせると、「30～39歳」より上の世代では9割を超える。

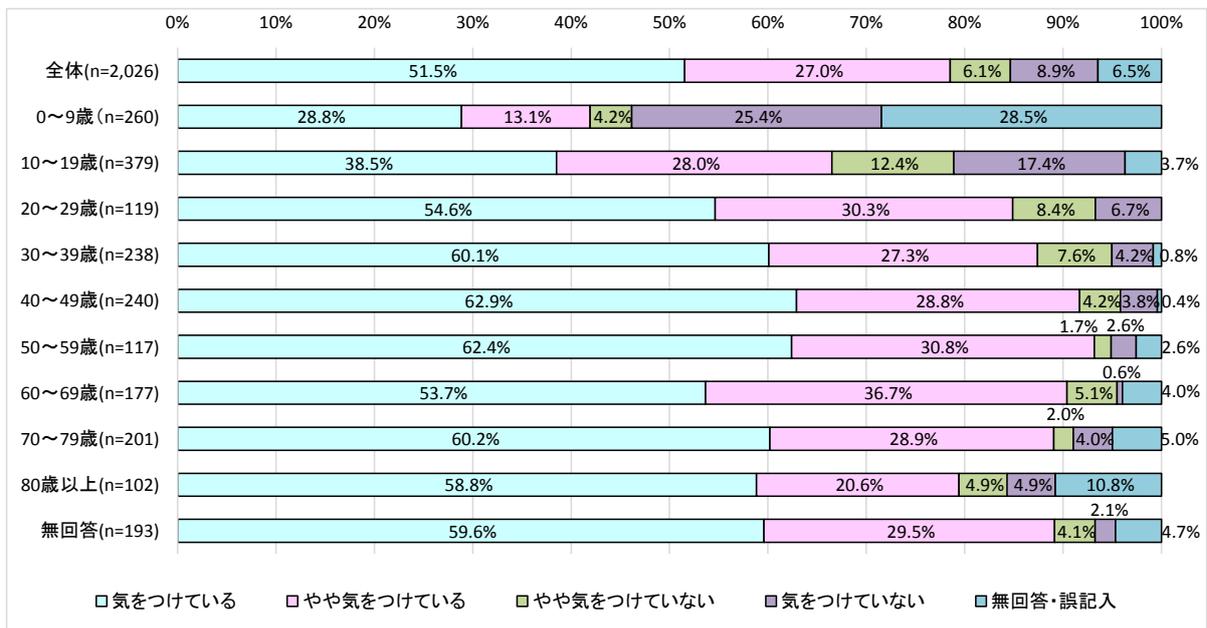
図 年齢別 食品の保存方法



3) 調理方法

- ・いずれの世代でも「気をつけている」が最も多くなっている。また「0～9歳」では「気をつけていない」の数値が全体値に比べて10ポイント以上高くなっている。「気をつけている」「やや気をつけている」を合わせると「40～49歳」「50～59歳」「60～69歳」では9割を超える。

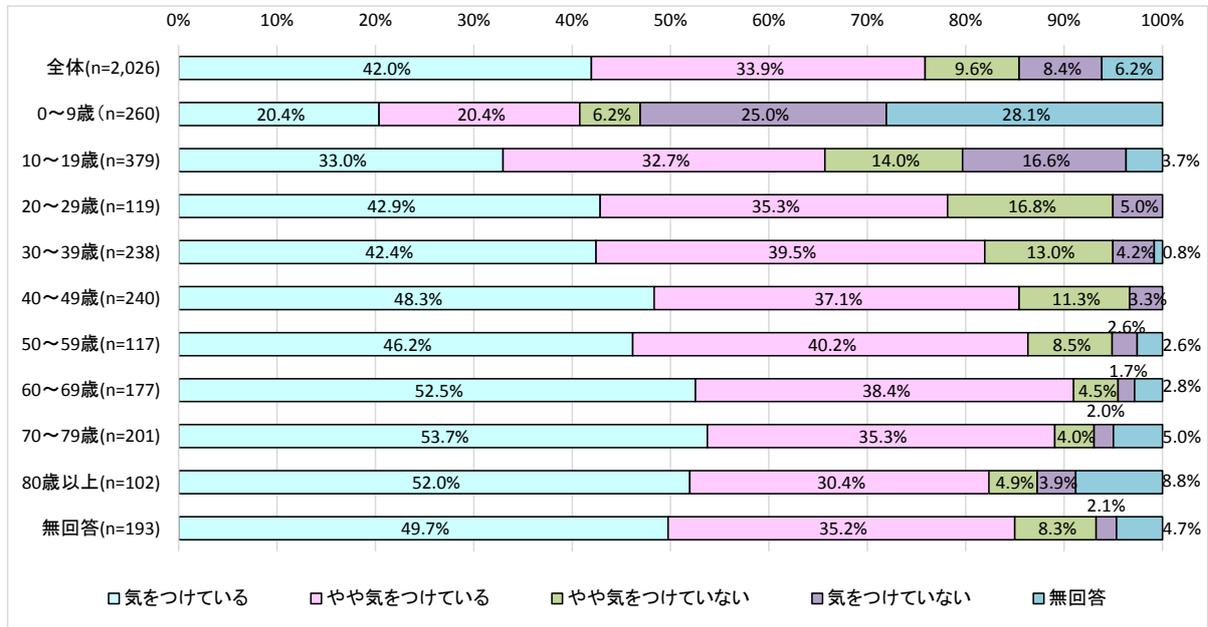
図 年齢別 調理方法



4) 調理器具の洗浄・消毒方法

- ・「0～9歳」で「気をつけていない」、それ以外の世代では「気をつけている」が最も多くなっている。また、「気をつけている」「やや気をつけている」を合わせると「60～69歳」では9割を超える。

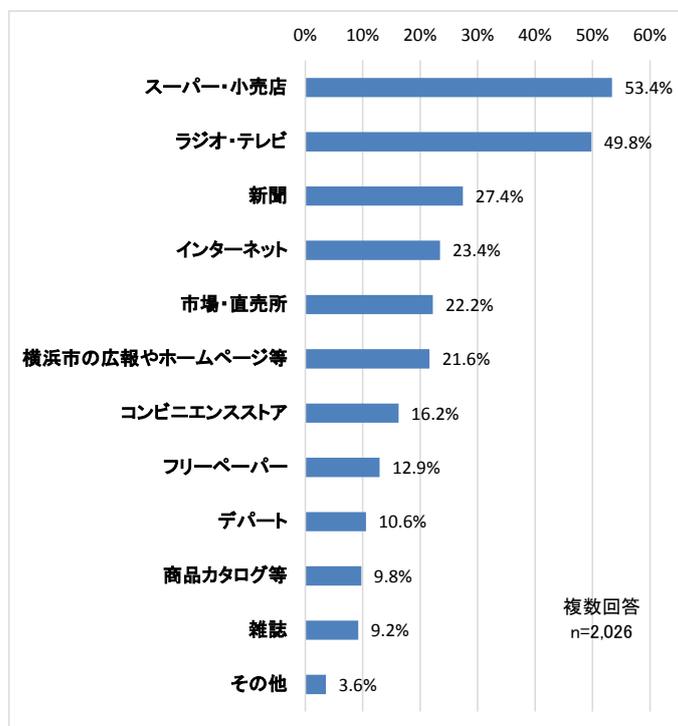
図 年齢別 調理器具の洗浄・消毒方法



問26 あなたは、食や食育について、どのようなメディアから情報を提供してほしいと思いますか。

(〇はいくつでも)

- ・「スーパー・小売店」が53.4%で最も多く、過半数の人が挙げている。次いで「ラジオ・テレビ」が49.8%で、この2点に回答は集中している。以下「新聞」(27.4%)、「インターネット」(23.4%)、「市場・直売所」(22.2%)、「横浜市の広報やホームページ等」(21.6%)などと続く。



■ 年齢別 情報を提供してほしいメディア (問26×F1)

- ・「0～9歳」「10～19歳」と「80歳以上」では「ラジオ・テレビ」、「20～29歳」から「70～79歳」までの世代では「スーパー・小売店」が最も多くなっている。
- ・「60～69歳」で「市場・直売所」、「50～59歳」より上の世代で「新聞」、「20～29歳」「30～39歳」で「インターネット」「60～69歳」から「80歳以上」にかけての世代では「横浜市の広報やホームページ等」が、それぞれ全体値に比べて数値が高く、世代による特徴が表れている。

	合計	市場・直売所	スーパー・小売店	デパート	コンビニエンスストア	商品カタログ等	雑誌	フリーペーパー	新聞	ラジオ・テレビ	インターネット	横浜市の広報やホームページ等	その他
全体	2,026	22.2%	53.4%	10.6%	16.2%	9.8%	9.2%	12.9%	27.4%	49.8%	23.4%	21.6%	3.6%
0～9歳	260	11.9%	30.8%	5.8%	5.8%	3.1%	2.7%	8.5%	7.7%	33.1%	13.5%	8.1%	5.4%
10～19歳	379	14.5%	44.1%	11.1%	20.6%	7.4%	9.2%	11.1%	23.0%	52.8%	29.6%	10.6%	8.4%
20～29歳	119	21.8%	57.1%	15.1%	22.7%	10.9%	18.5%	19.3%	10.9%	52.9%	48.7%	12.6%	2.5%
30～39歳	238	26.1%	60.5%	12.2%	17.2%	7.6%	10.9%	22.7%	17.2%	46.6%	35.7%	16.8%	1.7%
40～49歳	240	25.0%	61.7%	11.3%	17.1%	10.4%	11.3%	20.4%	28.3%	51.3%	29.2%	26.7%	2.5%
50～59歳	117	28.2%	68.4%	8.5%	18.8%	12.0%	13.7%	17.9%	39.3%	59.0%	26.5%	30.8%	3.4%
60～69歳	177	33.3%	59.3%	9.6%	17.5%	12.4%	7.9%	8.5%	53.1%	47.5%	13.0%	35.6%	1.7%
70～79歳	201	28.4%	58.7%	10.4%	13.9%	18.4%	6.0%	3.0%	45.3%	56.7%	6.5%	37.3%	0.5%
80歳以上	102	15.7%	57.8%	11.8%	15.7%	17.6%	4.9%	0.0%	41.2%	63.7%	7.8%	32.4%	3.9%
無回答	193	26.4%	58.5%	11.9%	15.5%	7.8%	11.9%	15.5%	28.0%	48.7%	20.7%	26.4%	1.0%

問27 食や食育について、行政（横浜市）に期待することがありましたら、ご自由にお書きください。

511人から629件の意見がありました。

意見内容	件数	含まれる表現・内容
給食	121	中学校の給食、保育園のおやつ、給食の際の食育、給食の充実、安全な食材の使用
地産地消の推進	118	直売所、商品表示の工夫、直売所の充実、地場産品の宣伝、学校給食に地産地消、地産地消のロゴ周知
安心・安全・安価	105	添加物、外食、冷凍食品、衛生上の注意、放射能、遺伝子組み換え、外国産野菜、農薬、生産地
教育（給食を除く）	87	学校教育、農業体験、親子体験、子どもへの教育、食や食育についての特別授業、食に関する体験（収穫、料理）する機会
広報・宣伝	87	宣伝（地場産品を除く）、食や食育についてのキャッチコピー、広報、イベント、食育パンフレット、県内の漁港の新鮮情報、食品マークの周知
啓発	64	大人への教育、親への教育、子育て家庭への離乳食等の情報提供、講座、レシピ・メニューの紹介、健康に関する啓発、朝食を必ず食べること
農業	19	市民農園、田畑の拡充
その他	28	食品ロス、食事場所の提供、行政に頼らず自分で考えるべき、高齢者用の食事サービス、行政全般の迅速な行動、米や野菜等の自給率向上
合計	629	

食育に関する意識調査(アンケート)

ご協力をお願い

横浜市では、食育基本法（平成 17 年成立）第 18 条に基づく市町村計画として、平成 22 年に横浜市食育推進計画（平成 22 年度～27 年度。以下、「計画」と略す。）を策定し、推進しています。

この計画は、「食」を通して、市民の健康と豊かな人間性を育み、高めることを目的としています。

このたび、この計画で設定している数値目標の達成状況を把握・検証するとともに、第 2 期横浜市食育推進計画（平成 28 年度～32 年度）や食育の取組に、市民の皆様のご意見を反映するため、本調査を行うことにいたしました。

なお、この調査は、市内にお住まいの 5,000 人の方を無作為に選ばせていただき、送付させていただきました。

ご多用のところ大変恐縮ですが、この調査の結果は、食育を推進するための重要な基礎資料といたしますので、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

※**13 歳未満の方**につきましては、保護者又は代理の方がご本人の考えを確認いただき、ご記入いただきますよう、お願いします。設問の中に、ご本人の意向を確認できない、あるいは確認しづらいものがあれば、その設問を飛ばしていただいても構いません。

平成 26 年 11 月

横浜市健康福祉局保健事業課

【調査票記入にあたって】



1 記入の方法

回答は、この調査票に直接ご記入ください。問18・27以外は、あてはまる番号に○印をつけてください。筆記用具は、鉛筆・ボールペンなど、どのようなものでも構いません。

2 アンケートの対象者

封筒のあて名の方（お名前が記載されている方）がアンケートの対象者となっています。

3 アンケート回答者(記入者)

できる限り、アンケート対象者（あて名の方）ご本人がご回答(記入)ください。

ただし、13歳未満の方については、保護者または代理の方にご本人の考えを確認しご記入いただきますよう、お願いします。

なお、回答が困難な設問は飛ばしていただいても構いません。

4 返送の方法

同封の返信用封筒（切手不要）に、ご記入いただいた調査票を入れて、

平成26年11月17日（月）までに投函してください。

5 返送いただいた回答について

アンケートにより、回答者が特定されることはありません。

『「しかくしょうがいとう ちょうさひょう きにゅう こんなん かたがた」
視覚障害等により、調査票への記入が困難な方々へ』

「ちょうさひょう てんじ ろくおん かいとう こんなん たいへんもう わけ」
この調査票は、点字や録音での回答が困難であるため、大変申し訳
「てんじばん ろくおんばん ようい」
ございませんが、点字版や録音版をご用意しておりません。

「きょうりょく ばあい てすう かき と あ さき」
ご協力いただける場合は、お手数ですが下記のお問い合わせ先
「れんらく」
までご連絡ください。

【アンケートの問合せ先】

「かぶしきがいしゃ いきかんきょうけいかく よこはましけんこうふくしきよくほけんじぎょうか ほんちょうさ じむきょく じゆたく」
株式会社地域環境計画（横浜市健康福祉局保健事業課から本調査の事務局を受託）

「でんわ ふあつくす たんとう たなか さとう」
電話 045 (311) 3546 FAX 045 (314) 6720 担当 田中・佐藤

「うけつけじかん どにち しゆくじつ のぞ」
（受付時間：9:00～17:00 土日・祝日を除く）

※保護者の方、またはご本人以外の代理の方がご本人の考えを確認してご記入いただく場合、確認しづらい設問は飛ばしていただいても構いません。

◆参考 横浜市食育推進計画（目標数値一覧）

現状	目標	目標を達成するための数値目標		現状値	数値目標
よく知ろう					
「食事バランスガイド」を参考にしながら、食生活を送っている人は少ない。	生活習慣病予防に重要な食事の栄養バランスの様々な指標に対する関心を高め、理解することによって、より健康的な食生活を営めるようにする。	食事バランスガイド等を参考に食生活を送っている市民の割合		33.9%	70.0%
家庭などでできる簡単な食中毒予防に関する知識が十分に浸透していない。	食品の安全性に関する話題への市民の関心を高め、基礎的な知識を身につけることにより、家庭で発生する食中毒による健康被害を減少させていく。	食品の安全性に関する基礎的な知識をもっている市民の割合 ※1		51.2%	60.0%
これをやってみよう					
横浜産の農畜産物に関するマークや愛称を知っている人が少ない。	「はま菜ちゃん」の認知度を高めることを通して、多くの人が横浜産農畜産物への愛着を持つことができるようにする。	「はま菜ちゃん」を知っている市民の割合 ※1		35.2%	45.0%
地産地消を知らない人は知っている人に比べて、市・県内産農畜水産物の購入意欲が低い。	地産地消という言葉の認知度が高まり、市・県内産農畜水産物の購入意欲が高まる。	地産地消の意味を知っている市民の割合		63.9%	60.0%
はなしあおう					
市・県内産農畜水産物の生産量等が限られる中、学校給食で市・県内産農畜水産物をできるだけ多く使用するようにしている。	市立小学校の学校給食において、市・県内産物を使用する機会を増やすことを通して、小学生の食料自給率への関心の高まりにつなげていく。	市立小学校の学校給食において、市・県内産物を使用する割合		13.8% ※2	20.0%
まいにちやってみよう					
20代・30代男性は、朝食を欠食する人の割合が高い。	より多くの20代・30代男性に、毎日の生活のスタートであり「1日の活力の源」である朝食を食べることの大切さの理解を深め、習慣化につなげていく。	朝食を欠食する市民の割合	20代男性	51.1%	15.0% 以下
			30代男性	45.7%	
1日あたりの野菜の摂取量は十分ではない。	健康に良い野菜のおいしさを実感し、1日の食事の中に、野菜を使ったメニューをもっと増やしていくような啓発を進めていく。	1日あたりの野菜摂取量		271g ※3	350g以上
①食事の栄養バランスの偏りに加え、食生活の乱れが生活習慣病の増加を引き起こしている。 ②いわゆる「孤食（一人で食べる）」の常態化により、食事への関心が薄れ、不規則な食事に陥りがちとなることへの懸念が指摘されている。	生活習慣病予防のために、日々の食事習慣「基本は、1日三食バランスよく」を実践することを心がけるように、啓発を強化していく。	適正体重である市民の割合		70.5% ※3	85.0%以上
※食育推進計画全体に関わるもの					
食育に関心をもっている市民の割合 ※1				65.3%	90.0%

注) ※1・・・0歳以上、それ以外は20歳以上を対象とします。

※2・・・平成25年度学校給食における地場産物の使用状況調査

※3・・・平成21～23年の国民健康・栄養調査。誤差の影響を抑えるためには、一定の対象者数が必要であることから、3年分を集計しています。

◆ふだんの生活についておたずねします。

問1 あなたはふだん（平日）の夜は、何時頃に寝ることが多いですか。（○はひとつ）

- | | | |
|----------------|----------------|--------|
| 1. 午後8時（20時）台 | 4. 午後11時（23時）台 | 7. その他 |
| 2. 午後9時（21時）台 | 5. 午前0時（24時）台 | |
| 3. 午後10時（22時）台 | 6. 午前1時より後 | |

問2 あなたのふだんの睡眠時間は、およそ何時間くらいですか。（○はひとつ）

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 5時間未満 | 3. 6～7時間未満 | 5. 8～9時間未満 |
| 2. 5～6時間未満 | 4. 7～8時間未満 | 6. 9時間以上 |

問3 あなたの健康状態はいかがですか。最近の状況に最も近いものをお答えください。（○はひとつ）

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. 良好である | 4. 良好ではない |
| 2. どちらかというと良好である | 5. どちらともいえない |
| 3. どちらかというと良好ではない | |

◆食事の状況についておたずねします。

問4 あなたは、ふだんの食事の時間が楽しいですか。（○はひとつ）

- | | | | |
|-----------|----------|-------------|------------|
| 1. 非常に楽しい | 2. やや楽しい | 3. あまり楽しくない | 4. 全く楽しくない |
|-----------|----------|-------------|------------|

問5 あなたが、食事に関して困っていることは、どのようなことですか。（○はいくつでも）

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. 特に困っていることはない | 5. 自力で食事ができない |
| 2. 食料品を買いに出かけられない | 6. アレルギー等で、食べられないものが多い |
| 3. 病気・障害等で、食事が作れない | 7. その他（ ） |
| 4. 調理方法がわからない | |

問6 あなたは、日頃の食生活で悩みや不安を感じていますか。（○はひとつ）

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 悩みや不安を感じている | 2. 悩みや不安を感じていない |
|----------------|-----------------|

・問6で「1」に○をつけた方のみご回答ください。

問6-1 悩みや不安を感じているのはどのようなことについてですか。（○はいくつでも）

- | | |
|--------------|------------------------|
| 1. 自分の健康について | 5. 将来の食料供給について |
| 2. 家族の健康について | 6. 食文化の継承について |
| 3. 家計や食費について | 7. 食べ残しや廃棄など環境への影響について |
| 4. 食品の安全について | 8. その他（ ） |

問7 あなたはふだん、朝食・昼食・夕食をどの程度食べていますか。(○はそれぞれひとつずつ)

	ほとんど毎日 食べる	週4～5日程度 食べる	週2～3日程度 食べる	ほとんど食べない
朝食	1	2	3	4
昼食	1	2	3	4
夕食	1	2	3	4

・問7で朝食について、1以外に○をつけた方のみご回答ください。

問7-1 朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。(○はひとつ)

1. 時間がないから	5. 準備するのが面倒だから
2. 食欲がわかないから	6. 以前から食べる習慣がないから
3. 減量(ダイエット)したいから	7. その他()
4. 朝食が用意されていないから	

問8 あなたはふだん食事の際に、習慣にしていることはありますか。(○はいくつでも)

1. 「いただきます」「ごちそうさま」と言う	7. 食事中にテレビをみない
2. 食べ残さない	8. 食事中に新聞、雑誌等をみない
3. 茶わんやおわんを持って食べる	9. 食事中に携帯電話等を使わない
4. はしの持ち方に気をつける	10. 配膳や後片付けをする
5. ひじをつかない	11. その他()
6. 音を立てないように食べる	

問9 あなたの外出の回数は、どの程度ですか。(○はそれぞれひとつずつ)

	ほとんど毎日 外出する	週4～5日程度 外出する	週2～3日程度 外出する	ほとんど 外出しない
朝食	1	2	3	4
昼食	1	2	3	4
夕食	1	2	3	4

・ご家族等と同居されている方におたずねします。ひとり暮らしの方は、問12へお進みください。

問10 あなたはふだん、朝食・夕食を、家族等同居されている方とどの程度一緒に食べていますか。

(○はそれぞれひとつずつ)

	ほとんど毎日 一緒に食べる	週4～5日程度 一緒に食べる	週2～3日程度 一緒に食べる	ほとんど一緒に 食べない
朝食	1	2	3	4
夕食	1	2	3	4

問11 あなたのご家庭では、誰が調理の中心となっていますか。(○はひとつ)

1. 自分が中心となっている	4. 外食や調理済み食品の購入が主なので、 調理をほとんどしていない
2. 自分以外の方が中心となっている	5. その他()
3. 自分も、自分以外の方もほぼ同等にやっ ていることが多い	

・ひとり暮らしの方におたずねします。ご家族と同居されている方は、問13へお進みください。

問12 あなたはふだん、朝食・夕食をどの程度、ご友人などと一緒に食べていますか。

(○はそれぞれひとつずつ)

	ほとんど毎日 一緒に食べる	週4～5日程度 一緒に食べる	週2～3日程度 一緒に食べる	ほとんど一緒に 食べない
朝食	1	2	3	4
夕食	1	2	3	4

◆食育についておたずねします。

国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむことができるようにするため、平成17年7月に「食育基本法」が施行されました。

食育基本法の中では、「食育」を、

① 生きる上での基本であって、知育、徳育および体育の基礎となるべきもの

② 様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること

と位置づけています。

問13 あなたは「食育」という言葉やその意味を知っていますか。(○はひとつ)

- | | | |
|----------------|--------------------------|-------------------|
| 1. 言葉も意味も知っている | 2. 言葉は知っているが、
意味は知らない | 3. 言葉も意味も
知らない |
|----------------|--------------------------|-------------------|

問14 あなたは「食育」に関心がありますか。(○はひとつ)

- | | | | |
|----------|----------------------|----------------------|----------|
| 1. 関心がある | 2. どちらかといえば
関心がある | 3. どちらかといえば
関心がない | 4. 関心がない |
|----------|----------------------|----------------------|----------|

問15 あなたは、次の、横浜市の食育推進ロゴマークを知っていますか。(○はひとつ)



【横浜市食育推進ロゴマーク】

このロゴマークは、「親しい人と笑顔で楽しく食事する姿」を表現しています。

- | | | |
|----------|-------------------------|---------|
| 1. 知っている | 2. 見たことはあるが、
名前は知らない | 3. 知らない |
|----------|-------------------------|---------|

問16 あなたは次の「食育」に関する項目にどの程度関心がありますか。(○はそれぞれひとつずつ)

	関心があり 継続して できている	関心があり 行動している が、継続でき ていない	関心はある が、行動し ていない	関心が ない
毎日3食、バランスよく食べること	1	2	3	4
食にまつわる地域文化や伝統を知ること	1	2	3	4
食中毒、産地偽装など、食品の安全確保	1	2	3	4
自給率、食料品等の輸入について	1	2	3	4
栄養や食事の作り方等を知ること	1	2	3	4
生産者との交流や生産の場を知ること	1	2	3	4
地場産物を購入すること	1	2	3	4
市民農園などで農作業を体験すること	1	2	3	4
食べ残しや食品廃棄物の問題について	1	2	3	4
食卓を囲んでの家族・友人等との団らん	1	2	3	4
家族と食事を作ること	1	2	3	4
食事のマナー・作法について	1	2	3	4
よく噛んで味わって食べること	1	2	3	4
その他 ()	1	2	3	4

問17 あなたは、健康的な食生活を実践するため参考にしている指針等がありますか。(○はひとつ)

1. 参考にしているものがある	2. 特に参考にしていない → 問18へ
-----------------	----------------------

・問17で「1」に○をつけた方のみご回答ください。

問17-1 あなたは、どのような指針等を参考にしていますか。(○は3つまで)

1. 食事バランスガイド	4. 6つの基礎食品群
2. 食生活指針	5. 3色食品群
3. 日本人の食事摂取基準	6. その他 ()

- 「食事バランスガイド」: 「何を」「どれだけ」食べたらよいかをわかりやすくコマで示したもの
- 「食生活指針」: 望ましい食生活を実践するための指針(例: 「主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを」「食塩や脂肪は控えめに」)
- 「日本人の食事摂取基準」: 1日に必要なエネルギーや栄養素の摂取量の目安を示したもの(例: 食塩摂取目標量「男性8.0g/日未満」「女性7.0g/日未満」)
- 「6つの基礎食品群」: 栄養成分の類似している食品を六群に分類したもの
- 「3色食品群」: 栄養素の特徴により、食品を3つに分けて示したもの

問18 あなたが、横浜らしい「食べ物」や「料理」と思うものは何ですか。

1つだけ、ご自由にお書きください。

地産地消とは、「地域生産、地域消費」の略語であり、「その土地でとれたものを、その土地で消費すること」を言います。

問19 あなたは「地産地消」とは何か知っていましたか。(○はひとつ)

- | | |
|-------------------------|---------|
| 1. 内容を知っている | 3. 知らない |
| 2. ことばを聞いたことはあるが内容は知らない | |

問20 あなたは、「地産地消」につながる以下のマークを見たことがありますか。(○はいくつでも)

1. 	3. 	5. 
2. 	4. 	6. いずれも見たことはない →問22へ

・問20の1から5のマークを見たことがある方におたずねします。

問21 あなたは、どのような場所で、それらのマークを見ましたか。(○はいくつでも)

- | | | |
|-------------|------------------|------------------|
| 1. 直売所 | 4. 商品カタログ等 | 6. おぼえていない・わからない |
| 2. スーパー・小売店 | 5. 横浜市広報・ホームページ等 | 7. その他 () |
| 3. デパート | | |

問22 あなたは、横浜市や神奈川県産の農畜産物・水産物を、購入したいと思いますか。

(○はひとつ)

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1. 多少割高でも購入したい | 3. 産地のことは気にしない |
| 2. 同じくらいの価格であれば購入したい | 4. わからない |

問23 あなたは魚を、週または月に、何回程度食べますか。(○はひとつ)

週に4回以上	週に1～3回	月に数回以下	ほとんど食べない
1	2	3	4

◆食の安全や食に関する情報についておたずねします。

問24 あなたは、どの程度、食品の安全性に関する知識（食品の表示の見方や食中毒菌について等）があると思いますか。(○はひとつ)

1. 十分にある	3. あまりない
2. けっこうある	4. 全くない

問25 あなたは、食中毒を防ぐために、家庭で次のことに気をつけていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	気をつけている	やや気をつけている	やや気をつけていない	気をつけていない
食事の前の手洗い	1	2	3	4
食品の保存方法	1	2	3	4
調理方法	1	2	3	4
調理器具の洗浄・消毒方法	1	2	3	4

問26 あなたは、食や食育について、どのようなメディアから情報を提供してほしいと思いますか。

(○はいくつでも)

1. 市場・直売所	5. 商品カタログ等	9. ラジオ・テレビ
2. スーパー・小売店	6. 雑誌	10. インターネット
3. デパート	7. フリーペーパー	11. 横浜市の広報やホームページ等
4. コンビニエンスストア	8. 新聞	12. その他

問27 食や食育について、行政（横浜市）に期待することがありましたら、ご自由にお書きください。

